



で後松平氏五萬三千石の城下として榮え、今人口三萬二千人を有す。信州に於ける養蠶、機織業の中心を爲し、蠶糸専門學校あり、蠶種及蠶卵紙の取引盛んに上田綿を産する。關ヶ原の役に眞田氏が秀忠の西下を阻止した上田城址は西北九丁、自動車廿錢、國分寺は東廿丁、自動車廿五錢、國幣中社生島足島神社は西南一里廿丁、電車十七錢、市の近郊より松井を産する。旅館觀水亭、都筑、上村、名物みすゞ餅 ▼別所温泉、西南二里二十四丁 電車三十三錢、自動車六十錢、附近の安樂寺の八角四重塔は天下一品の稱あり特別保護建造物になつてゐる。旅館柏屋、花屋 ▼田澤温泉、西南四里、電車三十三錢、青木迄自動車一圓、青木より俵五十錢、旅館ます屋、たまり屋 ▼香掛温泉、西南三里、自動車七十錢、旅館おもとや 【戸倉】(とくら) 五九哩七 ▼戸倉温泉、西南十五丁、自動車廿五錢、馬車九錢、旅館戸倉ホテル、俵屋 ▼上山田温泉、西南十五丁、自動車三十錢、馬車九錢、旅館三好屋、萩原 【屜代】(やしろ) 河東鐵道分岐點 ▼武水別神社 西南三十二丁、自動車五十錢、馬車廿五錢 ▼河東鐵道沿線、此鐵道は屋代から千曲川の東邊を走りて松代、須坂を経て信州中野に至る二三哩三分、賃金並一圓五錢、特一圓五十八錢。其岩野停留場の東には川中島合戦の折證信が本陣を置いた妻女山が聳えて居る。松代は川中島の首邑で眞田氏十萬石の城下、佐久間象山の生れた處、海津城址や象山の雅號に因める象山など見るべきものである。白根山の西麓にある山田温泉へは須坂より三里、自動車一圓三十五錢、馬車六十錢(旅館湯本館、風景館)、山田から七味温泉へ三里半、萬座の高山温泉へ五里三十丁である。終點信州中野は中野温泉所在地(旅館中野館、越後屋)で平穩諸温泉の門戸である ▼平穩諸温泉、中野から東南一里十丁乃至四里の間に湯田中、安代、澁、上林、地獄谷、發咄及角間の諸温泉が散在して居る、多く平穩温泉と云つて居たが、近來山之内温泉と改めた。従來豊野驛から入ることとなつて居たが、屋代からの河東鐵道が中野まで通じた今日では、東京方面からは屋代から入るが便利で



ある。中野から湯田川、安代、澁へ自動車八十錢、馬車は湯田中三十二錢安代四十錢、澁四十五錢、上林は澁から十丁、角間は同十二丁、地獄谷は同廿丁、發咄は同二里を隔て、居る。附近には地獄谷の噴氣孔、淵瀧、廣業寺、琵琶池、利合橋、温泉寺の勝あり、この温泉に巡浴して澁峠を越えて草津に出る七里の草鞋旅は白根登山を兼ねて興が多い。温泉旅館湯田中には大見崎、古久屋。安代には塵表閣、山口屋、萬屋、澁には金具屋、つばたや、山本館、上林には塵表閣、上林ホテル、角間には越後屋、山本屋、發咄には寧靜館、湯本館 【篠ノ井】(しののゑ) 六六哩 上野より約七時間、篠ノ井線接續點、驛は千曲川、犀川の中洲なる川中島の中央に在り、横山、不識庵の古戰場は東北一里餘の處、茶白山、妻女山の當時の陣營の跡は今尙相對してゐる。武田信繁、山本勘助の墓は共に東方一里半餘の處にある 【川中島】(かはなかじま) 驛附近一帶の地は川中島の古戰場で、諸角豊後守の墓は東廿五丁、八幡原甲越兩將直戦地は東一里にある 【長野】(ながの) 七一哩八分上野より六時間餘、飯田町より十三時間、名古屋より約九時間、海内著名の靈利善光寺あるが爲に發展した街で伊勢の神都に擬して勅に佛都と唱へてゐる、今人口六萬三千人を有し、陶土、杞柳木通細工、蕎麥、林檎、麻糸、繅詰、干杏、杏羊羹等を産する。旅館藤屋、犀北館、花房屋、▼善光寺、北十九丁、自動車四十五錢、俵三十八錢、大峯山の南麓にあり、南面して市街を俯瞰して居る、天台、淨土二宗の僧尼が奉仕し、大勧進と大本願とに分れてゐる。本尊は一光三尊佛と稱せらる、圓淨檀金の阿彌陀如來で、一尺五寸の靈像である、抑此像は本邦に渡來した最初の佛像で、難波の堀江に投ぜられたのを本田善光が拾上げて安置したと傳へらる、日本文明史上に重大な關係のある本尊である。今の堂宇は元祿年間の建築にかゝり本門、仁王門の後に巍然として聳ゆる山門がある、山門の後は本堂で高さ十丈、二重屋根檜木造り、柱數百三十六、垂木六萬九千三百八十四、以て法華經の字數に准へてある。階段を四方に設け正面の板敷には大香爐を置き、

其右脇に太鼓、左脇に花瓶あり、花瓶には常に松を挿んである、これを親鸞上人手活の松と云ふ。堂の中央一段高い處は内陣で、其西方に本尊を安置し、厨子の前に錦繡を垂れ、朝夕の開帳も只僅に戸帳を揚ぐるばかりで世に秘佛と云つてゐる。賽者は四時繰るが如く雑沓を極むる様、恰も歐洲中世のビルグリムが聖地エルサレムに巡禮すると異なるなく、人荷も生をうけて此寺に詣でなければ、彌陀の淨土に至つて其光明に浴する事が出来ぬと信じてゐる。本堂の内佛像の後から戒壇廻りが出来る、暗黒なる隧道の内に鍵があつて此鍵に觸るゝことが出来ねば極樂淨土に入る事が出来ないといはれ、歩毎に南無阿彌陀佛の低唱衰れに如來の來迎を冀ふのである。境内は今公園となり其東に續いて城山公園がある城山の中腹には城山館があり、善光寺平一帯を下瞰して風光がよい。▼往生寺、北西二十八丁、俵四十錢、加藤重氏の遺跡。▼刈菅堂、北西五丁、善光寺に行く途中である、自動車十錢、▼戸隠山、北西四里三十丁、柏原驛より登山、歸路長野に出るが宜い。

長野市は長野縣廳所在地で、縣は曾邊國を管轄して居る。西境には飛騨山脈高く聳入、南部には木曾、赤石山の山脈高く連り、東境には白根、淺間の活火山あり、中央には富士火山脈連なり、此等山地の間には谷狀の盆地あり、其間を千曲川、天龍川、木曾川の大河が流れて居る。縣下は潤る處多し、上田、松本は湖の集敷地として聞え、體訪湖畔の岡谷には製糸所多く、縣下の生絲産額は全國に冠絶して居る。縣の西南部の木曾谷には有名なる森林あり、木曾五木の名風に聞え、福島此地方の中心地となつて居る。

滿の主要産地

野	八六九、三三三石	愛	五六、六〇三、七四八圓
知	四六五、三三五石	野	三一、八三八、一七七圓
馬	四四七、九八八石	馬	二五、〇三〇、〇八三圓
早	三三八、八二一石	早	二二、八五二、六五八圓
玉	三三七、四四〇石	玉	一八、四九九、七八一圓
重	二四七、四四〇石	重	一六、二二一、五八三圓
全	六、三三三、七八〇石	全	四〇九、一七七、四〇一圓

(大正十年)

蠶絲の主要産地

野	一五一、七九九、六六三圓	愛	六〇、八九〇、七五四圓
馬	四六、〇三三、三六〇圓	馬	二八、四二五、四九九圓
玉	二七、四七四、一一一圓	玉	六〇、八、六九四、六二二圓

(大正十年)

器械製絲の主要産地

野	一四七、五七七、九八七圓	愛	四四、七〇一、二四二圓
馬	三四、一四一、〇一〇圓	馬	二五、五〇九、五〇五圓
玉	二四、八五三、五七二圓	玉	五三、二、四〇四、六二二圓

(大正十年)

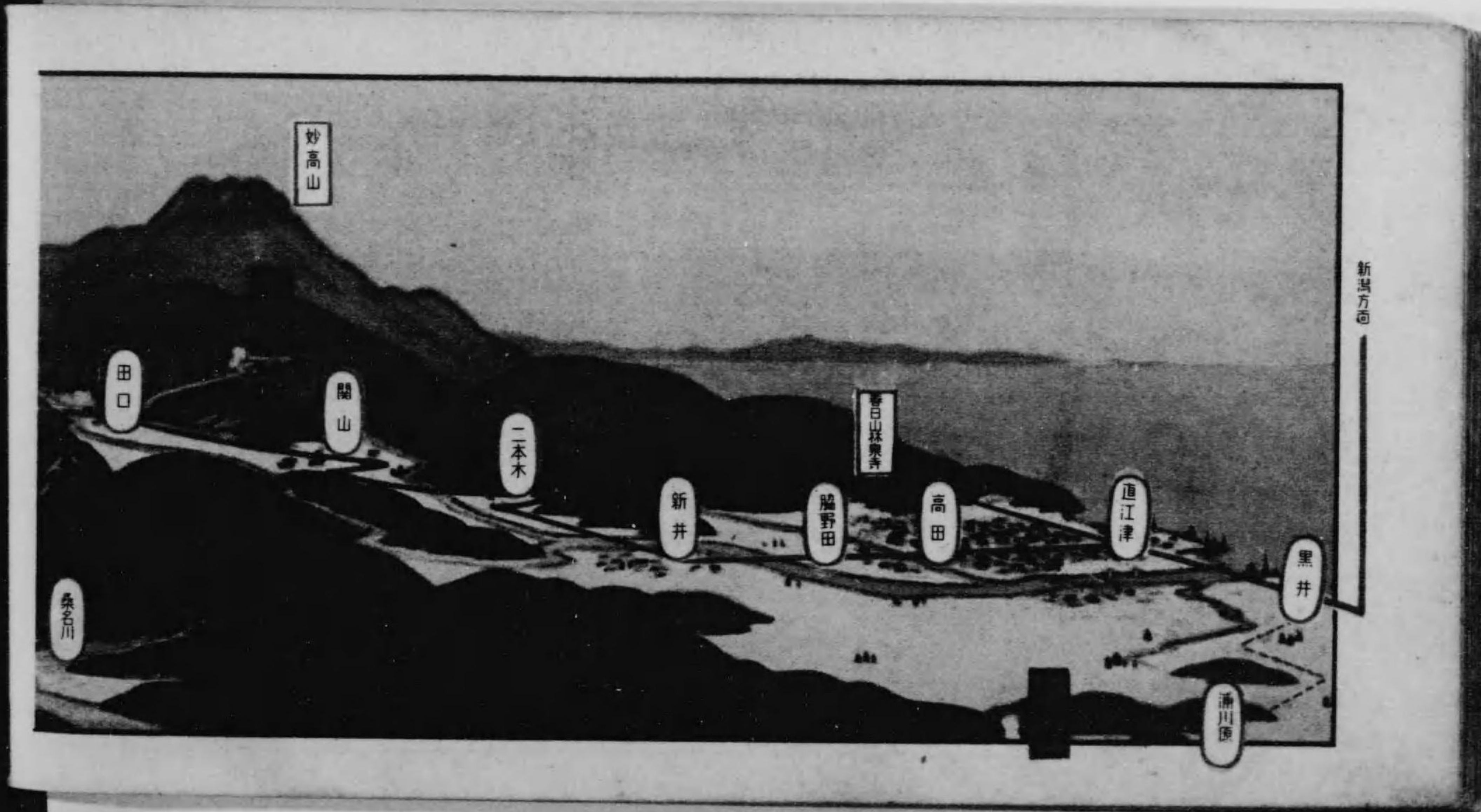
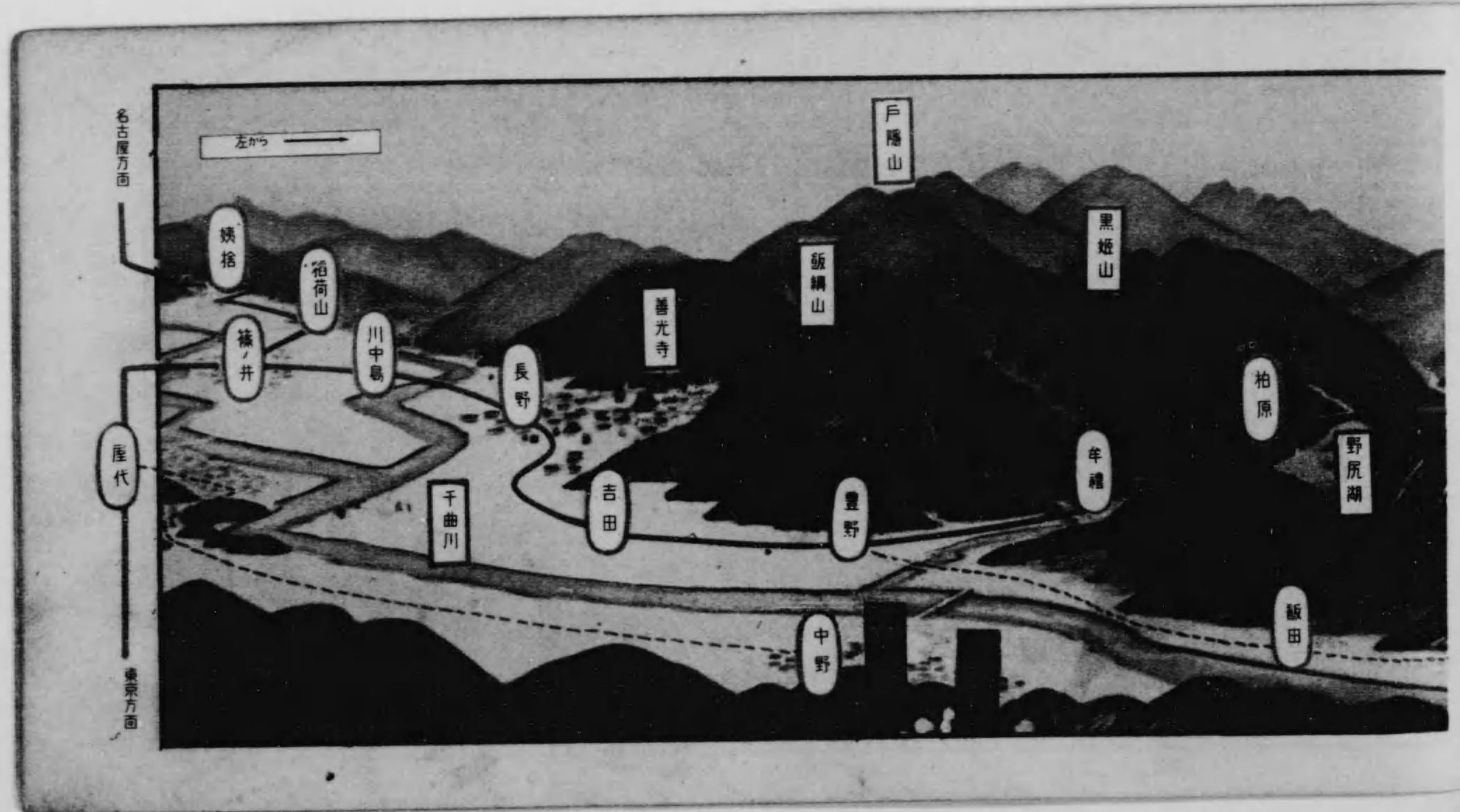
乾柿の主要産地

野	三四九、五二七圓	京	一一〇、二五八圓
---	----------	---	----------

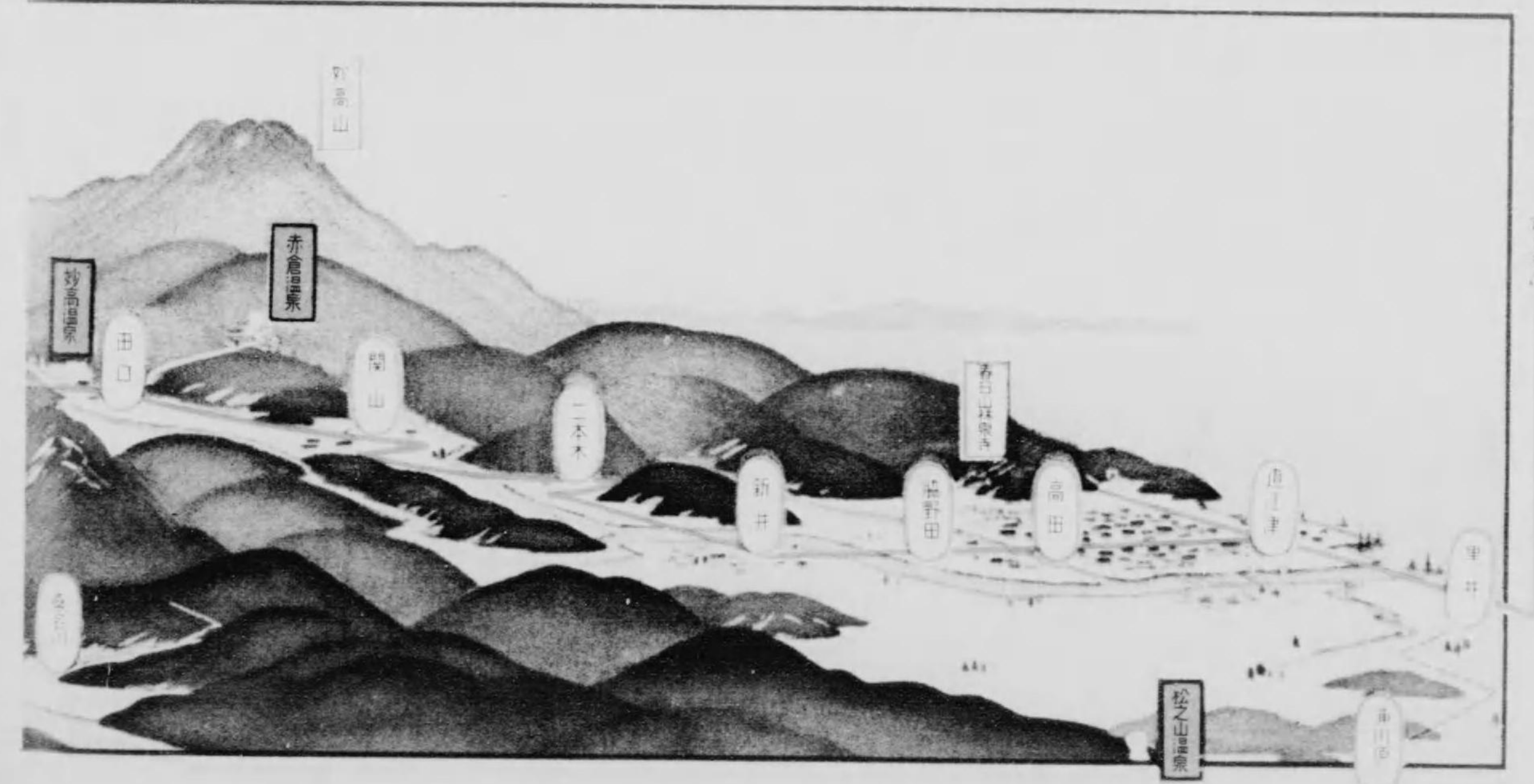
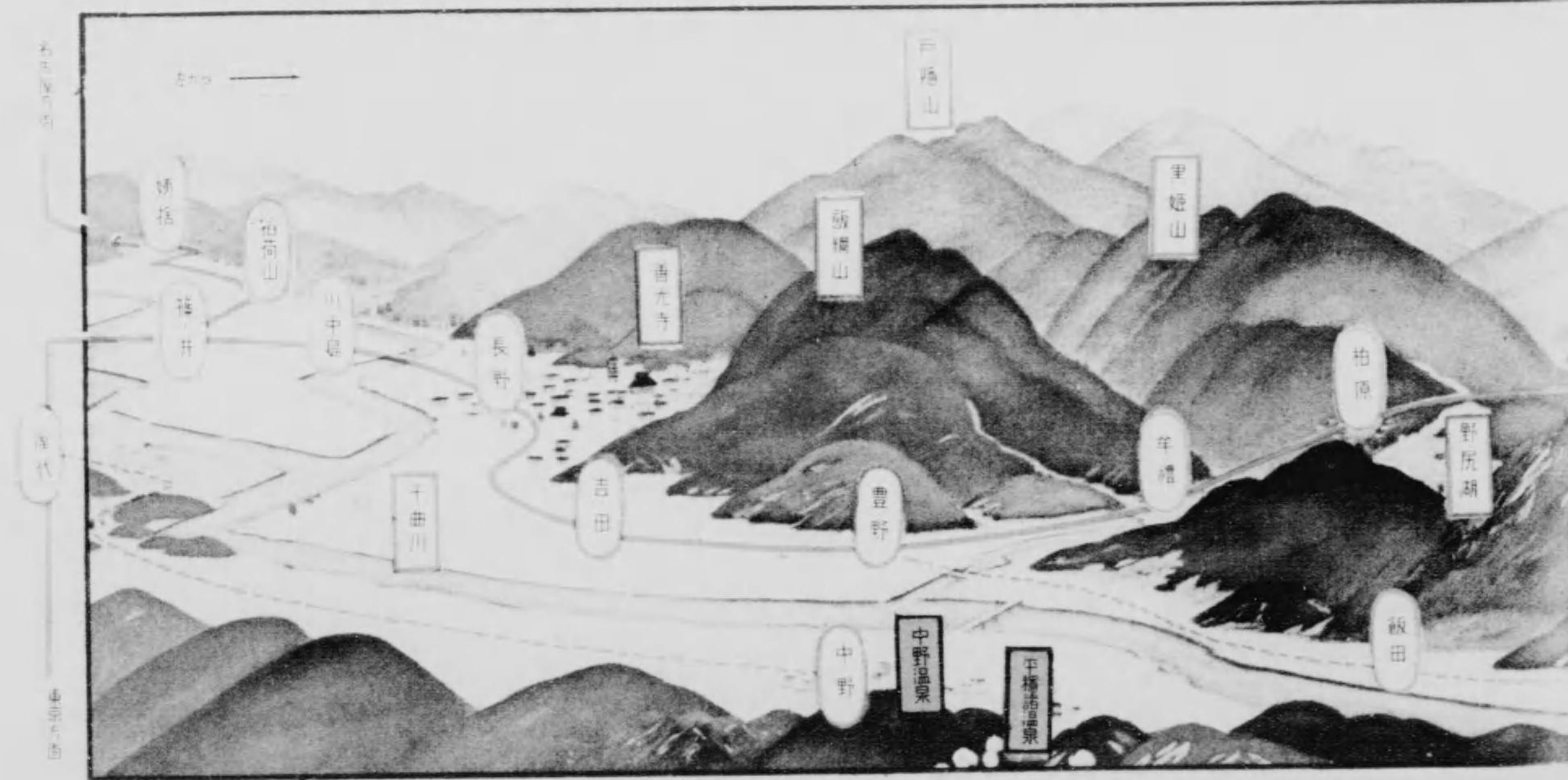
【長野】(ミよの) 七八哩五 飯山鐵道分岐點 ▼平穩山之内諸温泉

この方面から平穩の諸温泉及中野温泉に行く人の下車地、中野は東北二里半、自動車一圓二十錢、馬車五十五錢、湯田中は東北四里二十三丁、安代、湯田中より十丁餘、驛から上記三温泉へ自動車二圓、馬車九十錢、俵二圓五十錢、記事屋代驛参照 ▼山田温泉、東南四里、馬車一圓五十錢、俵二圓五十錢 ▼飯山鐵道沿線、此鐵道は豊野から千曲川の西邊を走り、飯山、上境を経て桑名川に至る二三哩四分、賃金一圓六錢、淺野の近くには鷲岡山の勝があり、飯山は本多氏二萬石の舊城下で千曲川の岸邊に飯山城址あり、スキー地としても知られて來た。野澤温泉は飯山から四里、自動車二圓、上境驛からは徒歩三十分で行かれる。旅館御屋住吉屋 【柏原】(かしははら) ▼野尻湖、北一里、自動車五十五錢 周圍三里、湖を繞る翠濤湖上に映じて風光が佳い、避暑地である 旅館小松屋、野尻館 ▼黒姫山、登路二里、海拔六千五百五十尺 山勢孤圓にして秀抜である ▼戸隠山、西四里二十五丁、途中地震瀧の勝あり、山麓まで駄馬賃三圓、山は普通戸隠表山と云ひ、別に五地蔵岳、高妻山、乙妻山の裏山あり、山勢雄偉、男體の秀麗と妙義の奇峭とを兼ね、加ふるに地的變遷の勝と幾多の奇草とがある、山中國幣小社戸隠神社あり、又平維茂が鬼女を退治した紅葉の岩窟も荒倉山の麓にある。案内者は表山のみで二圓、裏山にかけて四圓、旅舎舊院坊の變形したもので、中社に十八軒、賣光社に十四軒ある 【田口】(たぐち) 九五哩 ▼妙高温泉、西南七丁 自動車五十錢、附近にスキー練習場があり、十二月上旬より三月下旬迄妙高温泉分湯會社内に妙高スキー俱樂部を置く、旅館加島屋、石田館 ▼赤倉温泉、北一里二十七丁、俵一圓七十錢、自動車一圓八十錢、妙高山腹海拔二千五百尺の地で客窓日本海の蒼波を望む、附近はスキーの好適地で、十二月上旬より四月上旬迄滑を望む、初心者には赤倉ホテルで指導する。旅館香嶽樓、香雲館、赤倉ホテル村越、高田屋 ▼妙高山、赤倉温泉より絶頂迄三里、七時間で上下する事が出来る、山は海拔八千七十二尺、勘名、赤

露光量違いの為重複撮影



露光量違いの為重複撮影





倉の兩山が其翼をなして居る、頂上には阿彌陀堂があり、富士、淺間、八ヶ嶽、白根、戸隠の高峯、佐渡ヶ島など眼界に入る。健脚の人は頂上から更に裏山に入り、露路六堂の池に下り、北地獄の硫氣孔を見るが宜い。【關山】(せきやま) ▼關温泉、西南一里廿三丁、夏期自動車二圓、温泉附近スキー練習場あり、十二月上旬より四月上旬迄がよい、旅館笹屋、中村屋 ▼蒸温泉、西南二里十丁、關温泉より二十三丁、温泉附近にスキー練習場あり、十二月上旬より四月上旬迄がよい、旅館中村屋、笹屋 【新井】(あらゐ) ▼新井御坊、北八丁 【高田】(たかた) 一一三哩七 礪原氏十五萬石の舊城市で今人口三萬人を有する、有名な積雪地で晩冬の候は市街は丈餘の堆雪に埋れる、昔は「此下に高田あり」の傍示を立てたとき、いふ、従つてスキーの好適地で西廿丁の金谷山の如きは十二月下旬より三月下旬に至る間は爽快なる練習振を發揮するのを見る、高田城址は東南十五丁、今十三師團司令部が置かれてある、俵四十三錢、所謂稻田禪坊の淨興寺は南西八丁、東本願寺別院は同十一丁、俵何れも廿五錢、岩の原葡萄酒は東三里半、自動車一圓、二十餘町歩に三百五十種類七萬餘株あり、菊水葡萄酒を醸造する、高田旅館高田館、いばらきや、名産毛拔、笹船、栗船 【直江津】(なほえつ) 一一七哩八 北陸本線接続點、上野より約九時間、荒川の吐口にあり、北越の要津で直に日本海に枕んでゐる、佐渡の小木へ汽船便あり、四時間で行かれる、賃金三等一圓六十六錢、二等二圓五十三錢、旅館いかや ▼直江津海水浴場、西八丁、旅館つたや、山崎屋 ▼五智國分寺、西十五丁俵四十錢、今往古の壯麗は無いが三重塔、經藏、仁王門等を存する ▼小丸山西本願寺別院、西十七丁、親覺上人配流の地として門徒の崇敬する處である ▼春日山城址、林泉寺、西南一里、自動車賃切四圓、俵山麓七十錢、高田驛よりは西一里半、俵一圓、これ當年不譚庵の據つて天下を睥睨した處、馳望爽快洵に要害の衝である、山麓の林泉寺は長尾家累代の菩提所で謙信幼時の學修所である、寺寶「春日山」「第一義」の額は謙信の自筆で、謙信の

自畫像にも大英雄の面目髣髴としてゐる 【黒井】(くろゐ) 一一九哩四 頸城鐵道分岐點、同線は黒井、浦川原間九哩三分、賃金三等四十七錢二等は倍、浦川原の近く顯聖寺内には二代杉、虫川には大杉あり、同東南七里には松山鏡の傳説を有する松之山温泉がある。旅館泉屋、中屋 ▼日本石油製油所 東廿五丁 【榑崎】(かきざき) ▼米山薬師、東三里半内二里、自動車七十錢、米山の絶頂山海の展望がよい 【鯨渡】(くじらなほ) 海水浴場である、旅館蒼海ホテル、若松屋 ▼福浦八景、西南八丁船賃六人乗一圓五十錢 【柏崎】(かしはざき) 一四〇哩四 越後鐵道分岐點、記事新潟参照、柏崎附近には油田多く、日本石油製油所がある、番神ヶ島は西廿二丁、海水浴地である、旅館天京、岩戸屋、天屋 【來迎寺】(らいかうじ) 一五七哩二 魚沼線及長岡鐵道の分岐點、魚沼線は小千谷まで八哩一分の支線、小千谷は小千谷縮布の産地である、小千谷旅館山田屋、稻荷屋 ▼長岡鐵道沿線、此鐵道は來迎寺より長岡市信濃川の對岸なる西長岡を経て北し、大川津にて越後鐵道に接して寺泊に至る二四哩四分、賃金三等一圓十錢二等は倍、沿線至るところ石油礦多く、大川津附近には信濃川の分水が見られる。寺泊は日本海に臨み、北に彌彦の秀嶺を仰ぐ、この地は佐渡に最近く、順徳上皇も日蓮も此處から渡られた、聚感園内には行宮遺址、祖師堂には硯水の舊蹟が残つて居る。佐渡の赤泊、小木へ汽船便あり、賃金赤泊一圓三十錢、小木一圓六十錢、寺泊旅館藤田屋、京屋 【宮内】(みやうち) 一六一哩三 上越北線の分岐點 上越北線 この線は宮内から岐れて南に向ひ、信濃川の流に沿つて越後川口に至り、其處からは魚野川の流域を走りて鹽澤まで三四哩開通して居るが、將來は現在沼田まで開通して居る南線と相接すべき使命を有つて居る。列車は長岡を起點として運行して居る 【六日市】(むいかいち) 驛の東邊の諸村には牛の飼育が盛で、春秋二季開牛の奇行事があり、小栗山が特に盛である 【東小千谷】(あづまこぢや) 八哩二 小ヶ谷町の川東に在り 明石堂、船岡山公園などこの驛からも近い 【越後川口】(えちごがわぐち) 信濃、魚野二川合流點に在り、川合神社を祀る、驛の

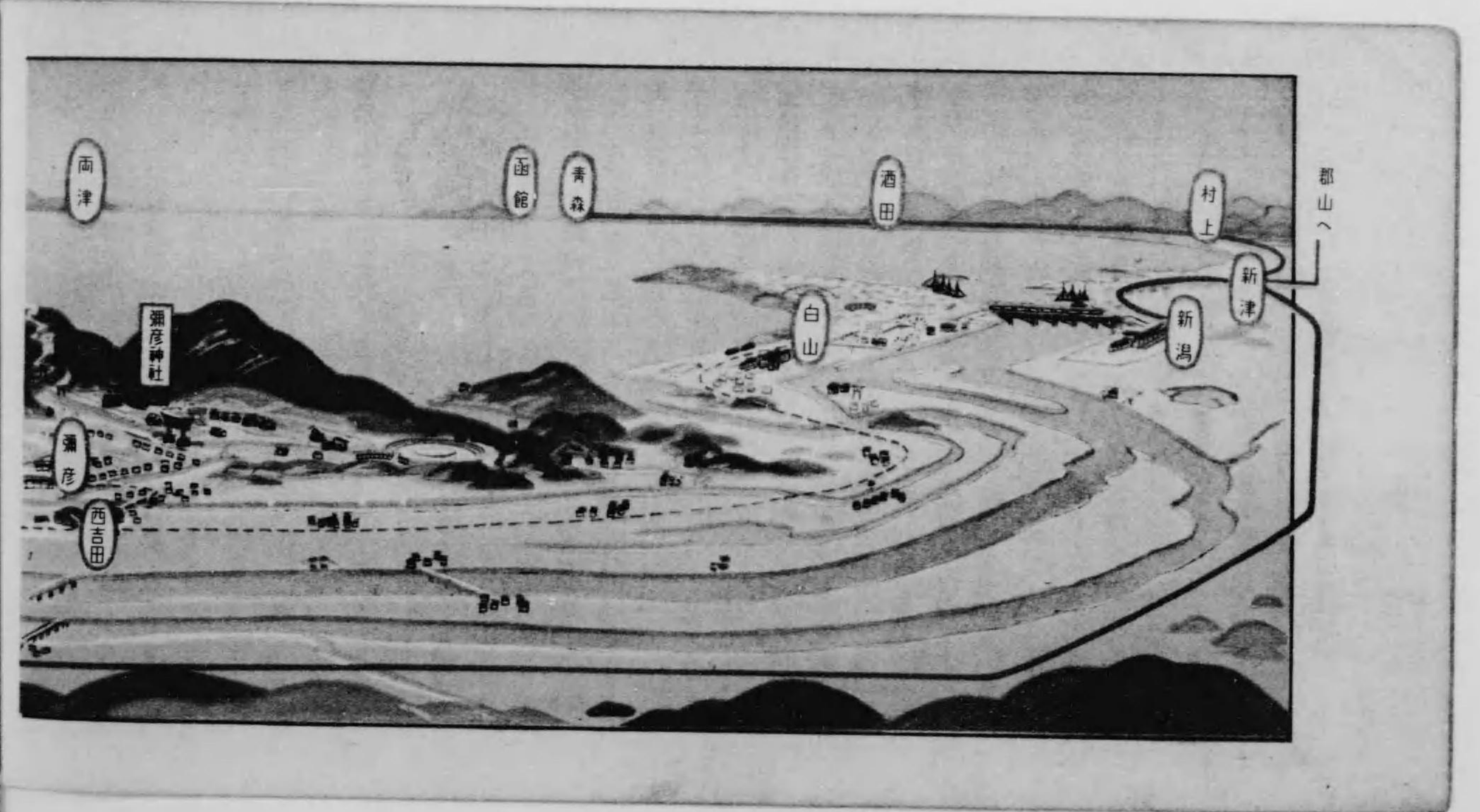
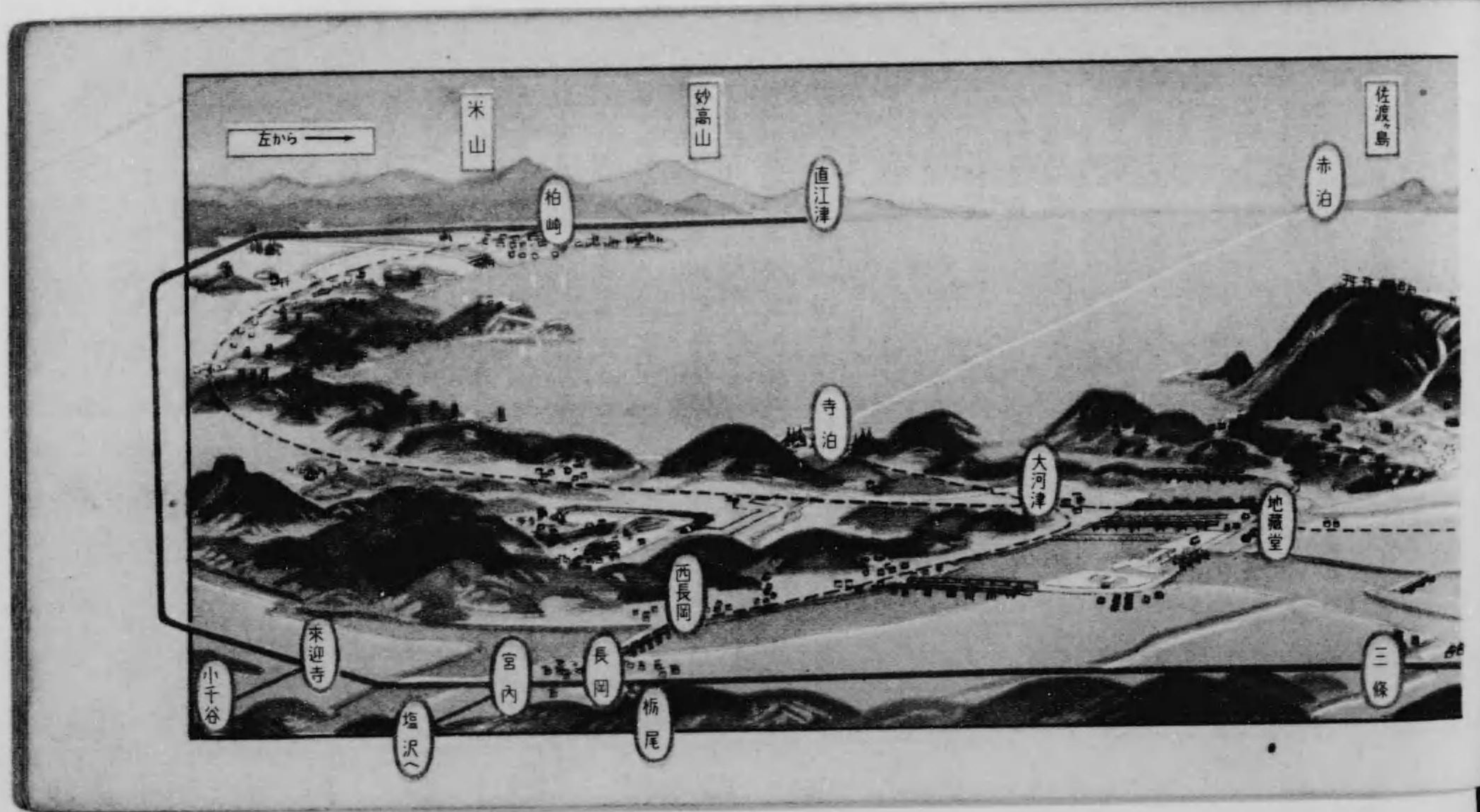
東六丁には名高い鮭孵化場がある。【越後堀之内】(えちごほりのうち) ▼根小屋鮭漁場、東北半里、魚野川に築を設く、新潟縣下第一の鮭漁場である。【小出】(こいで) ▼栃尾又温泉、東北三里佐梨川の上流に在り、俵三圓、ラジウム含有量第三位を占めて居る、八丁を距て、大湯温泉がある、旅館自在館、神風館(栃尾又)東菜館、湯元館(大湯)【蒲佐】(うらさ) 二四哩 ▼毘沙門堂、西南三丁、普光寺内に在り、大同年間の創立、本堂、山門共に特別保護となつて居る、三月三日の縁日はいはゆる押合祭で名高いものである。【五日町】(いっかまち) 二七哩五 ▼八海山、東里宮まで二里、里宮から絶頂まで三里半六時間を要す浦佐又は六日町よりも登られる。山頂に八海明神を祀る、山の東に接して中ノ嶽、中ノ嶽の北に連りて駒ヶ嶽あり、いはゆる三本嶽である、この三山の奥は峯巒重疊、山谷數里の地人烟を見ず、形状世に知られぬ處が多いと云ふ。▼長森原古戰場、東南廿五丁、附近にこの戦に戦死した上杉顯定の墓と云ふ管領塚がある。▼名木澤の古墳、西北三十丁 【六日町】(むいかまち) 三一哩六 魚野川の左岸に在り、三國街道の要衝である、町に上田八幡宮あり 【湯澤】(しほざは) ▼湯澤温泉、南三里半、三國峠越の疲を慰する温泉である、魚野川の左岸小丘にあり風景美に富んで居る、旅館高半、大和屋、▼三國峠越、鹽澤から上州に入りて南線の沼田に出る道はいはゆる三國峠越で、鹽澤から國境の峠まで登り八里、峠から沼田へ九里、其間にけ貝掛、法師湯、湯の原、新巻湯などの温泉があり、草鞋旅の興が多い。【長岡】(ながをを) 一六三哩二 栃尾鐵道分岐點、同線は栃尾まで一四哩四分貨金三等五十八錢、二等は倍、栃尾は軸の産地である。長岡は牧野氏二萬四千石の舊城下で人口四萬八千人を有し、附近に石油の産出多く、東山油田あり、石油市商業市として冷く知らる。旅館大野屋、樹屋、野本、山本、名物越の雪。舊城址は今停車場及公園となつてゐる、維新の際官軍に抗した河井繼之助の墓は榮涼寺にある、蒼紫神社は悠久山にあり舊藩祖を祀り、



東南三十丁、自動車賃切二圓五十錢、俵四十五錢。【三條】(さんどう) 一七六哩六 ▼本成寺、西十丁、法華宗の本山である。▼八木ヶ鼻、東六里半、自動車二圓、五十嵐川上流の絶勝、粗面岩質の大岩塊矗立數十丈深潭に臨む。【加茂】(かもの) ▼青海神社、東三丁 【新津】(にひひ) 一九三哩 羽越線及磐越西線接續點、上野より約十一時間半、附近に石油を産し、日本石油、丸新、石崎、吉澤、奥田の各製油所、柄目木、小口、朝日の油田等がある。旅館森清梅屋、美好館 【新潟】(にいがた) 二〇三哩六 上野より約十二時間、信濃川の河口に位し日本海に臨み、我邦五港の一として早く開けた港であるが、港灣淺く海波を防ぐにも不便あり加ふるに信濃川の土砂の爲漸次淺淺となりつゝあるが、築港完成の曉は面目を一新する事とならう、大正十一年の貿易額は輸出千八百三十二萬圓輸入千六百三十五萬圓、人口十萬六千人、漆器、石油類、鐵器、肥料、白玉粉、履物、綿織物、味噌、硫酸、墨、梨子等を産する。新潟市内の見物すべき處としては白山公園と日和山とである。白山公園は西二十一丁、自動車三十錢、俵四十五錢、信濃川畔にあり、延長四百二十八間の萬代橋を渡つて行く、公園の近くに商品陳列所、醫科大學、新潟高等學校等がある、日和山は西北二十四丁自動車三十五錢、俵五十錢、眺望がよい、海岸一帯の地は砂防工事が施してある、眞宗門徒の神聖視する鳥屋野の倒竹は信濃川に沿うて西南一里半、俵八十錢、親鸞上人の遺蹟である。新潟旅館篠田、大野屋、室長、小甚、柳清、菊地、名物梨の實、五穀糖、油香里 ▼佐渡島巡遊 (イ) 三日間巡遊 第一日午前六時新潟出帆、同十時佐渡夷着、賃金上等三圓、二等二圓三十錢、相川線に沿ひ明治記念堂、黒木の御所、實相寺、妙照寺二宮神社、河原田町、澤根町を経て相川町着、此間七里十六丁、第二日佐渡鐵山見物(約三時間)澤根に引返し(二見に行くは鼓より入る)河原田より赤泊に向ひ眞野宮、眞野御陵、國分寺、阿佛坊を経て新町着、此間六里九丁、第三日一宮の御墓、根本寺を経て夷港に至る、此間四里二十丁、夷より正午十二時の船により



東南三十丁、自動車賃切二圓五十錢、俵四十五錢。【三條】(さんどう) 一七六哩六 ▼本成寺、西十丁、法華宗の本山である。▼八木ヶ鼻、東六里半、自動車二圓、五十嵐川上流の絶勝、粗面岩質の大岩塊矗立數十丈深潭に臨む。【加茂】(かもの) ▼青海神社、東三丁 【新津】(にひひ) 一九三哩 羽越線及磐越西線接續點、上野より約十一時間半、附近に石油を産し、日本石油、丸新、石崎、吉澤、奥田の各製油所、柄目木、小口、朝日の油田等がある。旅館森清梅屋、美好館 【新潟】(にいがた) 二〇三哩六 上野より約十二時間、信濃川の河口に位し日本海に臨み、我邦五港の一として早く開けた港であるが、港灣淺く海波を防ぐにも不便あり加ふるに信濃川の土砂の爲漸次淺淺となりつゝあるが、築港完成の曉は面目を一新する事とならう、大正十一年の貿易額は輸出千八百三十二萬圓輸入千六百三十五萬圓、人口十萬六千人、漆器、石油類、鐵器、肥料、白玉粉、履物、綿織物、味噌、硫酸、墨、梨子等を産する。新潟市内の見物すべき處としては白山公園と日和山とである。白山公園は西二十一丁、自動車三十錢、俵四十五錢、信濃川畔にあり、延長四百二十八間の萬代橋を渡つて行く、公園の近くに商品陳列所、醫科大學、新潟高等學校等がある、日和山は西北二十四丁自動車三十五錢、俵五十錢、眺望がよい、海岸一帯の地は砂防工事が施してある、眞宗門徒の神聖視する鳥屋野の倒竹は信濃川に沿うて西南一里半、俵八十錢、親鸞上人の遺蹟である。新潟旅館篠田、大野屋、室長、小甚、柳清、菊地、名物梨の實、五穀糖、油香里 ▼佐渡島巡遊 (イ) 三日間巡遊 第一日午前六時新潟出帆、同十時佐渡夷着、賃金上等三圓、二等二圓三十錢、相川線に沿ひ明治記念堂、黒木の御所、實相寺、妙照寺二宮神社、河原田町、澤根町を経て相川町着、此間七里十六丁、第二日佐渡鐵山見物(約三時間)澤根に引返し(二見に行くは鼓より入る)河原田より赤泊に向ひ眞野宮、眞野御陵、國分寺、阿佛坊を経て新町着、此間六里九丁、第三日一宮の御墓、根本寺を経て夷港に至る、此間四里二十丁、夷より正午十二時の船により



新潟着が午後四時である。(ロ)五日間巡遊 第一日は(イ)と同じ、第二日横山見物の後小倉大納言の墓に詣で、澤根より二見に行き鶯梅を見、午後五時澤根より小木町へ渡航する、海路十八里、約二時間を要する、此間陸路をとれば三里二十二丁、第三日は小木地方を見物の上小木線に沿ひ小比叡山蓮華峯寺に詣で、眞野宮、眞野御陵参拜の上新町着、此間七里二十一丁、小比叡山に寄らねば六里廿七丁、第四日、國分寺、阿佛坊、檀風城址、三宮の御墓、一宮の御墓、長谷寺、根本寺を経て新穂町着、此間六里七丁、第五日新穂より夷に至り(二里廿五丁)正午夷乗船、午後四時新潟着、佐渡の名勝は主に順徳天皇と日蓮上人とに關したものである、島内至るところ道路が修理され、自動車も定期に運轉して居るから夫を利用すれば時日は如何様にも短縮することが出来る。▼彌彦山へ、越後鐵道は白山、柏崎間五〇哩一分と西吉田彌彦間三哩一分、西吉田、燕間三哩四分の支線あり、白山柏崎間賃金三等一圓五十五錢二等は倍。其沿線は油田多く名利も尠くない、關屋驛附近には親覺上人の靈蹟鳥屋野の倒杖竹、平島の波切名號、山田の焼餅があり、彌彦驛より北九丁には國幣中社彌彦神社がある、天香語山命を祀る、越後第一の名祀で、参拜者の多い事は全國第四位だと云ふ、彌彦山は神社から山頂迄一里餘、直に日本海に臨んで風光が佳い。此他越後會根驛より行く角田の三題目、矢作驛近くの法圓寺、地藏堂驛より行く國上寺、西山、禮拜石地附近の油田等見るべきものが多い。

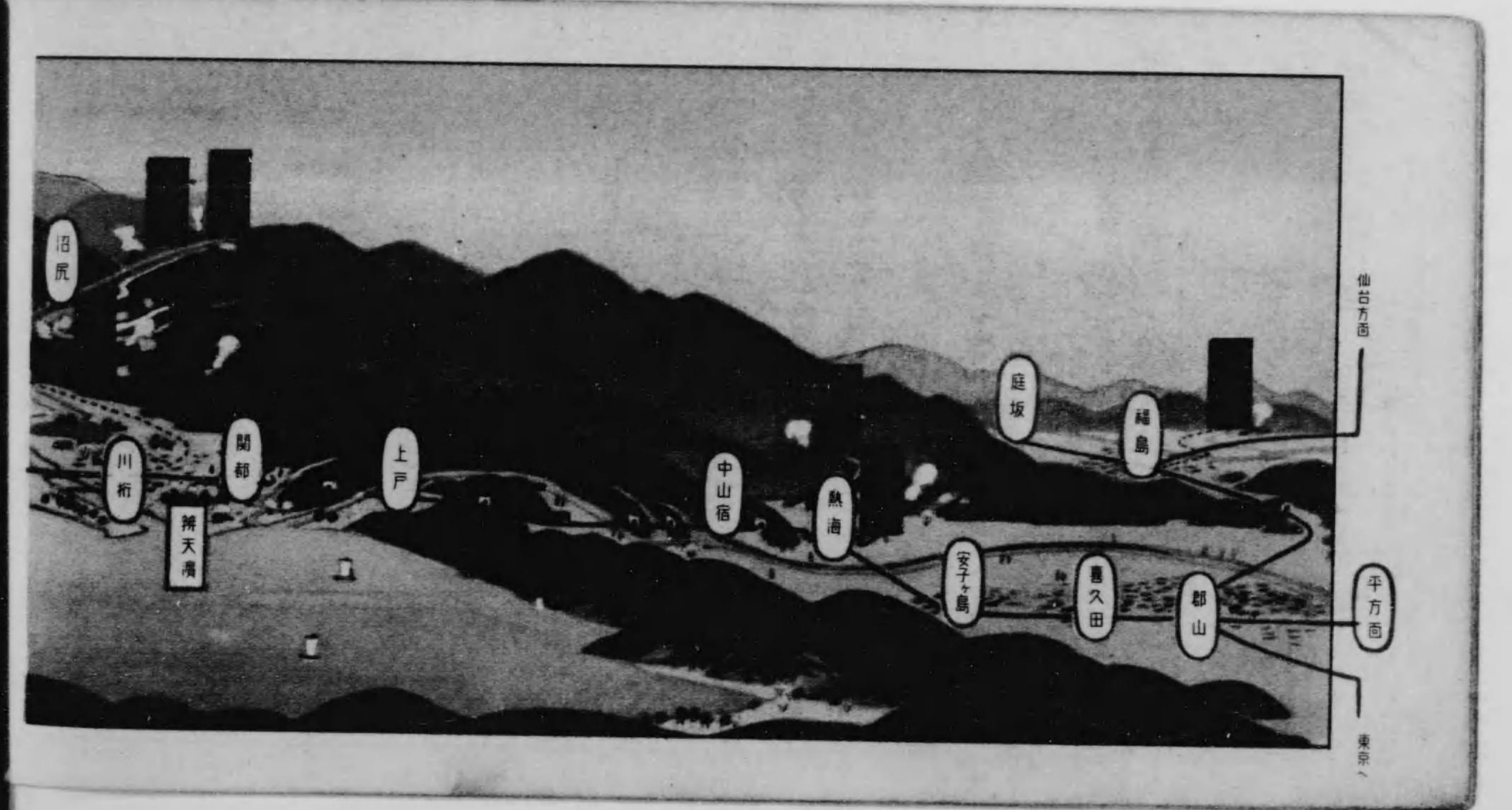
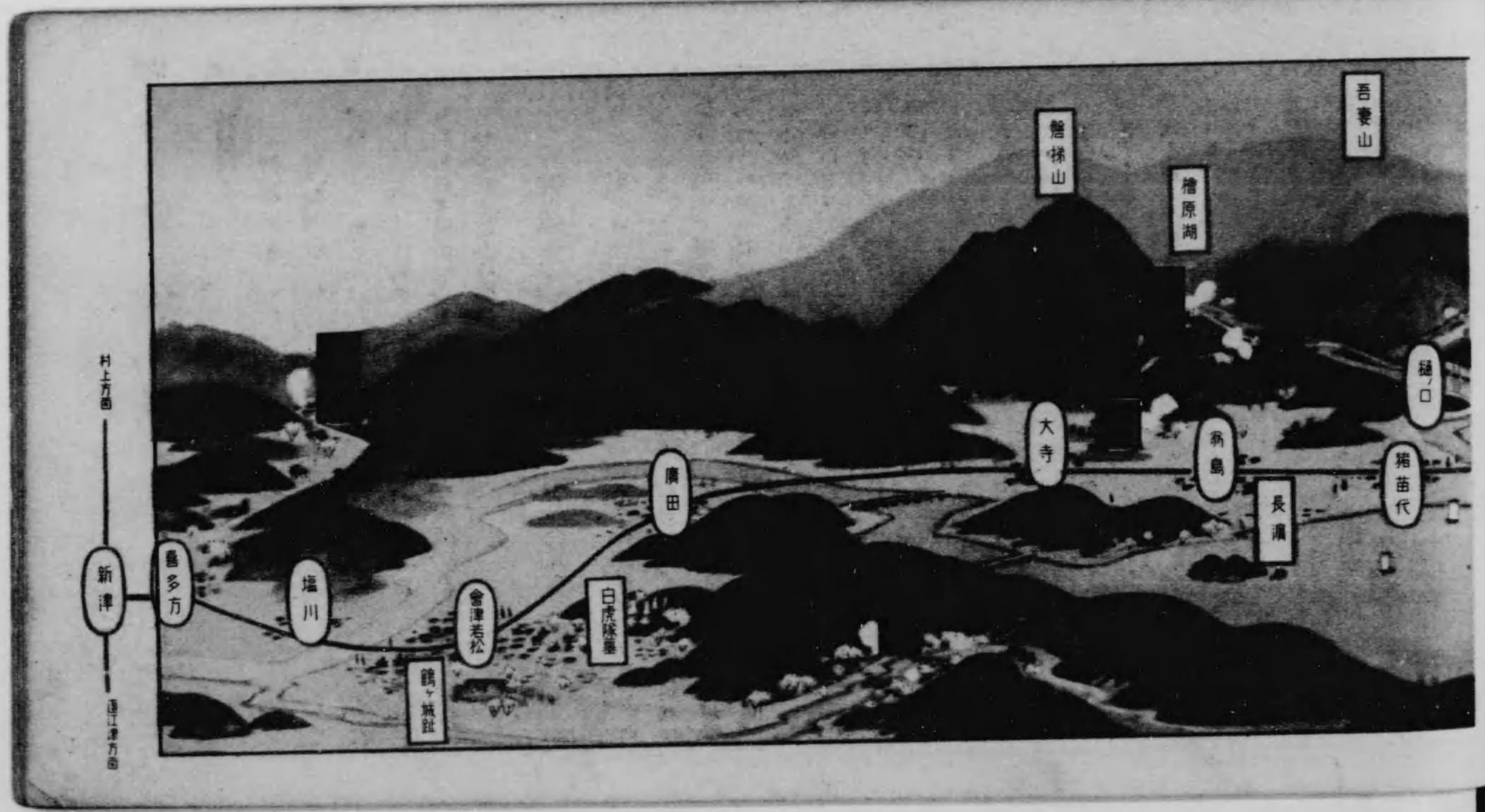
新潟市は信濃川の河口に在り、新潟縣廳所在地で、縣は越後、佐渡兩縣を管轄して居る。東には越後山脈長く連りて朝日嶽、飯豊山あり、南には三國山脈聳え西南には妙高、越後の火山あり。海岸は砂丘にして出入少く、其間米山、彌彦山が聳えて居る、信濃川、阿賀野川、荒川は驛下を灌漑し、其沿岸の平野には米を始め大豆、小豆の産多く、柿、梨、葡萄の産もある。平野の間の丘陵地には石油を出し、東山、西山、新津等の油田特に著はれ、其間是其取引の中心をなし、柏崎には大なる製油工場がある。信濃川上流の小千谷、十日町と阿賀川流域の五泉とは共に樺葉地として知られ、直江津は日本海の要津をなし、其南の高田は積雪地として名高い。佐渡の相川には古來有名なる鑛山があり、金、銅、錫を産して居る。

米の主要産地 三、一、二、〇、五、一、五 七六、三、〇、五、一、三、〇、〇 (大正十一年)

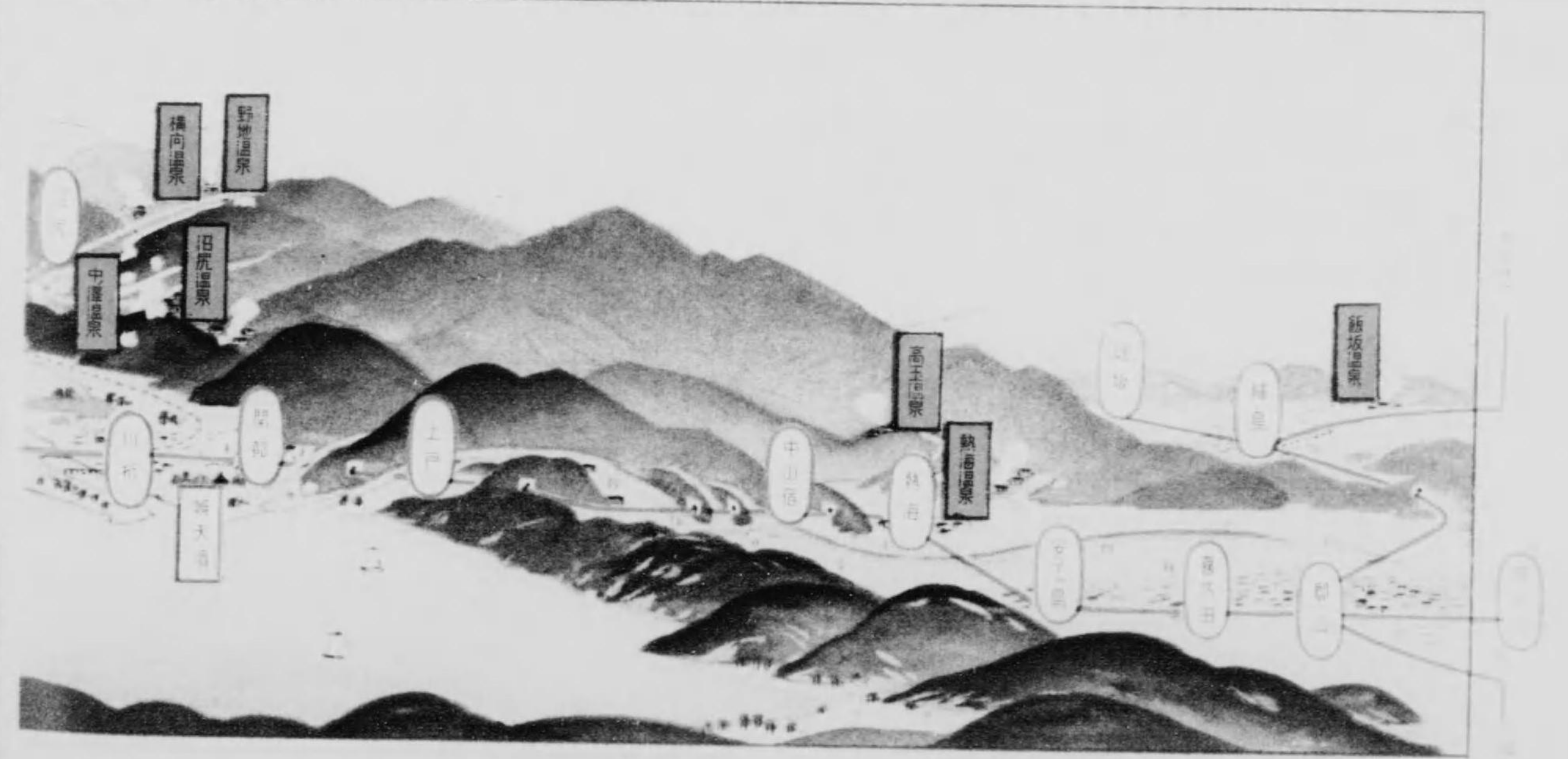
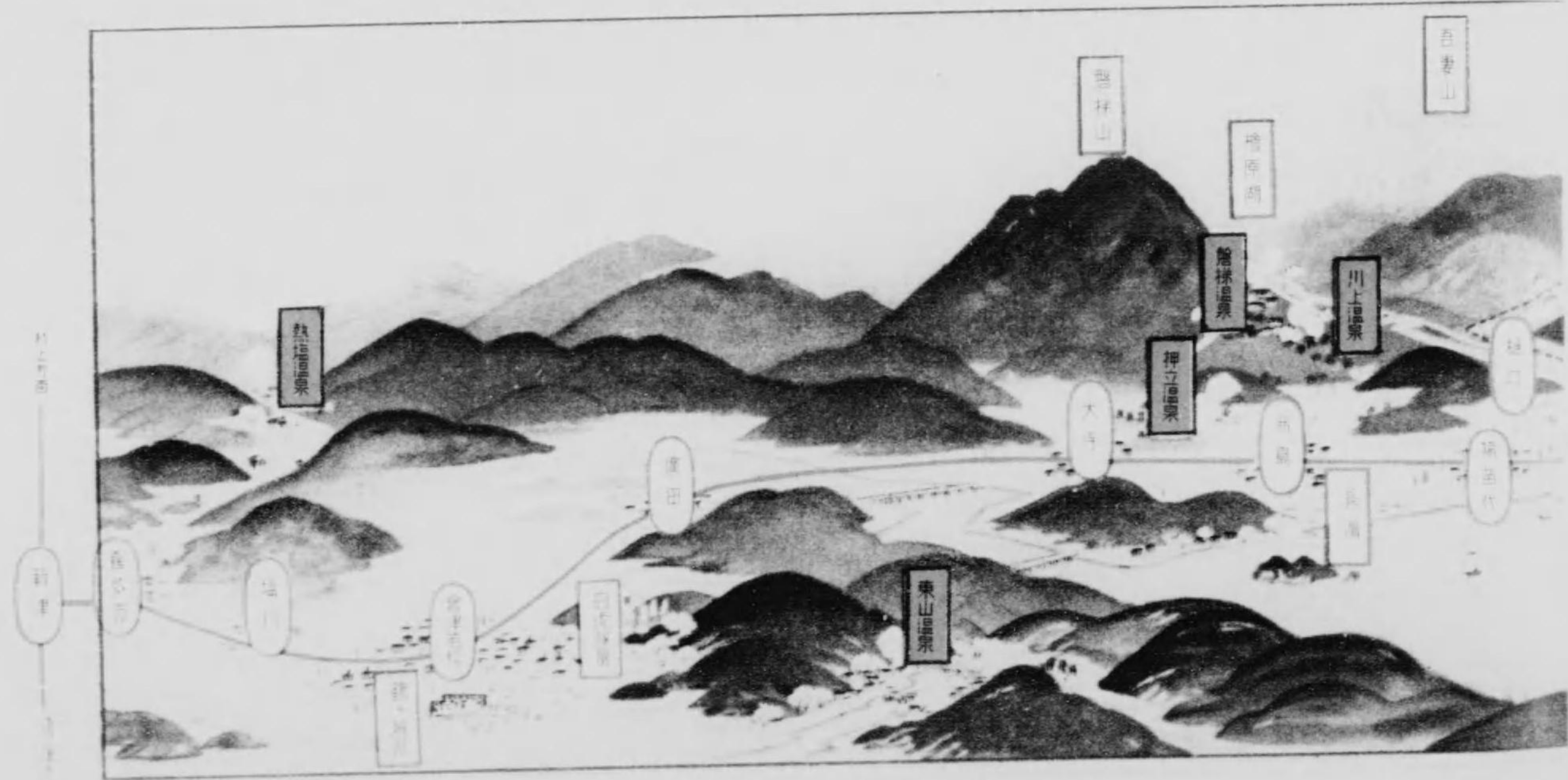
兵部	二、五八六、八〇一石	兵部	七二、八八六、一〇七圓
千代	二、三六四、九六四石	千代	六二、九六六、五八三圓
山形	二、〇五三、八一九石	山形	六一、八二二、八八八圓
秋田	二、〇九九、三五〇石	秋田	六〇、九五二、九七五圓
茨城	一、九九七、二八六石	茨城	五五、一八五、四〇一圓
茨城	一、八四三、三八三石	茨城	五一、三四一、三六四圓
茨城	一、八五八、七三三石	茨城	五〇、三九七、二二〇圓
茨城	一、八八二、七二〇石	茨城	四九、六九四、四二〇圓
茨城	六〇、六九一、九二九石	茨城	四二、一六二、一七五圓
茨城	九五三、七四七圓	茨城	九二七、六八六圓
茨城	七六七、三三一圓	茨城	七三四、五四一圓
茨城	五七八、七七七圓	茨城	五、二四五、六五三圓
茨城	全	茨城	全
茨城	長	茨城	野
茨城	野	茨城	全
茨城	全	茨城	全

甚句は越後の甚句、越後の甚句は世界の花ぢや
四十だ〜と今朝まで思つた、三十九ぢやもの
ソーレ花ぢやもの
でんでらでんの、でつかい嫌持てば、二百十日
の風よけだ
何たら長い五月雨だ、爺様欠伸に徴が生えた
盆は来い正月はいやだ、殿とわたしの年がよる
見送りましょとて濱まで出たが、泣けてさらば
が云へなんだ (越後甚句)

露光量違いの為重複撮影



露光量違いの為重複撮影



磐越線

磐越線とは

一 磐越東線 郡山、平間五三哩二分
 一 磐越西線 郡山、新津間一〇八哩二分

の總稱で、東北本線郡山から左右に岐れて、一は平間に至つて常磐線に接し、一は新津に至つて信越線、羽越線に接し、常磐線東北本線信越本線羽越線を連絡させる線で、日本海と太平洋を連絡せしむる東北地方横断鐵道の一である

磐越西線 郡山—新津 一〇八哩二分

この線は東北本線郡山から分岐し、猪苗代湖畔を走りて會津若松に至り、夫れより阿賀野川に沿うて新津に至り信越線羽越線に接する線で、延長百八哩二分あり、上野と新潟との間には信越線の外この線を通じて一回の直通列車もあり、信越線は十二時間、この線でも十二時間餘で達せらるゝのである

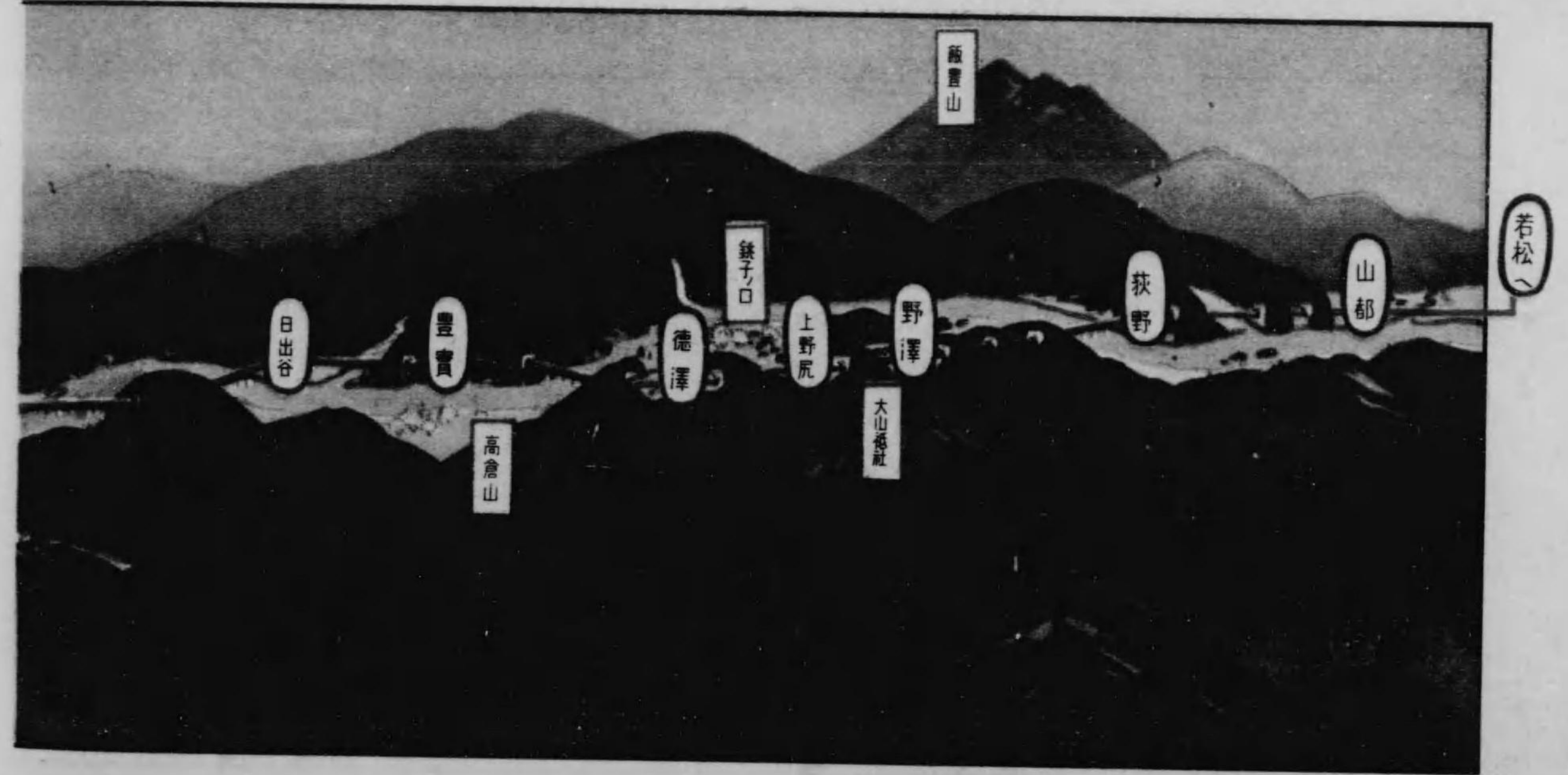
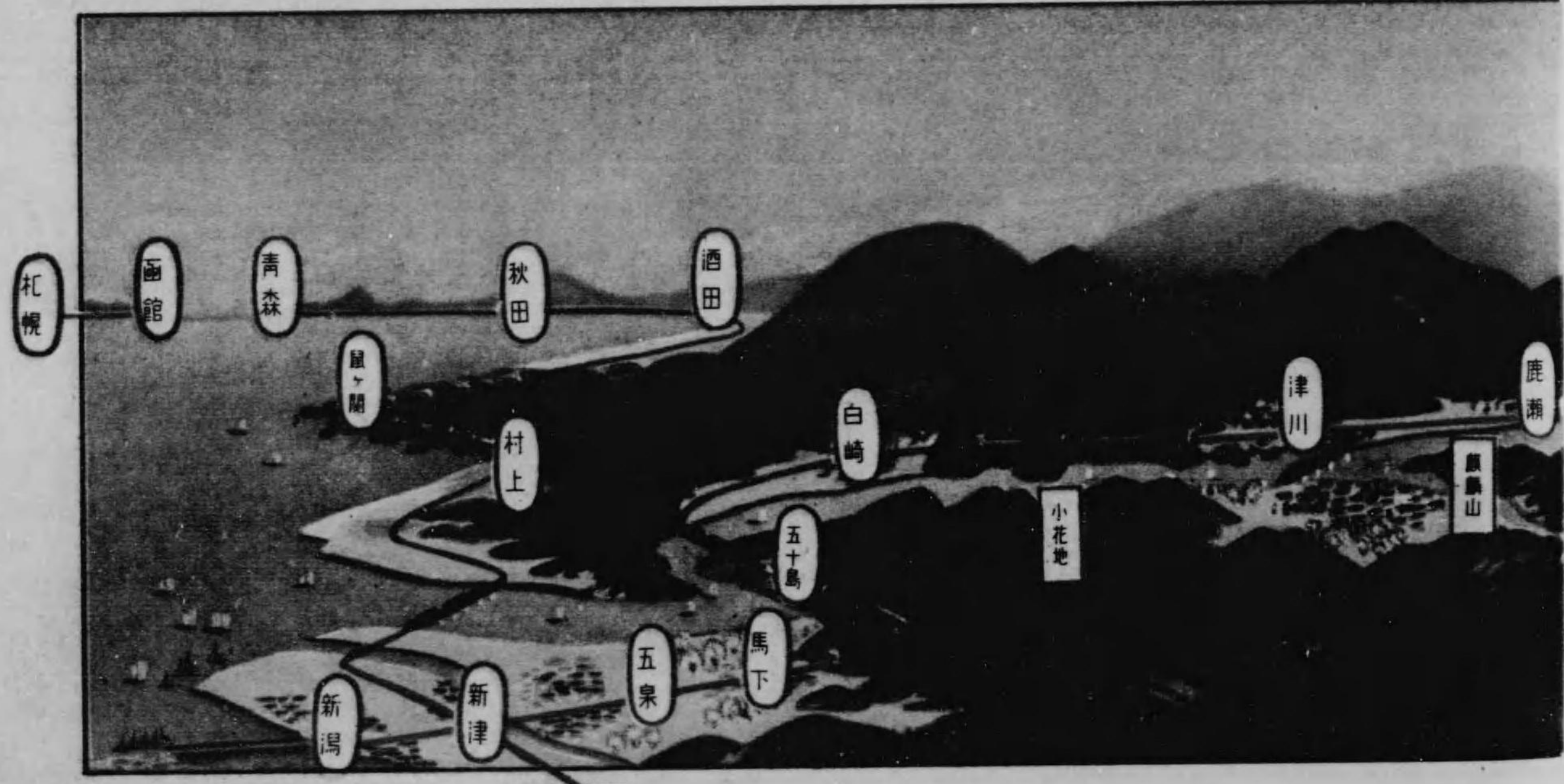
郡山を後にして熱海から峯崎重疊の間を走り、中山宿を経て上戸に至れば、初めて猪苗代の湖光に接し、關都に至れば右方又磐梯山の半空に聳ゆるあり、左顧右盼一幅の活畫の中を行くの思をなすのである。翁島を出でてよりは鐵路下りとなり、車窓會津平野を見るべく、やがて粉壁瓦甍の眼前に現はるゝは即ち會津若松である

若松からは鐵路會津平野を横ぎり、右に猫間ヶ嶽の嶮々たるを仰ぎて進み、山都より初めて阿賀野川に沿うて走り、萩野を過ぎて之を渡る、野澤を後にしてより風光の美漸く加はり、上野尻よりは峯崎の間に入り、阿賀野川の峡谷に沿うて走る、所謂銚子の口下流凡そ五哩の間は、兩岸の花崗岩屏列し、或は横斜して河水之を繞る處、潭となり、峽となり、瀨となり、淵となり、境屢々變じて景愈々幽、殊に晩秋錦繡滿山を染むるの候最美麗を呈するのである。徳澤を過ぎて再度川を渡る處は即岩越の境で、豊貴からは急傾斜の山麓の沿岸を迂繞し、左旋北行飯豊山脈の一脚延ひ

て河溪に突出せる所、隧道を穿ちて日出谷に出るのである。これより線路左折して三度川を渡り、延長六五八一尺、本線最長の平瀬隧道を過ぎて四度川を渡りて津川に出る。津川以西の沿岸も亦風光の美に富み、五度川を渡りて五十島に至り、峻險なる傾斜を爲し、岩石累々たる山腹を曲折し、十餘の隧道を過ぎて馬下に出で、漸く峡中隘谷の境を脱して廣潤なる越後平野を走り、五泉を経て沿道油井槽の林立するを見つゝ、新津に達するのである

【郡山】(こほりやま) 東北本線及磐越東線接續點 【熱海】(あたま)

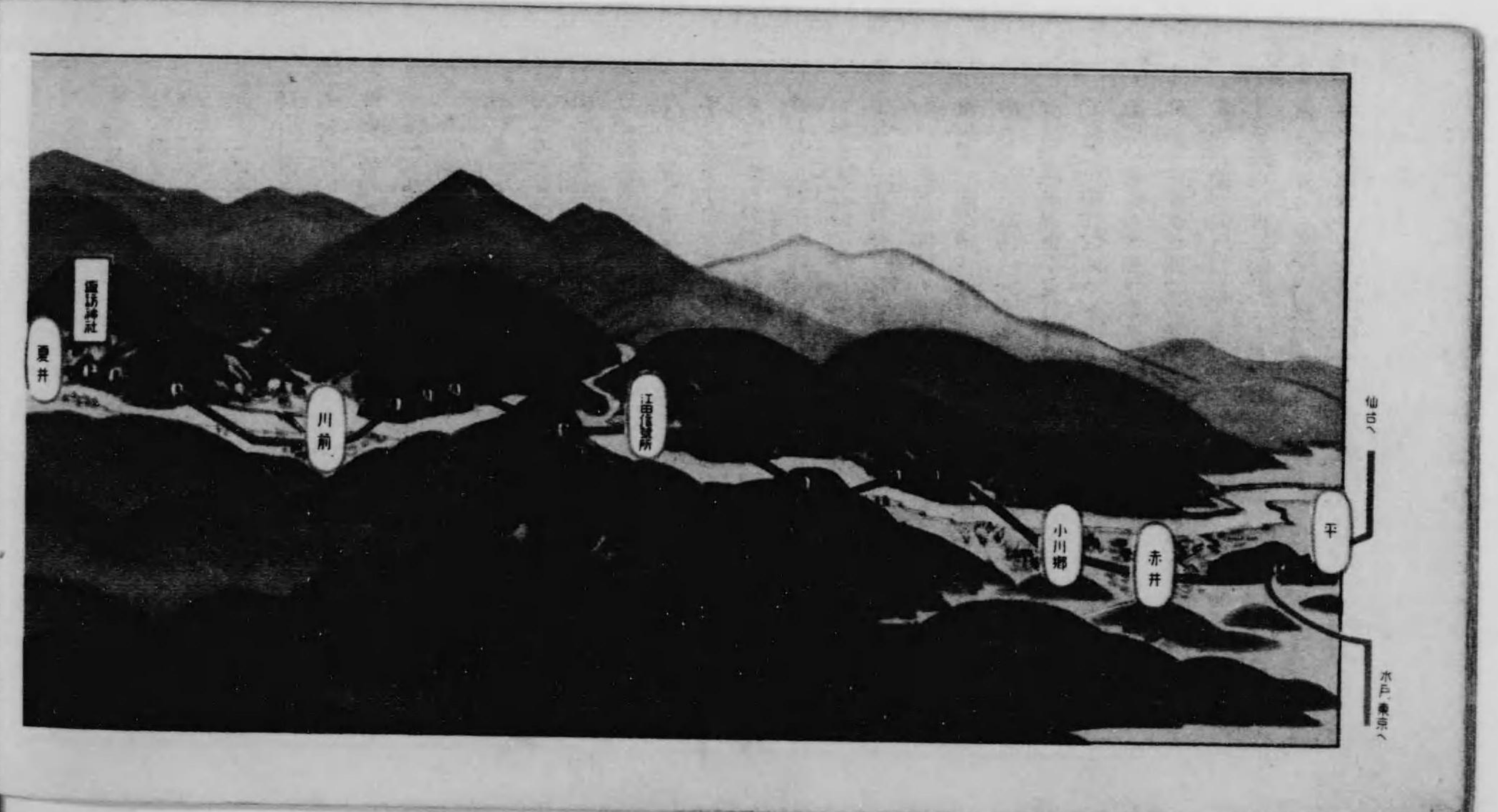
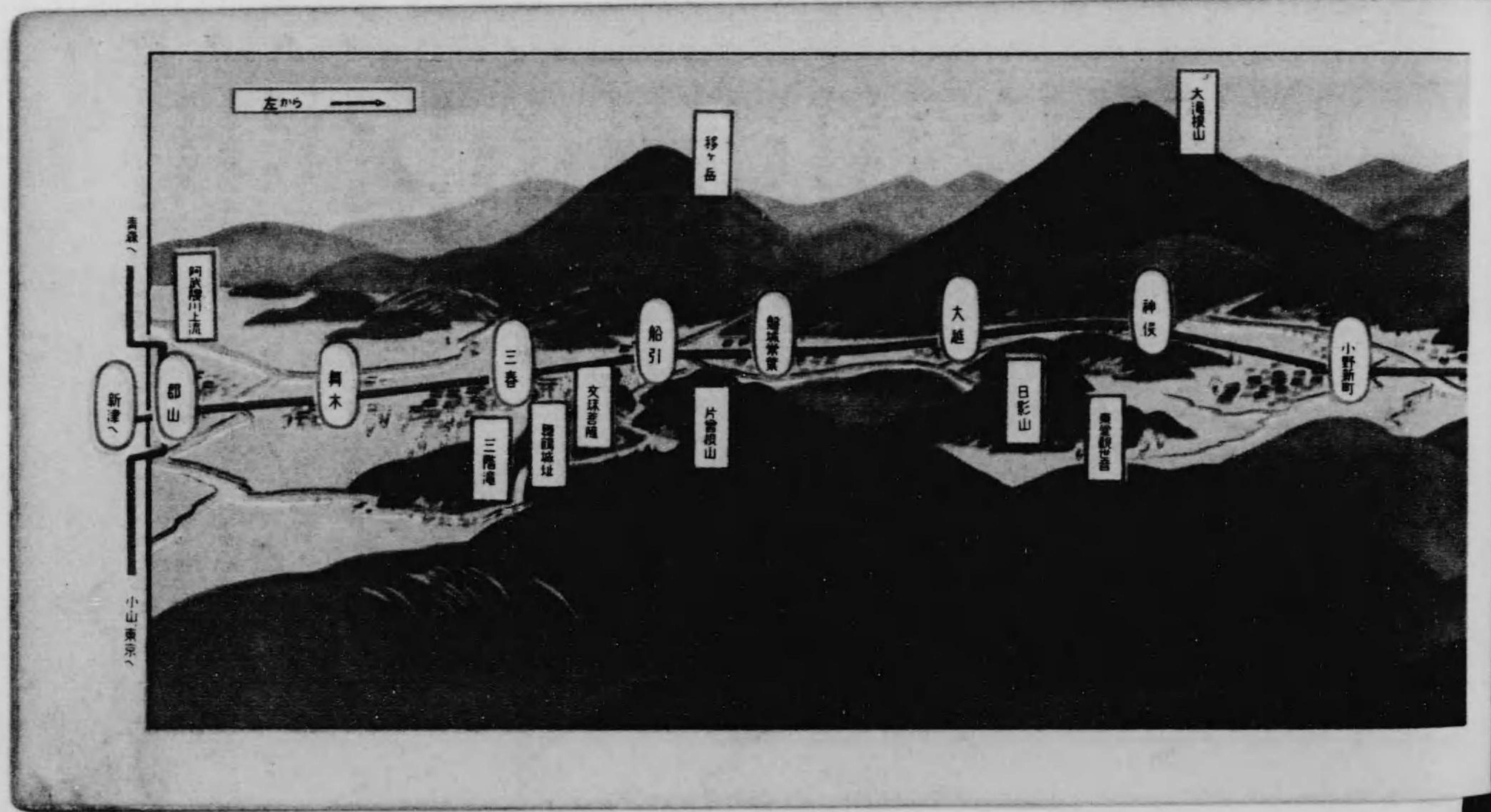
▼熱海温泉、驛前、旅館一カホテル、熱海館 ▼高玉温泉、西北八丁、旅館蓬萊館、信濃屋 ▼高玉金藏山、北廿丁 【上戸】(じやうこ) 一六哩六 ▼猪苗代湖舟遊、西七丁、湖は周圍十七里、海拔一千七百尺の高處に在り、煙波渺茫對岸の風物、宛然淡墨の繪を見るやうである、天晴れて風靜かな日は、磐梯の山影湖面に映じて、山光水色美觀云ふばかりなく、ことに殘雪山嶺を蔽ひ、碧波激瀾油の如き時、最風光の美をなすのである、湖上一周に約三時間を要し、三十人乗和船一隻に發動機船を附し賃金二十圓、上戸濱から舟津、福良を経て翁島を廻り、戸ノ口、小平湯に立寄りて上戸に歸航する、小平湯には小神社あり、東廿五丁で關都驛に出られる、戸ノ口から翁島驛へは三十丁である 【川桁】(かはげた) 二〇哩四 ▼耶麻温泉巡り、此温泉巡りは主に耶麻軌道による、川桁から沼尻まで一〇哩、賃金六十一錢、川上温泉は其樋ノ口から一里十丁徒歩を要する、猪苗代驛からすると西北二里半である 此處は磐梯登山口で噴火後の實況、小野川、秋元、檜原三湖を眺望する、旅館玉川屋、湯本屋、茲から尙一里すれば磐梯山の中腹に磐梯温泉があり、此方面からの磐梯登山が出来る。中ノ澤温泉は沼尻から八丁、坂路徒歩を要する、旅館西村屋、花見屋、白木屋。沼尻温泉は沼尻から中ノ澤を経て新温泉場まで廿丁、徒歩容易である、近年早大山岳スキー部の指定地となつた。近くに湯沼の壯觀が見られる、旅館田村屋、新花見屋。横向温泉は沼尻から一里十一丁、山路徒歩を要する、旅館瀧川屋、白津屋、横向から約一里すると野地温泉に出で、更に二里で土湯温泉に出る、土湯



からは吾妻山東麓の温泉廻りが出来るが、それは奥羽線庭坂驛參照【猪苗代】(るなほしろ) 二二哩四 旅館伊勢屋、江戸龜 俣土津神社、北二十丁、俣四十錢、保科正之を祀り湖の全景が見える

▼磐梯登山、磐梯山は海拔六千五百尺、山の半腹より登路急峻であるが頂上に至れば四望開闊、爽氣肌を襲ひ白雲脚下に飛ぶ、北面に見える檜原、小野川、秋元の三湖は、明治廿一年七月大噴火の時、檜原川、長瀬川等の溪谷を堰塞して出来た湖である、登山口は東西北の三あり (一) 東口、これは最容易な道で指導標が完備して居る。驛から頂上まで二里二十二丁、廿丁の土津神社に至れば、竝より一里十九丁、案内料二圓五十錢、神社より一合目天の岩、天狗の掘割を經れば二合目赤壇山頂に達する、猪苗代一帯の風光が眼下に展ける、山を下り沼の平に出で烏帽子岩を左に見て登れば三合目の天狗岩に至る、北方に湖水が美しく見える、足下には噴火口があつて斷崖壁立して硫黄の臭氣鼻を衝き噴烟の音響轟々と聞える、四合目の弘法の水より登路六丁で山頂に達する、驛より頂上、噴火の湯、大噴火口經由約九時間を要す (二) 西口翁島驛より二里、行路急峻ではあるが最近路である、驛より押立温泉に近く猪苗代より來る道と合し、中腹の拜殿に達する、之より山谷迫つて路愈險しいが、鬼ヶ膝を攀ちて賽の河原に出れば展望開闊となる、夫より岩角を繞つて東方に進むこと廿九丁で頂上に達する、驛より頂上、噴火の湯、大噴火口經由、約七時間半を要す (三) 北口、川桁より川上温泉を經て山路火山岩を踏んで進む、噴火後の實況は此口に於てよく見える、噴火口を經て道を左に取り、中の潭の湯を過ぎて丸森、湯桁の谷間を辿り、絶頂の北裏で東口に合ふ、行程三里半 【翁島】(おきなじま) 二五哩一 磐梯山を後に仰ぎ前に猪苗代の湖光あり、近年避暑地として知られて來た ▼長瀬、南三十丁、猪苗代湖畔、自動車五十錢、旅館島万、湊屋、會津屋 ▼高松宮御別邸、南一里、猪苗代湖畔にあり風光佳 ▼押立温泉、北十八丁、附近原上原はスキーの適地である ▼三忠碑、東北八丁、會津領主蘆名義廣と伊達政宗が勝上原で合戦した際の蘆名方三勇者の碑である 【大寺】(おほでら) 猪苗

代水力電氣發電所、東南十五丁 【會津若松】(あいづわかまつ) 三八哩七 會津盆地に在り四面山を繞りて自らの別天地、古來要害の地と稱せられ、蘆名、蒲生、上杉、加藤の諸侯相次で茲に居り、威を東北に振うたものである、保科正之二十三萬石の封を此地に受けて以來明治維新に至つたが、戊辰の役に幕府に與して王師に抗し、天下の大兵を此一城の下に集めて苦戦旬日、會津武士の氣風尋常ならざるものあるを示した、今人口四萬六千人を有し、會津堂、會津焼を産する、遊覽順序は飯盛山、東山、舊城址、市内と巡るが便利である、以上週遊賃金自動車一圓八十錢、俣一圓五十錢、市内旅館清水屋、伊勢屋、大阪屋、榊屋、湊屋 ▼鶴ヶ城址、南廿五丁、自動車四十錢、俣三十錢 ▼飯盛山、東廿五丁、自動車五十錢、俣三十五錢、戊辰の役に白虎隊の十有七士が春尙早き青袴の身を以て君難に殉じ、封建時代最後の光彩を放つた所で、其墓や碑があつて、惻々として參詣者を動かすものがある、墳墓の下の榮螺堂は六綾三層高さ八間半漸々に盤旋して頂に至り漸々に下りて下り還る、其狀が榮螺の殻中に似てゐるので此名がある、堂の西側宇賀神社には白虎隊の木像を安置する ▼蒲生氏郷の墓、南十五丁興徳寺内に在り、俣廿五錢 ▼東山温泉、東南一里五丁、俣、乗合自動車共に五十錢、貸切自動車三圓、奥羽三樂壇の一で遊樂的の温泉である、旅館向瀨、新瀨、不動瀨、有馬屋、二八屋、福住 ▼柳津虚空藏廻、西南六里、馬車二圓五十錢俣五圓、自動車貸切二十圓、四面山嶽波瀾の如く起伏し、只見川蜿々として白龍の逸するが如き處、柳津の人家皆岩に凭り水に枕んで、宛然畫圖の趣をなしてゐる、堂は川に臨みて絶壁の高きに安んじ、伽藍宏大である、高欄に凭りて望めば山光水色甚佳、磐越沿線屈指の名勝である、虚空藏の參詣了へたら野澤驛に出るがよい、驛まで西北三里半約半程は縣道、他は山路で車馬の便はない、野澤からは南一里半の大山祇神社に詣でるがよい、社は正中村菅大久保の山上にあり、參詣すれば人生一代に一度の願望は必ず成就するとて、參詣者が多い 【喜多方】(きたかた) 四九哩五 ▼熱湯温泉、東二里半、自動車一圓、俣二圓、旅館健屋、海老屋



叶屋 ▼日中温泉、熱湯から半里奥坂路がある、驛から俵三圓、
 旅館湯本屋、中屋、伊勢屋 【山都】(ヤマト) ▼飯豊山、東北十里
 途中三里のノ木から登路三里、山容豊に飯を盛つた如くなので
 此名があり、頂上に縣社飯豊神社がある、夏季登山者が多い
 【上野尻】(カミのじり) 六八哩一 ▼銚子の口、三十丁、阿賀野川
 相迫りて峽を爲す所で、之より下流數哩の間は巖石層重、崖壁駢
 列、碧水屢々廻り、翠巒四方に聳え、雲影泛び風光映る、若し夫
 れ秋霜一度到りて萬樹紅黄となる時、其美觀麗觀は名狀の辭がな
 い 【豐實】(トヨカミ) ▼全海堂、北八丁菱湯觀音境内に在り、全海
 法師の即身佛を安置す 【津川】(ツガハ) 八四哩二 ▼阿賀野川舟
 遊津川は阿賀野川峡谷の主邑で舟遊は茲から次第白崎驛迄の間が
 よい、遊覽経路は先づ驛の東十六丁の麒麟山城址を訪ねる、城址は
 今公園となり阿賀野川の清流に臨み、斷岩起伏して屏風を立てた
 如く、其形が麒麟に似てゐる、川下りは此山下に舟を泛べて小花
 地に至り、白崎に出るのである、此間兩岩絶險、岩石亂立、本尊
 岩、經岩、衣岩、大黒岩、惠比須岩等の勝あり、蒼松其間に聳え
 頗る佳景である、夏の歸國秋の紅葉は又景趣を添へる、所要時間
 約四時間、舟賃片道貸切十人乗八圓、三十人乗十二圓、午後は各
 五割増しである、舟は常備してないから豫め驛長に打合せて置か
 れたい、旅館菱屋、立花屋 【白崎】(しろさき) 八八哩八 ▼御前ヶ
 鼻、北八丁、阿賀野川の急流奔激集まつて深淵となる所、風光清
 雅である、余吾將軍の妻が身を投じたので此名がある 【五十島】
 (いがしま) ▼平等寺、東北八丁、餘五將軍平維茂の墓がある 【馬
 下】(まごろし) ▼小山田樓、西南一里四丁、菅名山に在り越の小芳
 野の名がある、開花四月下旬 【五泉】(ごせん) 一〇二哩 機業地で
 五泉平と云ふ袴地を産する。故より村松に至る二哩六分の蒲原鐵
 道あり、賃金十六錢 ▼慈光寺、東南三里、境内幽邃夏期大學の
 講習がある。【新津】(にひつ) 一〇八哩二 信越本線羽越線接續點

磐越東線

郡山—平 五三哩二分

この線は郡山から右に岐れて阿武隈川を渡り、舞木より山峽を
 貫いて山間の高原に出で、阿武隈夏井兩流の分水嶺を越えて、夏
 井よりは夏井川に沿うて走り、川を渡ること十一度、トンネルを潛
 ること十五箇所、溪流の勝に加ふるに秋季は紅葉の美あり、沿線
 第一の風景である。小川郷からは田體の間を進み、赤井より丘陵
 起伏の間を過ぎて、やがて平に達するのである。列車は郡山平間
 直通六回の運轉あり、約三時間半を要するのである

【郡山】(こほりやま) 東北本線、磐越西線接續點 【三春】(みはる)
 七哩四 秋田氏五萬石の舊城邑で良馬、葉苧を産する 【神俣】(か
 んまた) 二四哩二 驛附近一帯石灰石を産し、無盡蔵と稱せらる
 年産額三萬三千噸 【小野新町】(おののしんまち) 二八哩三 ▼東堂山
 觀世音、西北一里十丁、俵一圓五十錢、坂上田村將軍が夷の爲
 に喪つた愛馬を祀つたもので、附近に馬の産地を控へてゐる事と
 て、馬の神として遠近の崇敬甚だ篤い 【夏井】(なつる) 故より次
 驛川前まで夏井川相迫りて峽を爲す處を瀧の平と云ひ、下流十數
 哩の間には溪流の勝、紅葉の美がある 【小川郷】(おがはがう)
 ▼福島炭礦、西二十丁 ▼二ツ屋神社、北一里海拔二千二百尺の
 二ツ箭山に在り、眺望美に富む 【赤井】(あかゐ) 五〇哩二 驛附
 近には白煉瓦會社や炭礦が多い ▼赤井嶽、西一里廿丁、境内幽
 邃眺望の勝あり、夏秋の候夏井川を湖る龍燈を見る時甚美觀であ
 る毎年舊七月末日の祭は、お籠と云ひ、龍燈を見物する爲め山上
 に徹夜する人が多い 【平】(たひら) 五三哩二 常磐線接續點

お月様ほどまんまるい、まるい心の妻はしや

玄女見たさに朝水汲めば、すがた隠しの霧が降

る

(磐城)

奥羽線

奥羽線とは

- 一 奥羽本線 福島、青森間三〇二哩三分、及貨物支線
- 一 長井線 赤湯、荒砥間一九哩
- 一 左澤線 山形、左澤間一六哩三分
- 一 西横黒線 横手、陸中川尻間一六哩一分
- 一 生保内線 大曲、生保内間二哩一分
- 一 船川線 追分、船川間一六哩五分
- 一 能代線 能代間二哩五分
- 一 黒石線 川部、黒石間四哩一分

の總稱で、其本線は東北本線福島から分岐し、板谷峠を横断して米澤を指す、其間は本線工事中最困難であつた所で、十數の隧道を穿ち、山愈深き處、赤岩、板谷、峠、大澤の四驛を置いてある、古來險峻無比、旅客の最も難所とした米澤入の道も、今は車窓溪谷に臨み、瀑布を仰ぎ、岩石の奇、山路の曲、變化果しなき自然の大畫幅を繰きつゝ、容易に其險路を越ゆるを得ることとなつたのである。

米澤からは鐵路國道に沿うて山形、新庄を経て秋田に行く、其間出羽の三山の眺望があり、島海山の展望がある、島海山はいはゆる出羽の富士で、其山容の雄偉壯麗なる、津輕の岩木山と共に西奥州を旅行した人のながく忘るゝ能はざるもの一つである。秋田より汽車は八郎湯に沿うて走り、風光の美うたゝ、車窓の人を樂しましむるものがある。機織より線路右に折れて、米代川の溶溶たる平野の間を走る、二ツ井驛のあたり、對岸七座の奇峯聳え、河流屈曲して山光と相映じ、風色頗る佳である。

大館を後にすれば、汽車はやがて矢立の山中に入る、これが羽後、陸奥の境で、下内川は之より南し、平川は之より北に流れて居る、大鰐に至るまで平川を渡ること前後六回、溪山の勝また拾つべからざるものがある。弘前に至れば岩木山の秀容、巍然として雲表を摩して居る、それより汽車は津輕平野を走り、大釋迦よ

り津輕坂の險を過ぎて青森に至りて止まるのである、列車の運行は本線を通じて上野青森間相互直通列車三回、内一回は急行約二十時間、普通約二十三時間半を要し、福島、青森間急行約十五時間を要する。

地名	氣象	風平均	快晴日	曇天日	雨水日	暴風日
山形	四一七度	南南西	一八	一八七	二〇七	五〇
秋田	四一七度	南東	一八	二二七	二三四	一五一

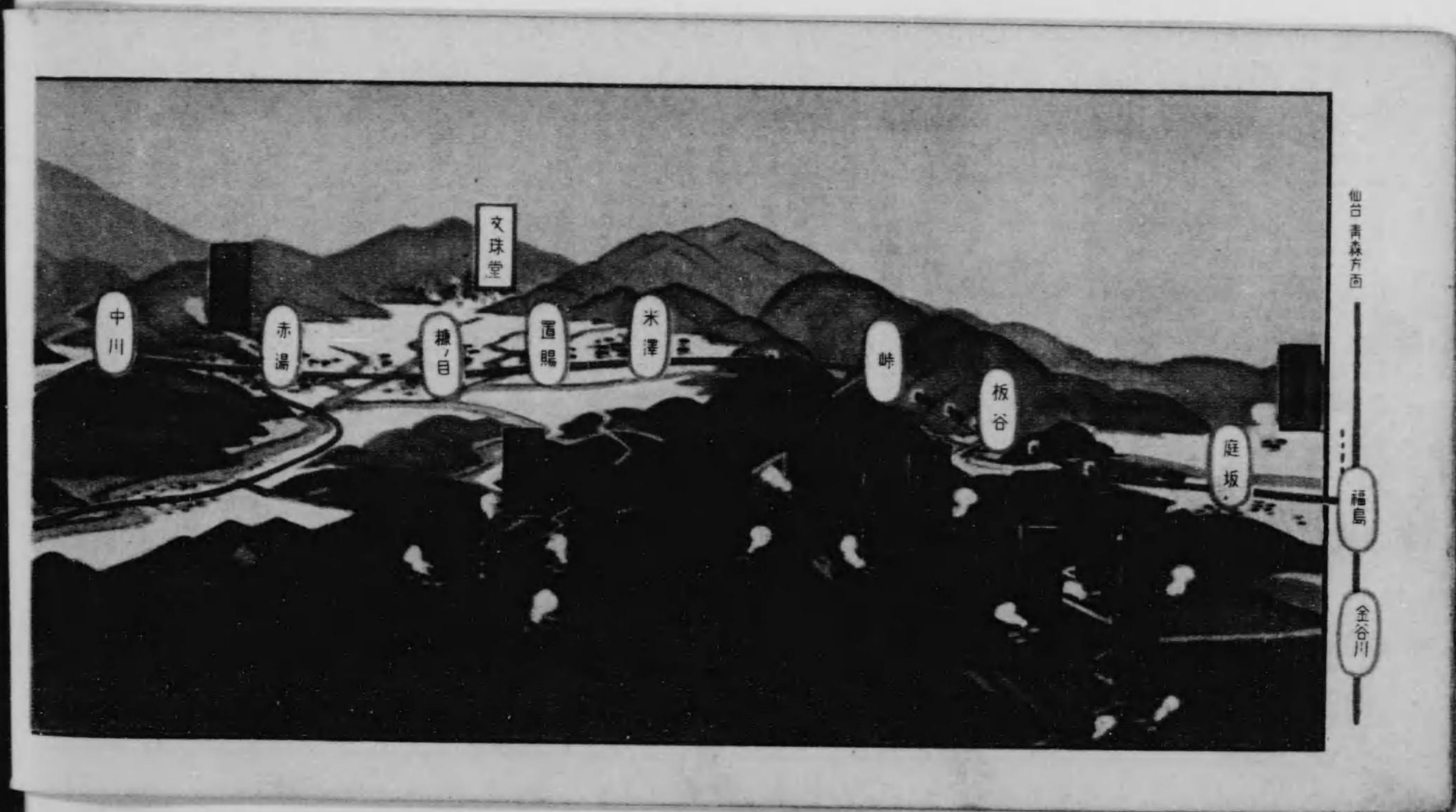
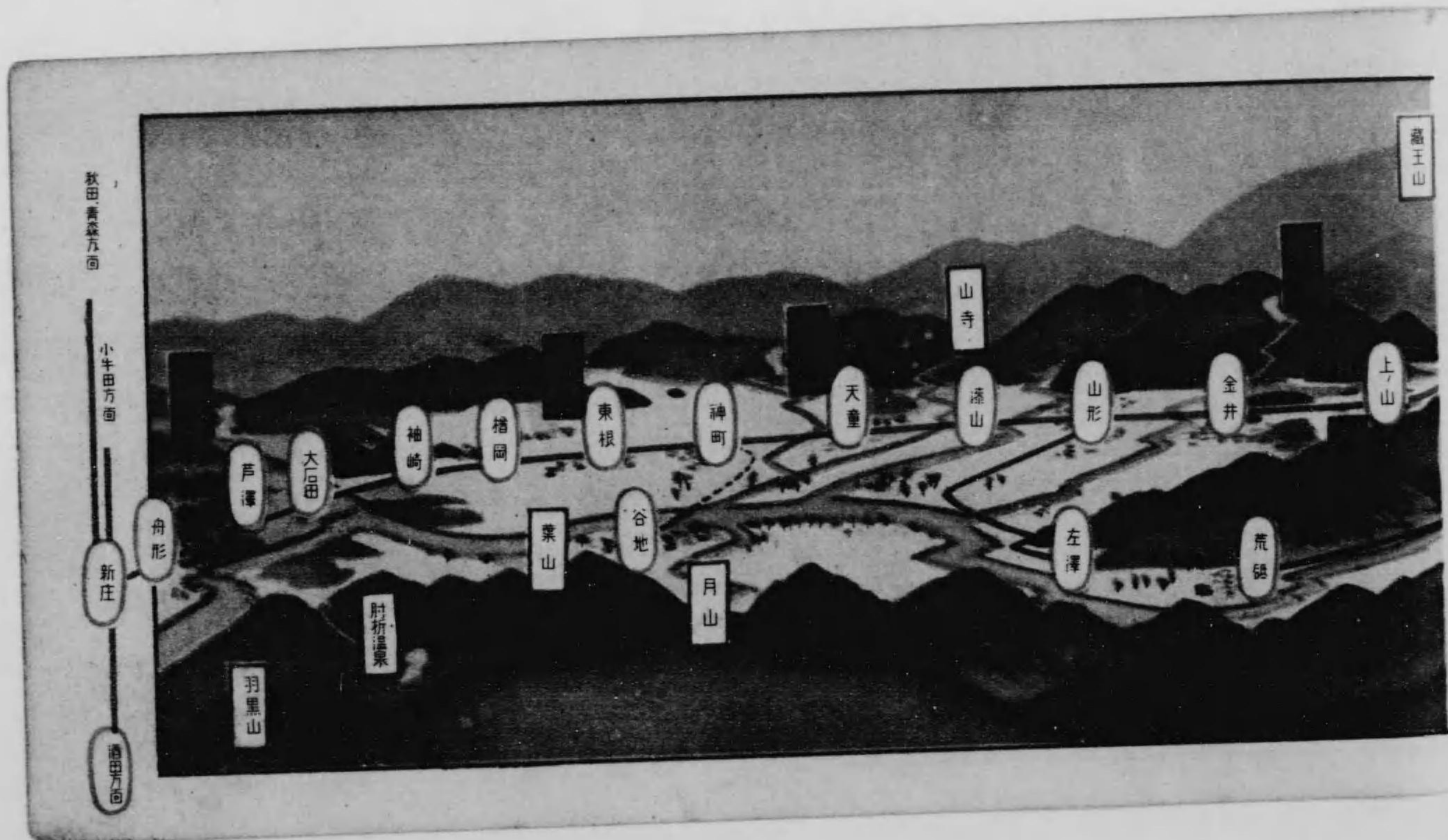
(大正十年)

奥羽本線

福島—青森 三〇二哩三分

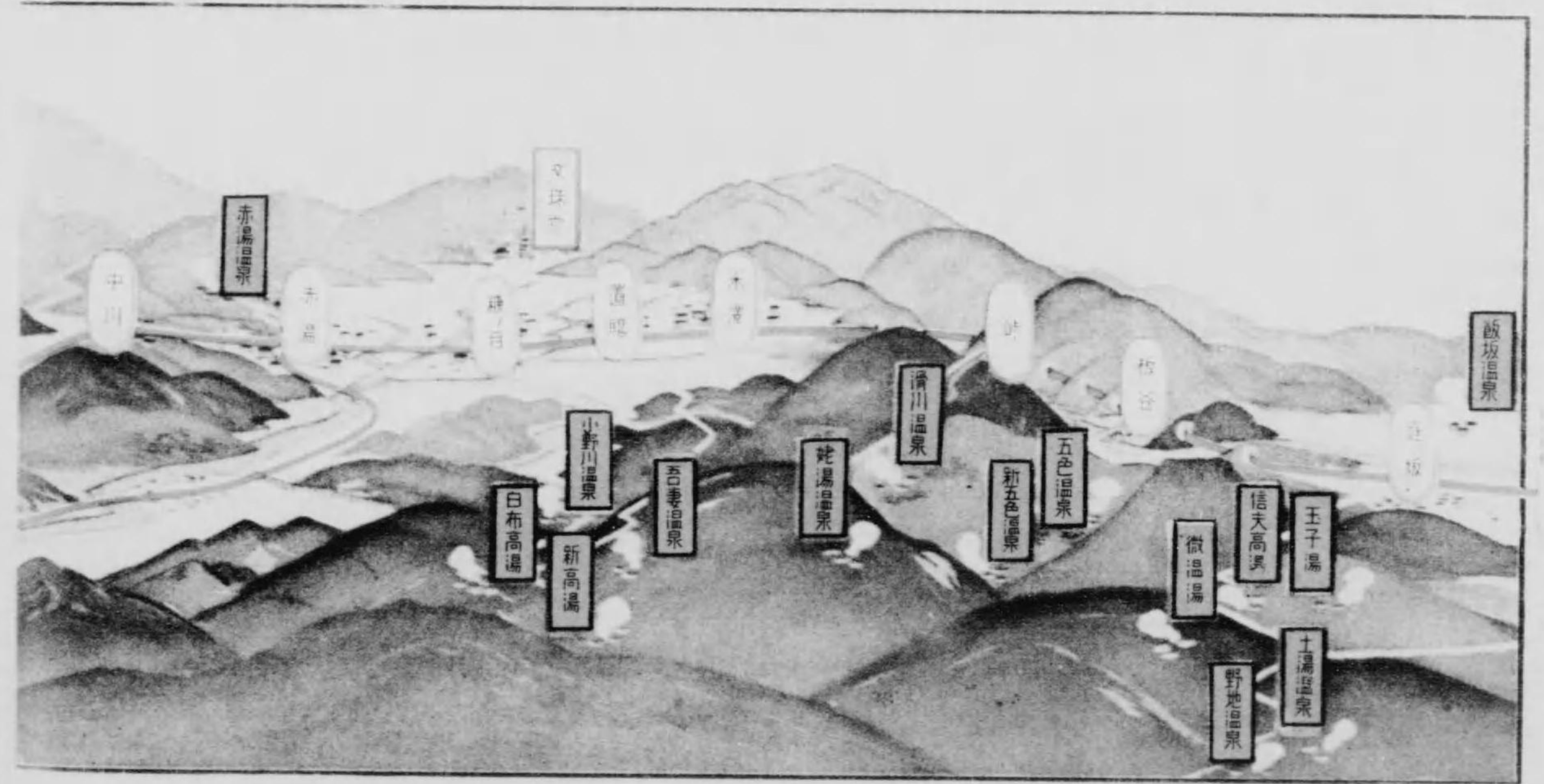
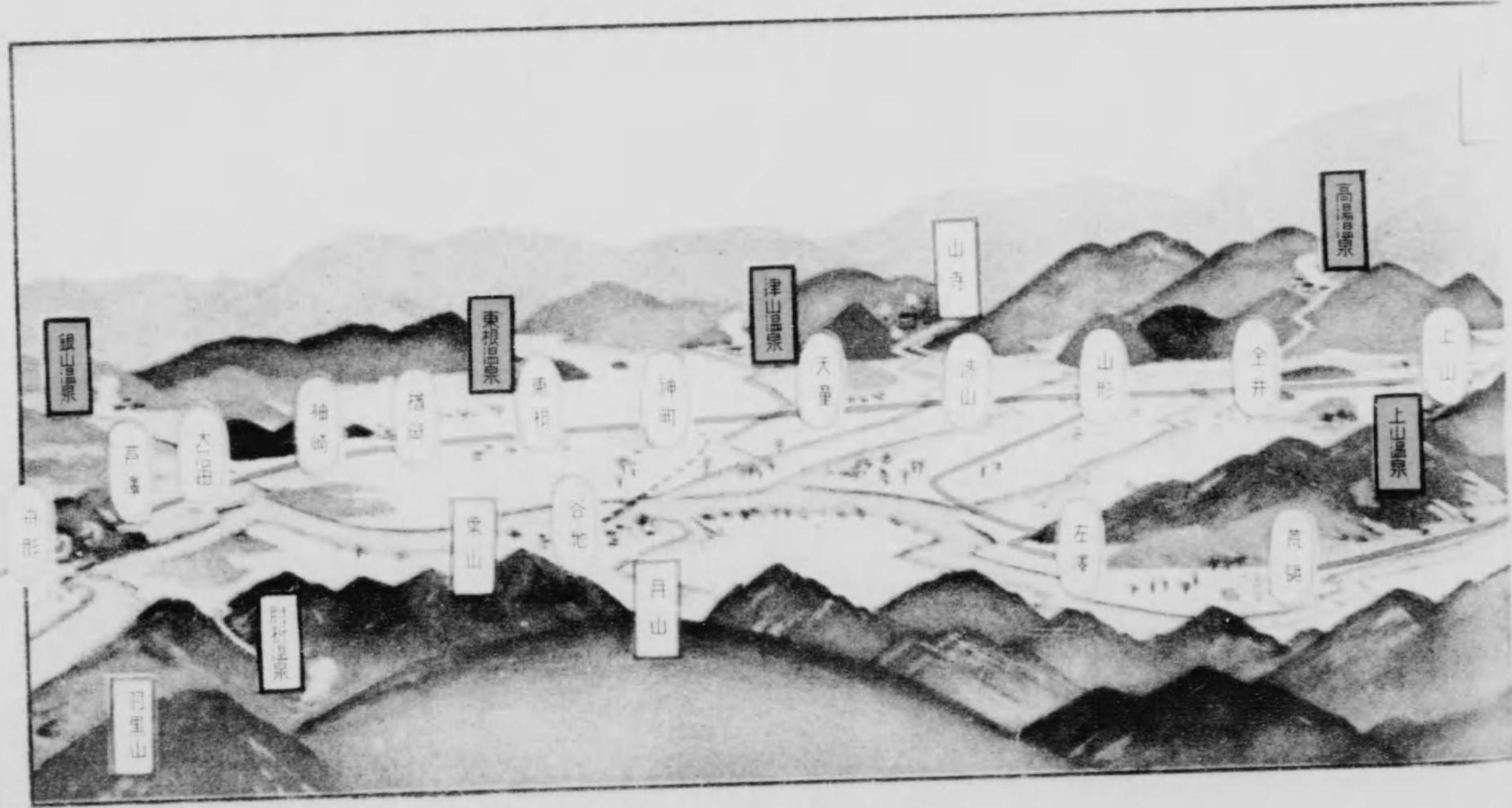
【福島】(ふくしま) 東北本線参照 【庭坂】(にはさか) 四哩三、名産梨 ▼吾妻登山と其山麓の温泉廻り、吾妻山は東吾妻山、吾妻富士、一切經山の三山鼎足狀を爲せる火山群の總稱で、明治二十六年爆發後數回の活動あり、今尙白煙を噴いて居る、登山は庭坂よりし、驛から西二里の信夫高湯温泉に行く、馬背二圓、人夫一貫目迄一圓、旅館玉子湯、吾妻屋、一泊の上吾妻登山をなし、高湯から約一里の微温湯温泉に浴す、馬背三圓五十錢、人夫一貫目まで一圓八十錢、旅館二階堂、茲から吾妻小富士、一切經山は一里餘である、翌日は微温湯から約一里の土湯温泉に抜け、更に土湯から約二里半の嶽温泉に浴す、此間は山路で徒歩を要し參謀本部の地圖も必要である、嶽から東北本線の二本松驛までは約二里、俣の便がある、以上の行程は四日又は五日で足りる、土湯から約二里西して野地温泉に出れば、耶麻地方の温泉を巡りて磐越西線の用桁驛に出られる 【板谷】(いたや) 一三哩五 ▼五色温泉、西南三十丁、駕籠二圓二十錢、案内人夫賃三十錢、荷物運搬賃五貫目まで四十錢、温泉附近にスキー練習場あり、十二月下旬より三月下旬まで宗川旅館内に山形スキー俱樂部支部を置く、旅館宗川 ▼新五色温泉、西南三十三丁、駕籠賃等五色と同じ、五色の途中から分れて行く、旅館佐藤館、金子屋 【峠】(たうげ) 名に負ふ如く峠の頂上で海拔二千尺、初夏新緑の大觀あり、特に滑川姥湯温泉の秋は錦繡の美あり、兩温泉の間一里の道は松川に沿うて紅葉の美、人を酔はしむ ▼滑川温泉、西南一里坂路で徒歩を要する、

露光量違いの為重複撮影



露光量違いの為重複撮影

新田 高尾山 小田原 新田



新田 高尾山 小田原 新田



福島屋 ▼姥湯温泉、西南二里、旅館杉形屋【米澤(よねざは)】
 二六哩一 上杉氏の舊城下で人口四萬二千人を有し、米澤織の産地として機杼の響る處に喧しい、名産は此他に櫻桃、酒、米、生牛等がある。市内見物も二三時間あればよい、其中心は驛から西二十丁の舊城址松柳公園で俵四十錢である。入口に鷹山公を祭つた松柳神社あり、中央に別格官幣社上杉神社がある、市役所、物産陳列館は公園の東約五丁にあり、市第一の互利で怪傑直江兼續の墓のある林泉寺は驛の西南二十四丁、俵五十錢、此近くに高等工業學校がある、驛の西北三丁の佐氏公園には常信庵があり、佐藤正信、繼信、忠信の靈を祀り、正信の室梅尼のミイラがある、俵二十錢、旅館音羽屋、東洋屋、茜屋、武蔵屋 ▼小野川温泉と高湯、小野川温泉は驛から西二十丁、自動車一圓、俵一圓三十八錢、積雪中は箱轎を使ふ、旅館小野川ホテル、扇屋旭屋、登府屋、小野川から向二里半進めば白布高湯温泉がある、俵は二人曳きでなければ行けぬ、旅館東屋、中屋、西屋【櫻ノ目】(ぬかのめ) 三二哩一 高島鐵道は茲から高島まで三哩二分、賃金十六錢 ▼銀岡文珠堂、東一里四丁、俵七十錢、日本三文珠の一で堂宇壯麗である【赤湯(あかゆ)】 三六哩一 長井線の分岐點 ▼赤湯温泉、東十六丁、俵四十錢、人車軌道二十錢、積雪の際は箱轎を用ゐる、後山烏帽子山は借樂園と呼び八幡神社あり、櫻の名所である。温泉から近く白龍湖がある。名物専菜、石焼唐辛、旅館丹波館、湊屋、丹泉ホテル、堺屋等

長井線 赤湯、荒砥間一九哩の支線である、宮内町驛の附近は製糸工場多く長井、荒砥は長井細俗に米琉の産地である、又長井の近くには久保の櫻と云ふ名木がある

【中川(なかがは)】 中山の葡萄園、一里、歐洲種の適地で栽培反別三十町歩、産額三萬貫以上に上る【上ノ山(かみのやま)】 上ノ山温泉、西十丁、俵二十五錢、奥羽三樂境の一、町の西丘月岡城址は眺望が好い、旅館よね屋、瀧澤屋、湯元屋、松本屋、寒河江屋【金井(かない)】 五二哩 ▼酢川温泉、東南三里五丁、途中より

り坂路になるので俵は二人曳を要し、賃金六圓、所謂最上高湯である、藏王山へは三里程で、高湯口、寶澤口、清水口の三登山路あり、山を越えて東麓の青根、遠刈田方面の諸温泉を巡るが宜い、名物湯の花、木細工、旅館山形館、辻屋、海老屋【山形(やまがた)】 五五哩三 福島から三時間半、左澤線の分岐點、もと最上といひ水野氏五百石の舊城下で今人口五萬人を有し、



臘月餅、千歳焼、櫻桃、桐紙、林檎、銅鐵器、慶斗梅、黒柿細工、薄荷等の名産がある。市内外の名勝には驛南九丁に六柱八幡神社あり、俵三十錢、東北二十五丁に千歳公園、俵五十錢、公園に接して古の園分寺、柏山寺がある、俵五十五錢、貸切自動車三圓、又千歳山の北麓には萬松寺あり、東北一里八丁、俵一圓、市内第一の伽藍、専稱寺は東北二十丁、俵四十錢、釋迦堂は日本三釋迦の一で、東一里半俵一圓、以上名所廻遊自動車貸切十五圓、俵四圓五十錢、山寺立石寺は漆山からは東二里、俵一圓二十錢であるが、山形からは東北三里二十八丁、俵二圓十錢、自動車八圓、寺は山の中腹にあり金山奇岩怪石累々として重疊し、磴道紆綖、殿堂巍々として散在し出羽屈指の靈刹である、山形旅館後藤屋、山形ホテル、柴田屋、杉山館、名物やたら漬、のし梅、山寺旅館山寺ホテル

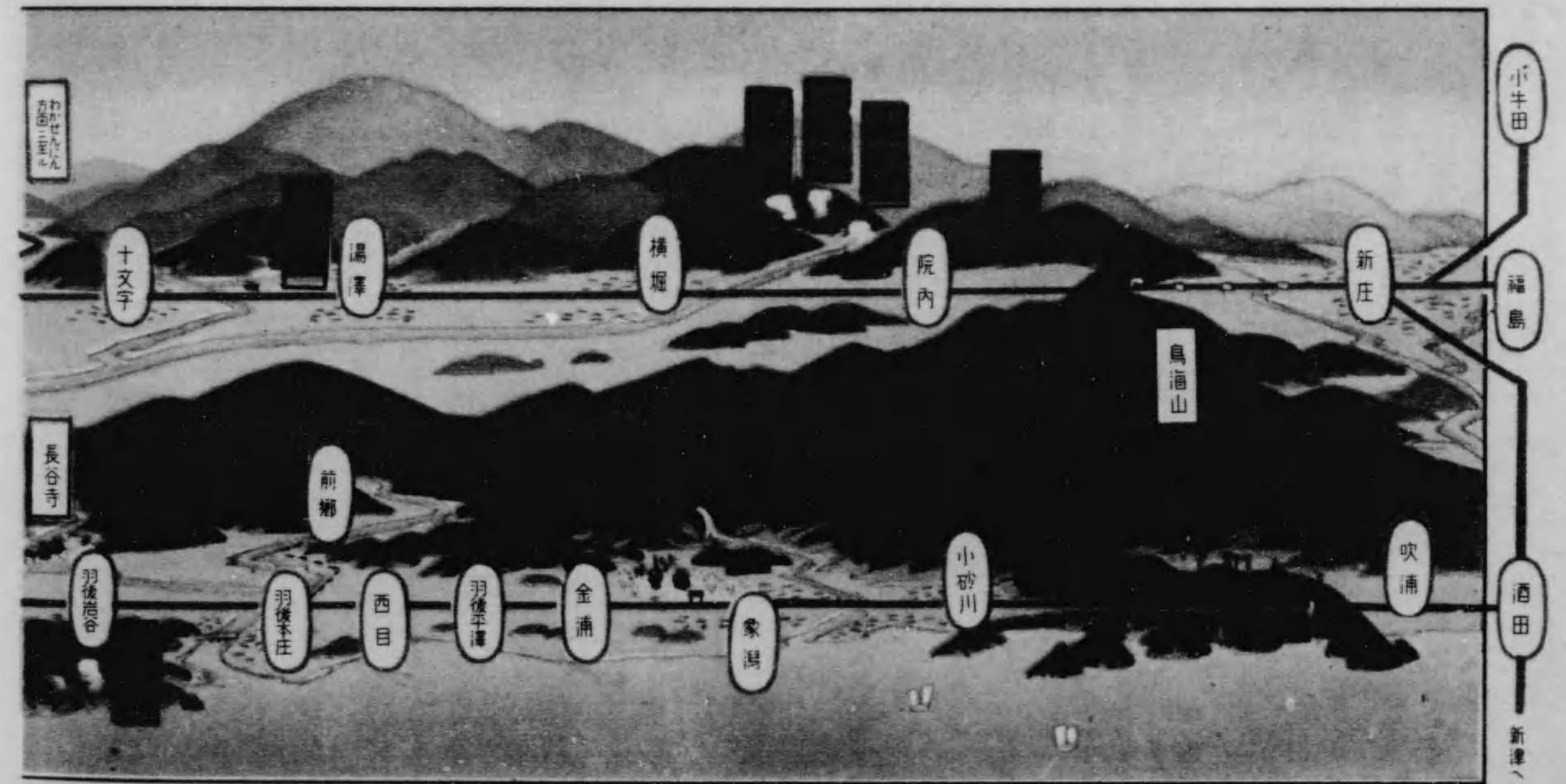
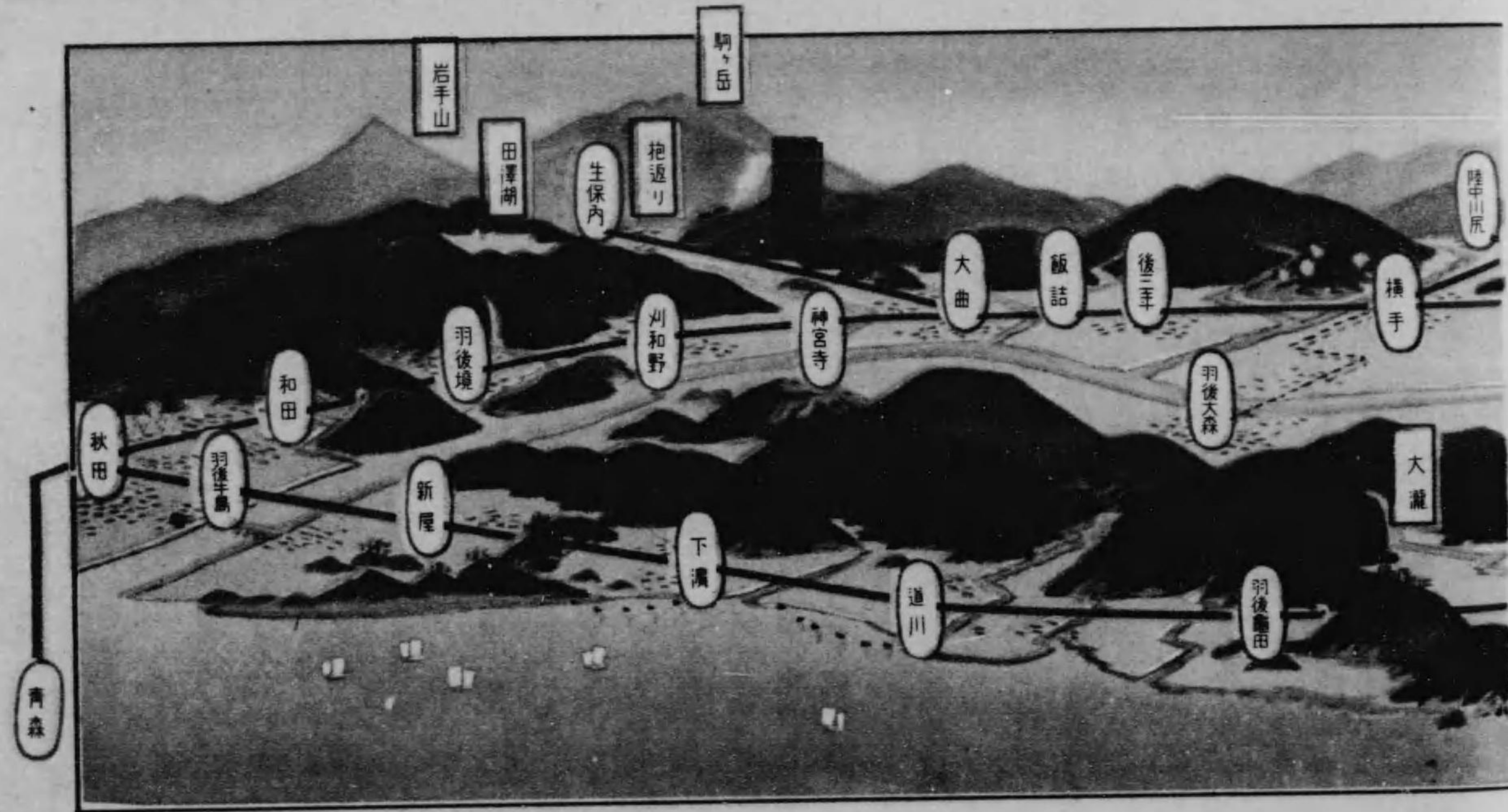
山形市は山形縣廳所在地で、縣は羽前國及羽後國の一部を管轄して居る。奥羽山脈東境に連り、西部も亦山脈連亘して鳥海山、月山等あり、閉山脈の間には米澤盆地山形盆地あり、最上川貫流して北し、日本海に入る、川の下流の庄内平野には米の産多く、酒田港其集散地となつて居る。山形市附近よりは櫻桃薄荷を出し、米澤は養蠶機業の繁盛に、米澤織の名風に世に聞えて居る。

櫻桃の主要産地

山形	二〇五、九二六圓	福島	一三一、八八七圓
北海道	九一、七〇四圓	秋田	五六、七一〇圓
青森	三三、五〇六圓	全 國	五六三、六九九圓

左澤線 山形、左澤間一六哩三分の支線で、長井線と連絡すべき未來を有する線路である【羽前長崎(うぜんながさき)】 東三十丁の達摩寺境内に樹齡五百年を超えた達摩櫻がある【羽前高松(うぜんたかまつ)】 一三哩二 ▼慈恩寺、北廿五丁、地方有数の古刹、堂塔伽藍見るべきもの多く、其本堂は特別保護建造

露光量違いの為重複撮影



物となつて居る。▼出羽三山詣、山形方面から三山へ登山する人はこの高松から行くが宜い、高松白岩間二十二丁俵四十錢、白岩海味間二里廿七丁自動車一圓三十錢、海味から本道寺、志津を経て湯殿山へ八里六丁、湯殿山から月山へ一里廿丁、月山から羽黒山へ六里十丁（陸羽線参照）。▼左澤（あてらさ）▼浮島稻荷神社、西南四里、自動車途中まで一圓、俵二圓、白鳳年間役行者の開基と傳へ、御手洗の大池を大沼と云ひ、數十の浮島あり、時々水面を遊行す、梅雨期最浮動すと云ふ。

【天童（てんどう）】六三哩六 織田氏二萬石の舊城市、驛東の舞鶴山は舊城址で山上信長を祀つた建勳神社がある、旅館都館、名物將基駒。▼津山温泉、東八丁、俵三十五錢、旅館二見館、新庄館鎌田ホテル。▼山寺立石寺、東南二里六丁、津山温泉に浴して茲から行くが便利である、自動車貸切四圓、俵一圓三十錢。▼若松觀音、東一里十丁、村山平野より三山にかけて最眺觀に富む。

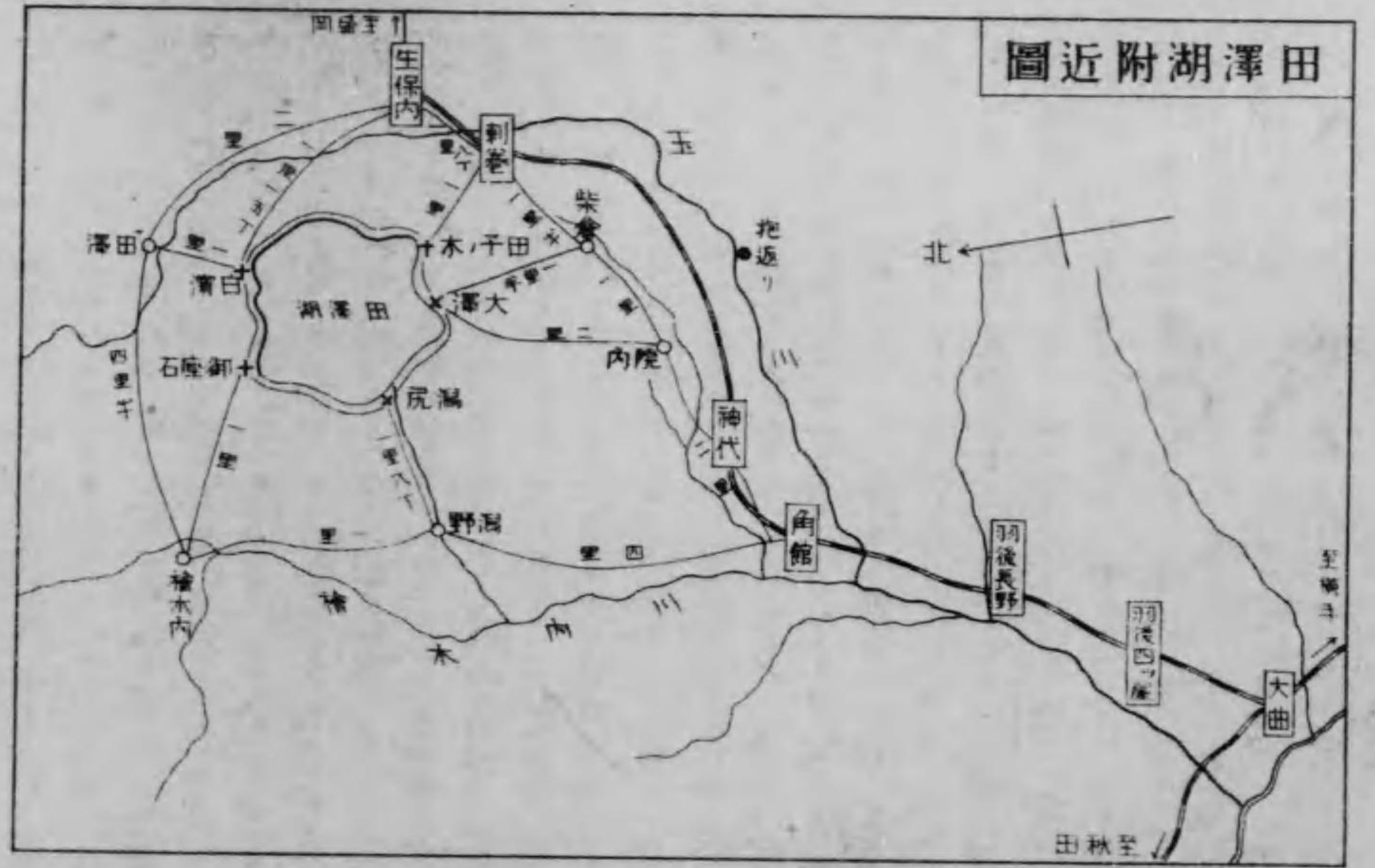
【神町（じんまち）】茲より谷地に至る三哩六分の軌道あり【東根（ひがしね）】▼東根温泉、東北十丁俵廿錢、旅館銀屋、本郷屋（ひがしね）。▼最上川の河港とも云ふべく酒田迄流程廿二里沿岸の風光が佳い。【新庄（しんじやう）】九三哩五 陸羽線分岐點、戸澤氏六萬八千石の舊城下で今人口一萬八千人を有する、其沼田城址は西十二丁、俵三十錢、瑞雲院は東北二十丁、俵四十五錢、縣立種馬場は東北約一里、俵七十錢、泉田驛よりは南十六丁旅館新庄ホテル。【院内（ゐんない）】一二二哩 ▼湯の澤温泉、東南二十六丁、旅館日勝館。【横堀（よこほり）】一二四哩四 ▼湯の岱、稻住、鷹ノ湯温泉、南四里餘、自動車二圓、馬車一圓五十錢、俵三圓五十錢、旅館大正館、新五郎湯（湯ノ岱）八明館（鷹ノ湯）旭昇館（稻住）。【横手（よこて）】一四三哩一 西横黒線分岐點、同線は今陸中川尻まで一六哩一分開通して居るが、東北本線黒澤尻から分岐せる東線と十三年十一月に相接続する豫定である。横

莊鐵道はこの方面からは羽後大森まで一二哩九分開通して居る。戸村氏の舊城邑で城址は東十五丁、俵四十錢、今公園となつてゐる、戊辰の役に戸村氏勤王の大義を唱へて孤軍奥羽聯合軍に當つた地である、旅館平源、平利、小坂。【後三年（ごさんねん）】一四七哩 ▼金澤の橋址、東一里俵一圓二十錢、後三年の役に清原武衡、家衡が王帥に抗した舊址で今公園となつてゐる、園内義家の勸請した八幡宮がある。【大曲（おほまがり）】一五四哩六 生保内線の分岐點、旅館枕流館、西村。

生保内線 大曲から生保内まで二二哩一分の間開通して居るが、將來は橋場線に接続する線である。【角館（かくのたて）】一〇哩四 蘆名氏の舊城邑で、城址は北十二丁、俵三十五錢、旅館石川、小林。【神代（じんたい）】一四哩二 ▼抱返りの勝、東二十丁、玉川の上流三里餘に互れる山峽を云ふ、奇岩、怪石多く、佳趣に富める幾條の飛瀑あり、春は櫻、初夏は躑躅、秋は紅葉の勝あり、又角館驛から東を新抱返り、神代刺卷間の山峽を裏抱返りと云ふ。【生保内（おほほり）】二二哩一 ▼田澤湖、湖畔白濱まで北一里餘、途中竪塚、中山菅莪先生の宅址あり、自動車五十錢、俵八十錢、湖上を一周して其日に歸られる、湖畔には湯尻、白濱、御座石に旅館があり、湖上遊覽の舟も備へてある。湖は周廻五里正し、圓形をなしてゐる、遊覽季節は夏から秋にかけて、冬は積雪が深くて行けぬ、湖畔には漢棧宮榎木明神、御座石明神、田子の木、大澤等がある、湖上一周舟賃一人一圓五十錢、貸切三時間一艘十圓、湖の名産には國鱒、口黒鱒、鮭鱒等がある、旅館兒玉、古村（生保内）、湖心亭（湖畔）。▼駒ヶ嶽、頂上まで三里半、海拔五千四百尺の休火山、高山植物に富む、山麓に鶴ノ湯、蟹湯、黒湯の諸温泉あり、抱返りの探勝、田澤湖の舟遊、駒ヶ嶽登山並に温泉巡りは生保内線四日間の旅行として趣味多きものである。

【秋田（あきた）】一八六哩八 羽越線分岐點、福島より八時間半、佐竹氏二十萬石の舊城市で人口四萬二千人を有し、物産には畝織八丈織、金銀細工、羽二重、秋田蕨、蒔越、蒨砂糖漬等がある。秋田の大體を見るには西北二丁の千秋公園に行くがよい、俵三十錢、舊城址で東北第一の公園といはれ、園内に櫻が多く花期は四月廿五六日より五月上旬まで、ある。園内に舊藩祖を祀つた八幡秋

田澤湖附近圖



田神社、義堯侯の銅像がある、園上から秋田全市の瓦葺が一目に
 されるのである。八橋公園は西二十五丁、俵六十錢、金照寺山は
 東六丁、平田篤胤の墓は東北二十二丁、俵五十錢、東北十五丁に秋
 田鐵山専門學校、北一里に泉石油礦場がある、西南十八丁の感恩
 講は徳川時代から感化救済事業を續けてゐる、秋田市内の俵二十
 五錢より六十五錢まで各五錢づゝの差で區別し、定期の乗合自動
 車は一區二十錢、二區二十五錢である。旅館木村、關根屋、達摩

屋、小林、山田屋、敦賀屋

秋田市は秋田縣廳所在地で、縣は羽後國の大部及陸中國の一部を管轄して居る。
 東境には奥羽山脈連亘し、中央には森吉火山あり、日本海岸には男鹿半島突出し
 て八郎湯を抱いて居る。縣は最勝山に富み、銀山として名高き檜山あり、金銀
 銅を産出する奥内銀山あり、荒川銅山あり、能代川流域には有名な小坂を始め尾去
 澤、不充倉、阿仁の銅山あり、土産青も亦此縣の特有産地である。尾去澤地方は
 又山林多く、河口の能代には大なる製材所ありて輸出して居る。縣の中郡以南は
 柳川川の流域で、秋田市其下流に在り、附近石油を産し、黒川油田最世に開え、
 土産に製油所がある。

【土崎】(つちさき) ▼國幣小社古四王神社、西南二十丁、俵七十錢

秋田驛より西北一里十丁、俵八十錢 ▼日本石油秋田製油所、西
 北十三丁 ▼黒川石油礦場、北三里半 【追分】(おひわけ) 船川線

分岐點、同線は追分、船川間十六哩五分の支線である ▼男鹿半
 島廻り、男鹿半島は日本海の怒濤激浪を受ける斷崖で、巖石奇怪

を極め豪快な風景を作つてゐる、先づ船川より舟行加茂に至り日
 歸りするのが普通で、門前より加茂まで三哩四分の島廻り中に阿

字ヶ島、鶺鴒窟、大棧橋等の奇勝がある、行くには梅雨期節靜穩
 な日を選ぶのがよい、船川より加茂まで七人乗船一艘船頭二人付

で約七八圓、發動機船二十人乗二十五圓である、尙暇のある時は
 加茂から六哩八分の戸賀に至れば此間の風景も遊覽に價し、戸賀

より一里の湯本温泉に一泊し、翌日湯本より一里の北浦町に出で
 更に馬車にて三里四丁船川線羽立驛に出るのが面白い、北浦から

羽立に行く途中から寒風山に登ると、八郎湯が眼下に展望されて
 壯快な景色に接せられる、此廻遊するには豫め舟を申込んで置

くがよい 【大久保】(おほくほ) ▼八郎湯、西十丁、當驛より五城
 目を経て鹿渡に至るの間八郎湯の風光は旅客の目を樂しましむる

ものがある ▼豊川石油礦場、東十五丁 【五城目】(ごじやうめ)
 茲から東五城目まで二哩四分の軌道がある ▼三倉鼻、北一里俵

三十五錢、八郎湯の全景が見られる 【磯】(いそ) 二二二哩
 福島より約十二時間、能代線分岐點、同線は能代まで二哩五分、

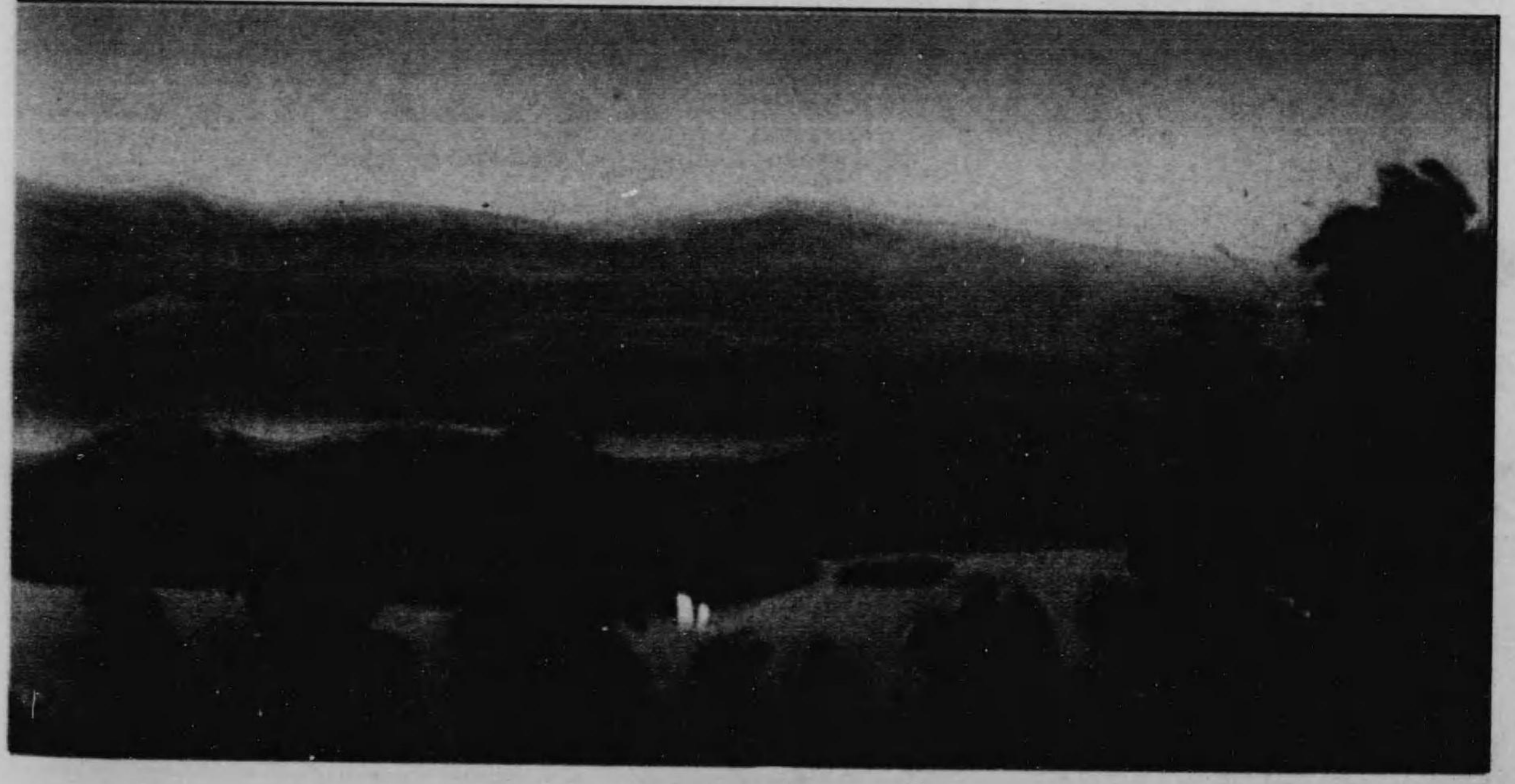
能代は能代河口の港で人口二万一千人を有し、木材、春慶塗の産
 地として知られ、驛の北五丁秋田木材會社は東洋第一といふ。町の

内外挽材工場が多い 【二ツ井】(ふたつゐ) ▼七座山神社、東南一

内外挽材工場が多い 【二ツ井】(ふたつゐ) ▼七座山神社、東南一



鈴山崎見え
十和田湖

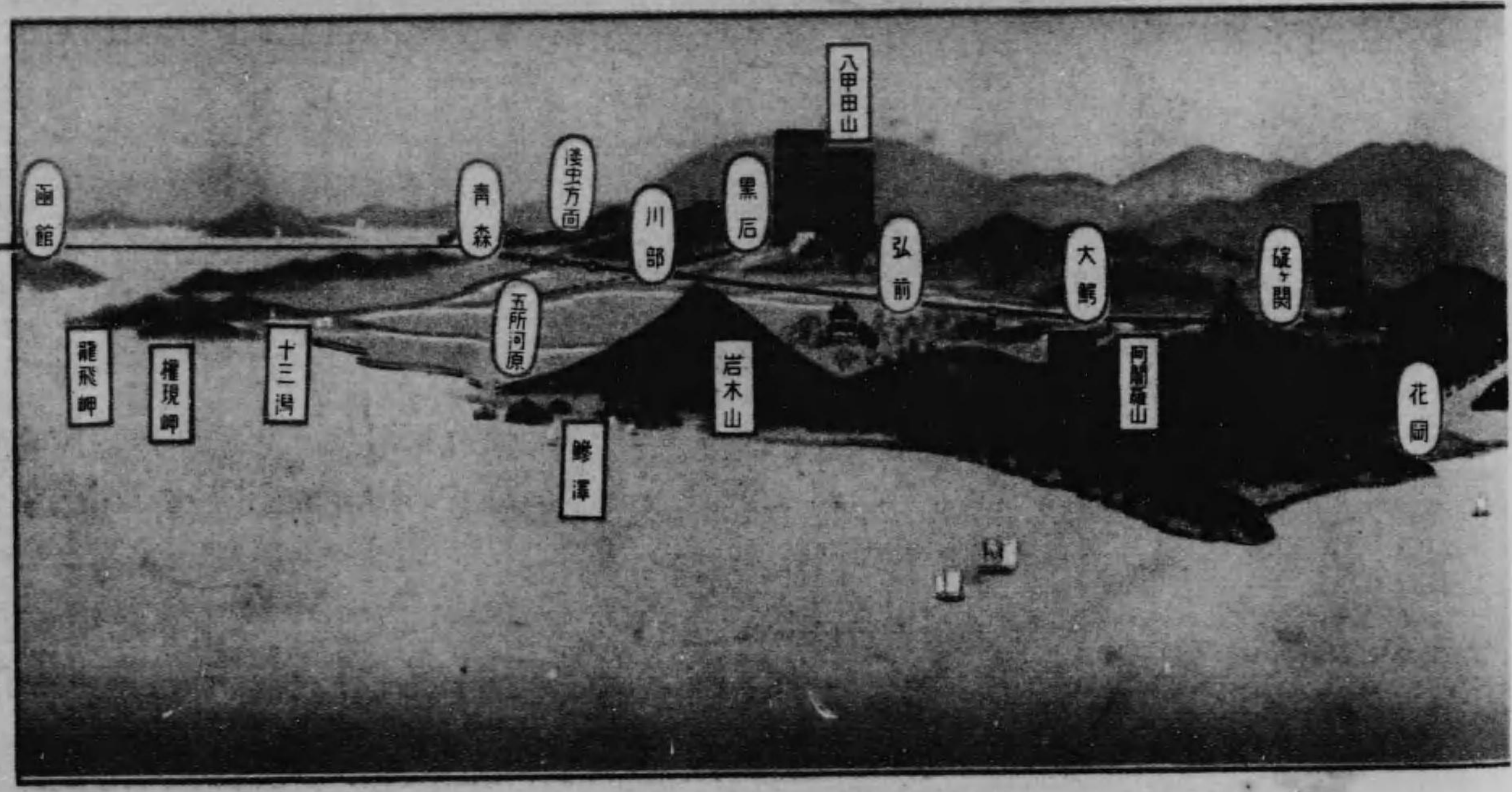


里、俵一圓、自動車六十錢、七座山上にあり古木森々として祠宇莊嚴である。▼俵后坂、東北二十丁、自動車三十錢、俵五十錢、嘗て明治天皇が米代川の風光を賞覽あらせられた處である。▼太良嶺山、北六里。▼阿仁嶺山、東十里【大館】おほだて。二五一哩五。福島より約十三時間、小坂鐵道、秋田鐵道の分岐點、旅館花岡、齋藤。十和田湖遊覽者の下車地で、東北線古間木から入る表口に對して裏口と云ひ、小坂秋田兩鐵道に頼る。小坂鐵道は驛から右に向ふ本線と、左に花岡に向ふ支線とがある。本線は茂内から二つ屋に支線が分れ、長木澤驛の北二里には三大美林の一二數へらるゝ國有長木澤の森林がある。三十間以上もある老杉叢々として聳え、其面積九千町歩、樹齡概ね百五十年と云ふ。小坂は藤田組の嶺山所在地で、人口二萬人を有する盛況である。大館から小坂まで三等五十錢、二等八十八錢。秋田鐵道は大館驛から南東に向ひ花輪に至る鐵道である。扇田驛よりは南二里乃至五里の間大巻、大葛、扇田の諸嶺あり、大瀧溫泉驛より東北三丁には大瀧溫泉あり、旅館前田、藤島、毛馬内は大湯、十和田湖遊覽者の下車地、驛前に滿曲錦木に名高き錦木塚あり。大館から毛馬内まで並等八十一錢、特等一圓六十二錢。花輪はこの線の終點で尾去澤嶺山に近く、南東二里半、米代川の上流に湯瀨溫泉あり、自動車二圓、旅館關、阿部。▼十和田湖遊覽、十和田湖が近年世に知られ出したのは清澄鏡の如き湖水が斧鉞の入りぬ如き四面の峯巒を控へ、其一灣一岬又は其一石すらの追従を許さね神祕境なるに加へ、秋季紅葉の大觀と夏季暑熱を忘れる境となる點等である、湖は秋田青森の縣界にあり、海拔一千三百尺、周圍十六里、深さ一千二百尺に達する、今各方面からの交通路を示せば(一)毛馬内より大湯溫泉まで一里半、自動車一圓、俵一圓五十錢、馬車五十錢、旅館大湯ホテル、かめや、千葉屋、大湯より發荷峠を越えて湖畔發荷まで四里二十一丁、自動車發荷峠まで二圓五十錢、毛馬内驛より貨切自動車五人乗十五圓、馬車三人迄七圓五十錢、俵二人曳九圓、峠から湖畔まで急坂二十丁、(二)小坂より毛馬内を経て大湯に至る三里、俵一圓六十錢、自動車一圓四十錢、馬車一圓

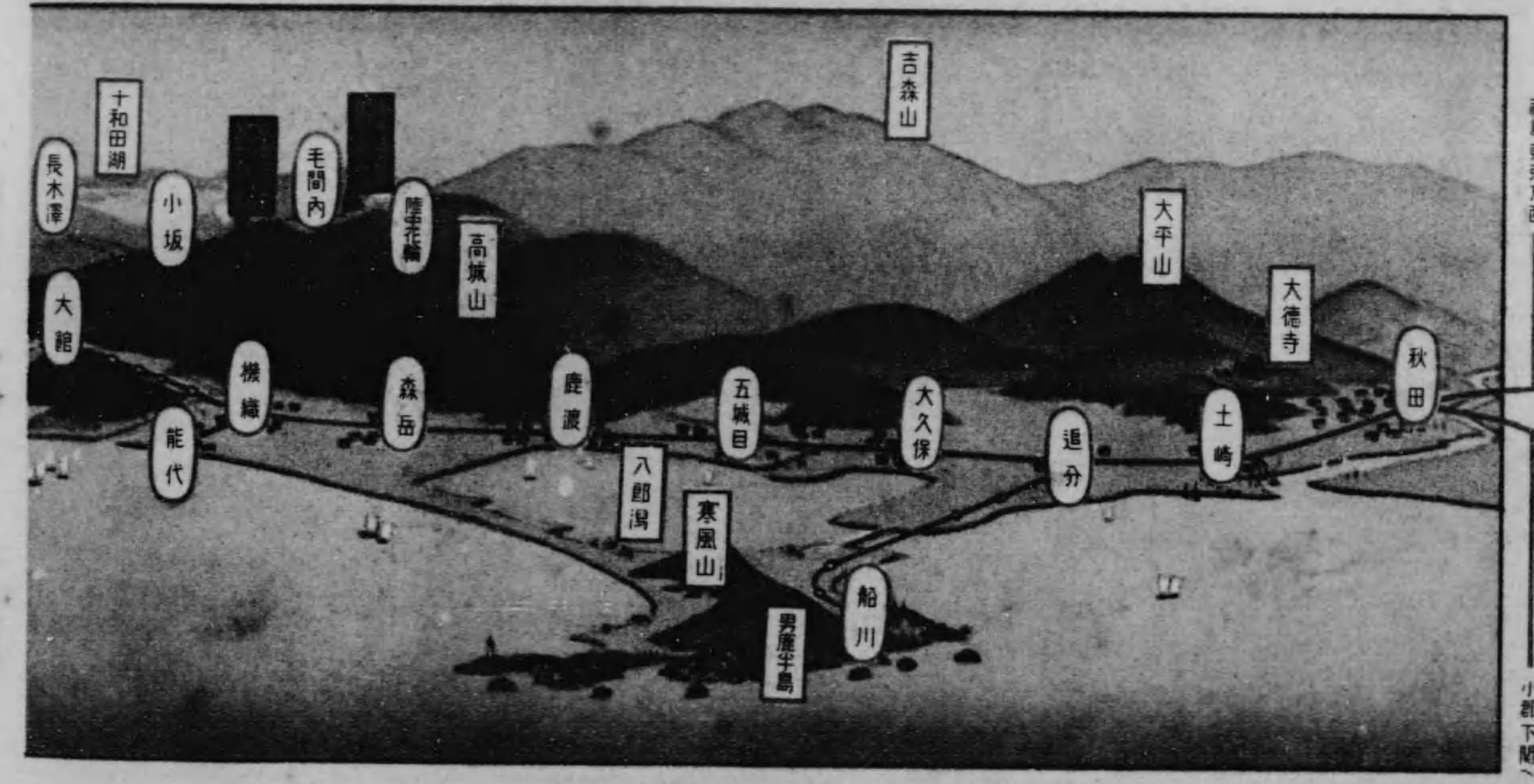
十和田湖附近交通地圖



露光量違いの為重複撮影



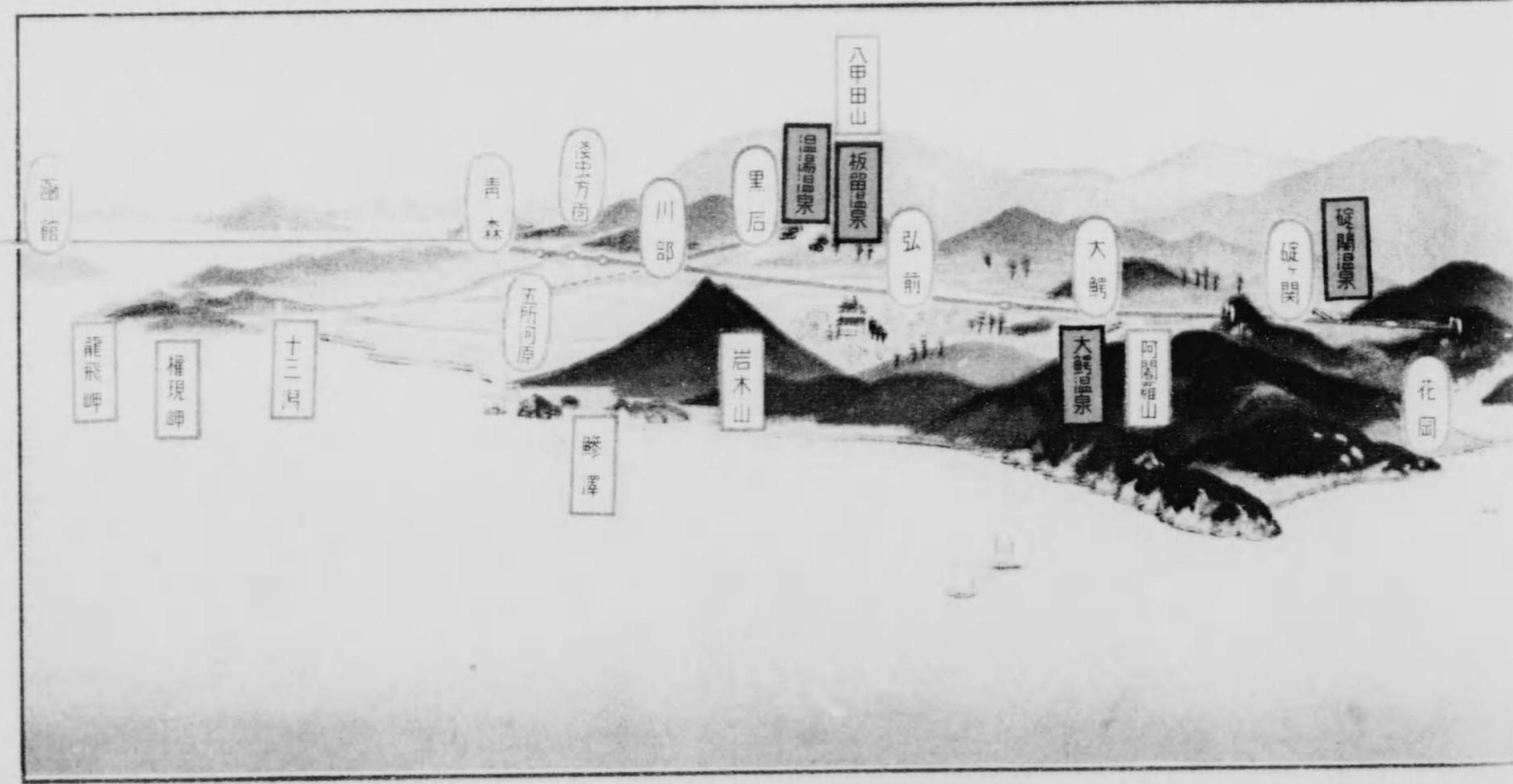
小樽北側方面



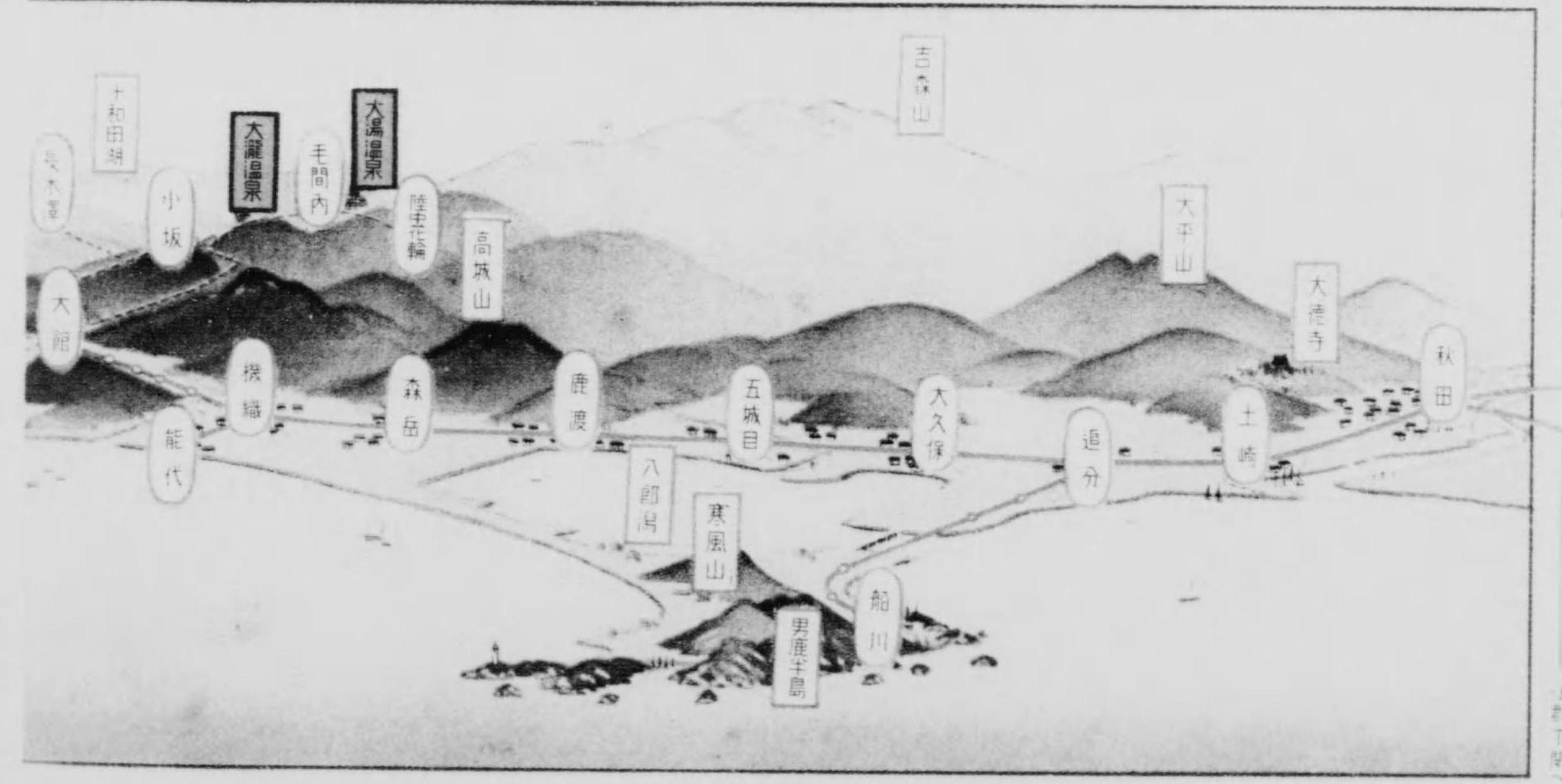
福島東京方面

小樽下側

露光量違いの為重複撮影



小樽北側方面

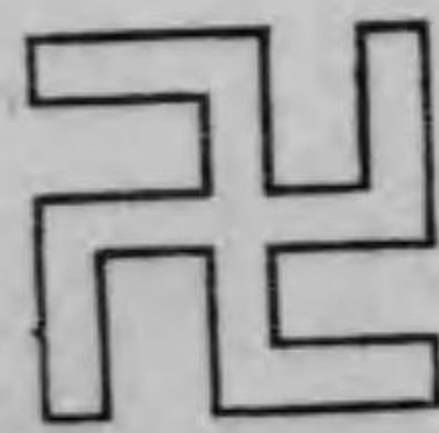


雄勝半島方面

小樽下町

大湯よりの順路は(一)に同じ、小坂より湖畔鉛山まで鉛山峠越約六里の道は學生などの徒歩旅行に適してゐる、馬背によれば約五時間賃金約三圓五十錢、(三)東北本線の古間木より三本木を経て奥入瀬の溪流を溯り湖畔子ノ口に達するのを表口と言つてゐる、古間木より三本木まで十和田鐵道の便もあるが自動車も通ふ、鐵道賃四十六錢自動車一圓、三本木より焼山まで六里、此處より奥入瀬の溪流は漸く奇に入り石合砥淵、三亂れの流、白銀の流などの奇勝がある、焼山から右の道を一里八丁行けば葛温泉がある、表口から十和田に行く人は此温泉に一泊するがよい、附近に靜な神秘的な湖沼が多い、葛温泉から再び焼山に戻り、三里半すれば子ノ口に出る、この間が最溪流樹林の美があるから徒歩するが宜い、自動車で走過るには餘に惜しき景色である、自動車三本木から焼山まで三圓五十錢、焼山から子ノ口まで二圓、(四)黒石線黒石驛より約十里で湖畔瀧ノ澤に出る、驛より途中温湯温泉まで二里、馬車六十錢、温湯から板留温泉へ十二丁、馬車七十錢、板留から二庄内温泉へ二十四丁、二庄内から沖浦温泉へ十六丁、沖浦から温川温泉へ四里二丁の各温泉があり、温川から瀧の澤峠まで一里半、峠から湖畔瀧の澤まで下り一里、馬車は板留まで通ふが夫れからは相當の人数にならぬと出ぬ、此の道は學生の探勝に最適當である、(五)青森から酸ヶ湯温泉を経て行くもの、青森酸ヶ湯間五里半、途中廣内村まで馬車五十錢、横内から馬背による一頭三圓位、酸ヶ湯より谷地を経て萬ノ湯まで約四里、萬ノ湯より焼山を経て子ノ口に出る、この道は健脚者に勤める、十和田湖週遊には發動汽船あり、一隻十五圓、乗合の人数により一圓五十錢乃至三圓位の見當である、湖畔旅館十和田ホテル觀湖樓、十灣閣(發荷)、十和田ホテル、十和田館(休屋)、子ノ口館(子ノ口)、名産生鱒、鱒燻製、落砂糖漬、[陣場](ぢんば)北西二十丁、口景、矢立の兩温泉あり、[碓ヶ關](いかりがせき)▼碓ヶ關温泉、南八丁傳二十五錢、旅館葛原、柴田、[大駒](おほまこ)二七一哩七平川の清流を隔て、大駒、藏館の兩温泉がある、大駒は五丁、傳二十五錢、旅館加賀助、大駒ホテル、藏館は八丁傳三十錢、其大日

堂に名高き萩桂の名木がある、旅館仙遊、小林 ▼阿闍羅山、二十丁、山麓孤森は冬期スキー絶好のスロープとして最近世に知られて来た、[弘前](ひろさき)二七九哩 福島より約十二時間、津輕氏の舊城下で今人口三萬九千人を有し、第八師團司令部、高等學校あり、名産津輕産の他清酒、木通蔓細工、薬工品、織物、林檎酒、種油等を産し、附近に林檎畑が多い、市の名所は舊



城址唯一で、今鷹揚公園となつてゐる、驛の西十九丁、傳四十錢天主閣、矢倉、樓門等依然として舊態を存し、本丸には舊藩祖爲信公の銅像あり、岩木山の秀容、岩木川の銀蛇皆眺望の中に入る、物産陳列館は驛西十二丁、第八師團司令部は西南十八丁、五重塔は西廿丁、寛文八年藩主信政の建立、特別保護建造物である、旅館東館、石場、竹内、集雲館、名産林檎、林檎羊羹、林檎砂糖漬 ▼岩木山、頂上まで西約五里、山容秀麗津輕富士と呼ばれ夏期行者の登山する者甚だ多い、驛から西三里半の南麓百澤村には國幣小社岩木山神社がある、社殿壯麗で奥の日光と言はれてゐる、馬車一圓、傳三圓五十錢 ▼嶽温泉、西五里、岩木山神社より一里、馬車二圓、傳六圓、[川部](かはべ) 茲から黒石線が敷れる。黒石は津輕氏一萬石の支封地で、こゝから東二里の温湯、板留の諸温泉を経て十和田湖へ行ける、板留の近くには紅葉の勝地中野山がある、黒石旅館岡崎 ▼陸奥鐵道、川部から五所川原まで一三哩四分、賃金三等四十七錢、二等七十六錢、五所川原は岩木川の右岸に居り、津輕平野の主要地である、茲から西は餘ヶ澤北は小泊まで夏期自動車の便がある、餘ヶ澤まで六里、賃金二圓餘ヶ澤の西南三里には大戸瀧の千疊敷の奇勝あり、奇巖怪石犬牙の如く峙ち、中に数千坪の平盤岩一いはゆる千疊敷をなして居る五所川原から餘ヶ澤、深浦を経て能代に至る五能線は今工事中で本年十一月には五所川原、森田間六哩九分の開通を見、十四年三月には森田、餘ヶ澤間六哩八分の開通を見る豫定である、小泊は北十一里賃金四圓八十錢、途に十三湯の波光を俯瞰して行く、小泊は漁港で、其西に斗出せる權現岬は北海の翠黛に對し、煙波浩

瀟々たる景観である。小泊から津輕の尖端龍飛岬までは途なき岸崖を傳ふ難路、案内者なくては行けぬ、小泊から小舟又は汽船に頼るべきである。龍飛は津輕海峡と日本海との中間に突出せる陸地の突端で、絶えず南海の荒波に洗はれて岩壁屏立し、雄大な岩の景致を爲し、近く北海の白神岬と相呼應して居る【青森】(あもり) 三〇二哩三 福島から約十五時間、東北本線参照

お月様さへ夜遊びなさる、おらだ夜遊び無理はない

山で木のかず、野で葎のかず、あとは野となれ、山となれ

橋の欄干に片袖かけて、月の光りで文を読む (山形)

棚この隅この筑このひるこ、味噌こであいたとさ、笠こですくつてざとこに喰せたら味いと悦んだ

橋の下で河童こは河童こもつた、もつた河童こも河童こ、其子も河童こ、親河童女河童こだ (秋田音頭)

陸羽線

陸羽線とは

一 陸羽東線 小牛田、新庄間五八哩五分
一 陸羽西線 新庄、余目間二六哩七分
一 石巻線 小牛田、石巻間一七哩四分
の總稱で、石巻線は東北線小牛田から東に向つて石巻港に達し、東線は小牛田から西して宮城山形の兩縣界に於て、陸羽分水嶺の天險を越えて新庄に至りて奥羽線に接し、西線は更に新庄から最上川の流域に沿うて余目に至つて羽越線に接する、記事は小牛田から東する石巻線から始め、次で東線西線にうつる

石巻線

小牛田—石巻 一七哩四分

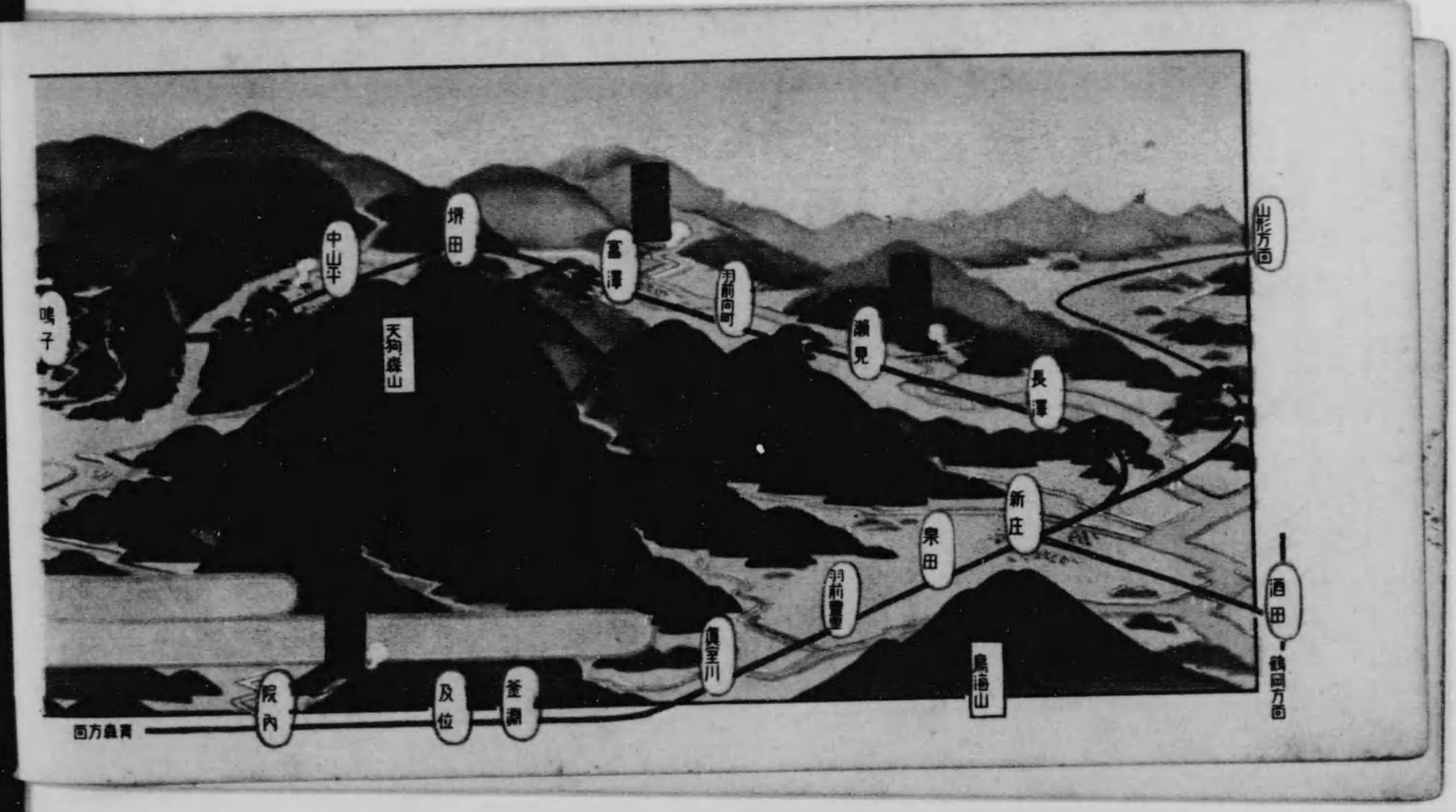
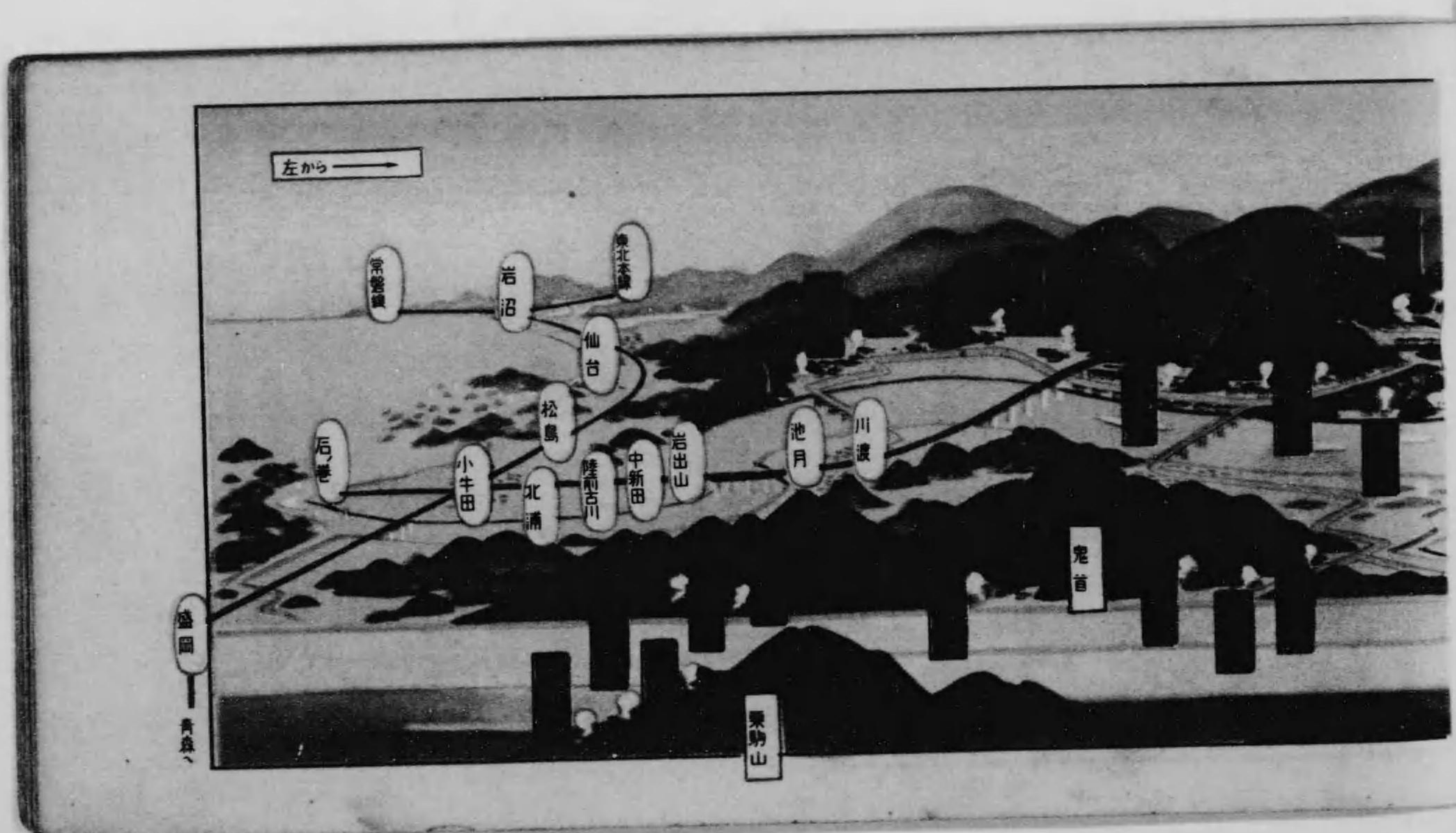
【小牛田】(こぶた) 東北本線及陸羽東線接続點 【涌谷】(わくや) 三哩九 ▼黄金神社、北二十丁 ▼笠嶽觀音、北一里 ▼城山公園、亙理伊達氏の城址で園内に仙臺騒動の忠臣伊達安藝を祀る涌谷神社がある、見龍寺には其本像がある 【石巻】(いしのまき) 一七哩四 政宗が北上川の流れを技に引いてから、米穀の輸送地として榮えた、旅館千葉菴、福島屋、阿部新、名産松島漬 ▼日和山公園、南十六丁、葛西氏の城址で鹿島神社あり風光絶佳である ▼吉野先帝菩提碑、十二丁、多福院境内にあり、南朝の忠臣葛西氏が後醍醐天皇の御冥福を祈つたものである ▼石巻海水浴場、南東三十三丁 ▼波波海水浴場、一里、自動車四十錢、俵八十錢 湊町からは軌道も行く、旅館海水館 ▼金華山、海上二七哩、汽船一圓五十錢、記事東北線に在り

陸羽東線

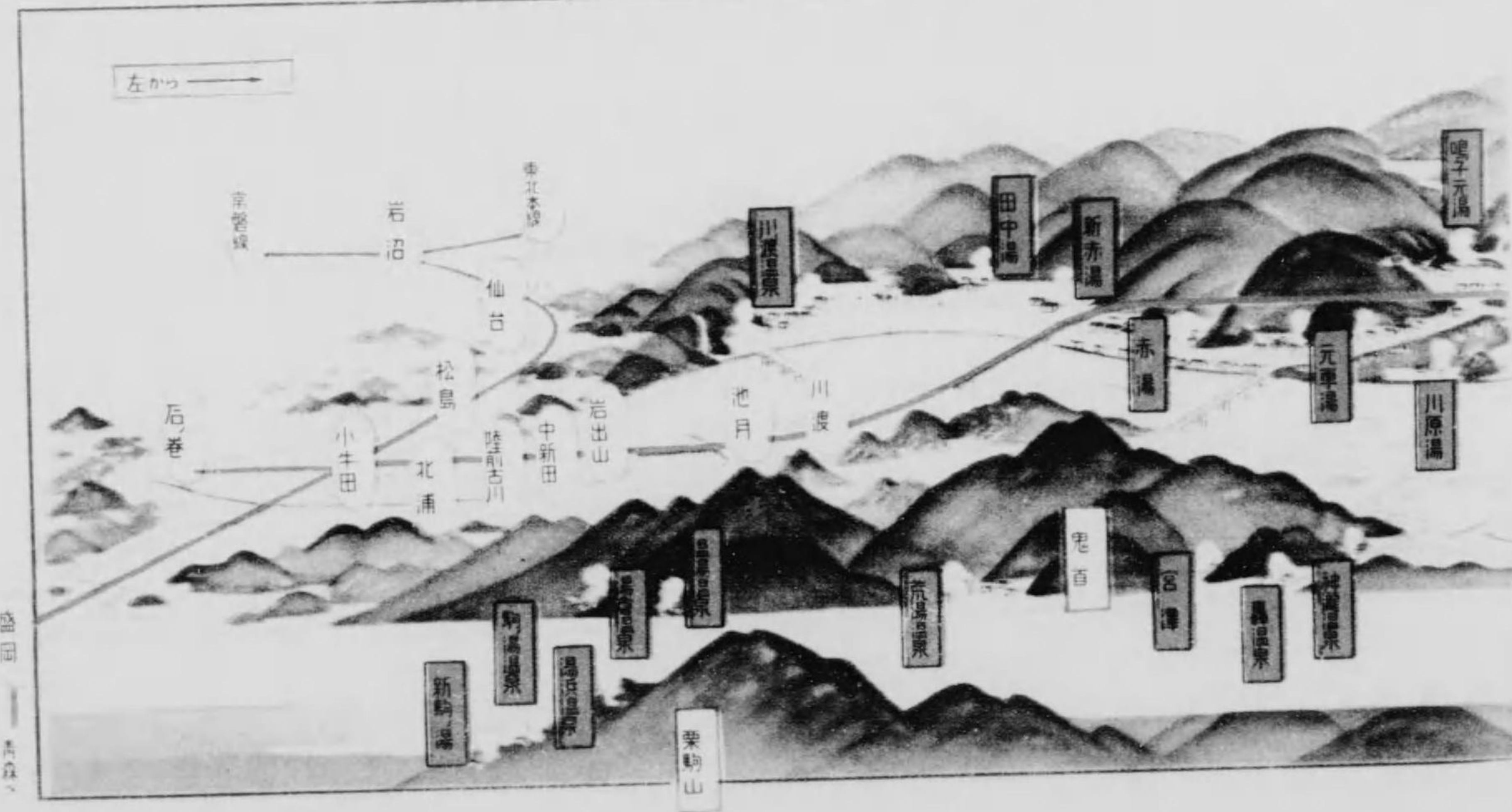
小牛田—新庄 五八哩五分

【小牛田】(こぶた) 東北本線参照 【陸前古川】(りくぜんふるかは) 六哩一 ▼緒絶橋、西八丁 【岩出山】(いはでやま) 一五哩四 伊達氏仙臺移封前の治所、伊達家に因みある岩出山城址、伊達家廟所有備館、八幡神社、實相寺等あり、右廻遊傳二圓、一時間位を要す ▼宮城縣種馬所、南一里 【川邊】(かはたに) 二四哩一 ▼玉

露光量違いの為重複撮影



露光量違いの為重複撮影



造八湯、小牛田より汽車約一時間にして山紫水明の一温泉郷に達す、繪の如き青精重疊し、荒雄川の清流其峽間を流る、東川渡より西中山に至る二里餘の間、山青く水清き所、靈泉山腹に、河畔に、平地に、田圃に滾々として湧出す、中に古來有名なるは川渡、田中、赤湯、元車湯、新車湯、鳴子、川原、中山の八ヶ所にして玉造八湯の名あり、近きは一丁遠きも一里半を隔てず、硫黄泉あり、鹽類泉あり、酸性あり、亞爾加里性あり、斯かる短距離の間に斯く多様の温泉あること、誠に稀有のことである。▼川渡温泉、西十四丁、自動車四十錢、俣廿錢、中森山の麓、荒尾川畔に在り、温泉八湯の咽喉、硫黄鹽類泉で古來脚氣に特效ありと閉えて居る、「脚氣川渡、瘡鳴子」の俚歌あり、此附近の前原一帯はスキー練習の好適地である、旅館藤島、支倉 ▼小黒ヶ崎、東二十八丁、俣十五錢、全山翠綠滴る松樹繁茂し、磊々たる岩石を包み、雜ふるに春は櫻、山吹、秋は紅葉の美あり、獨立せる鈍圓錐形をなし、山高からずと雖風景頗る佳、紅葉の勝地として閉ゆ ▼田中温泉、二十丁、鳴子驛から東廿六丁、自動車四十錢、俣四十錢、赤湯からは四丁二十錢、泉質效能川渡に同じ 【鳴子】(なるこ) 二七哩九 鳴子より堺田に至る六哩の間は、翠精高く聳えて大谷川の溪流に臨み、奇巖絶壁の間老松風槭を交へ、細瀧懸り、熱泉噴騰し、山光水色の美あり、特に秋季紅葉の美あり、本線中の第一の景勝である ▼鳴子温泉、旅館の所在により二丁乃至三丁、硫黄泉にして瘡疾に效あり、地は花洞山の麓荒雄川岸に在り、山水の風光幽邃閑雅、玉造八湯中の首位に在り、建治の頃源廷尉義經難を此地に避けた時、妾靜龜割峠にて龜若を生み、此湯を産湯として用ひ、始めて聲を發したので啼子と名づけ、後鳴子に改むと傳へて居る、旅館鳴子ホテル、横屋、遊佐屋、源藏湯、大沼 ▼河原湯温泉、南三丁、俣廿二錢、鹽類泉にて痛風に效がある、旅館河原湯 ▼新車湯温泉、東七丁、自動車廿五錢、俣廿二錢、鹽類泉で疝氣、傳麻質斯に效あり、荒雄川に臨んで景勝の地である、旅館菅原、高繁、遊佐 ▼元車湯温泉、新車湯に接し、同じく鹽類泉である、旅館金忠、三階 ▼赤湯温泉、東十九丁、自

動車三十五錢、俣廿五錢、鹽類泉で婦人病に效あり、旅館大正館、菊池 ▼湯沼、八丁、鳥谷ヶ森山頂に在り、舊噴火口である ▼尿前關址、西二十丁、芭蕉の吟味に名高し ▼鬼首から栗駒五湯へ、鳴子、川渡の奥名馬の産地として名高い鬼首には温泉が多し。山中交通の便を缺いた地であるから徒歩旅行である。鳴子驛から神瀧温泉まで二里、神瀧から轟、宮澤、吹上の各温泉へは西一里、吹上は間歇泉のある處だ。荒湯温泉は神瀧から東北二里、以上の温泉へは川渡驛からすれば道は約一里遠くなるが、六角峠を越えて風光が好い。荒湯温泉から國見峠越をして山路四里栗駒山の麓から中腹にかけ一迫川に沿うて温湯、湯倉、湯濱、三迫川の上流に駒湯、新駒湯の五湯がある。無論山中の温泉で設備は整うて居らぬが、學生達の草鞋旅には面白い處である。温湯から湯倉まで二里、湯倉から湯濱まで三里、湯濱から駒湯、新駒湯まで間道五里である。湯濱又は駒湯から山道三里で酢川温泉に達し、酢川から東十一里餘で東北本線一ノ關驛に出る。五串溪は此途中にある名勝である。以上の湯廻りは一週間とみて置けば十分である、或は又鬼首から別路鬼首峠を越えて秋田に入り稻住、湯の岱鷹の湯の諸温泉に浴して奥羽線横堀驛にも面白い。 【中山平】(なかやまたひら) ▼中山温泉、東十丁、旅館屋ノ湯 【堺田】(さかいだ) 宮城、山形の縣界、海拔一千百七十七尺 【富澤】(とみさわ) 南十八丁、赤倉温泉あり、旅館高橋、阿部 【瀧見】(たみみ) 瀧見温泉へ八丁、旅館觀松館、喜至樓、富士館 【新庄】(しんじやう) 五八哩五 奥羽本線、陸羽西線接續點

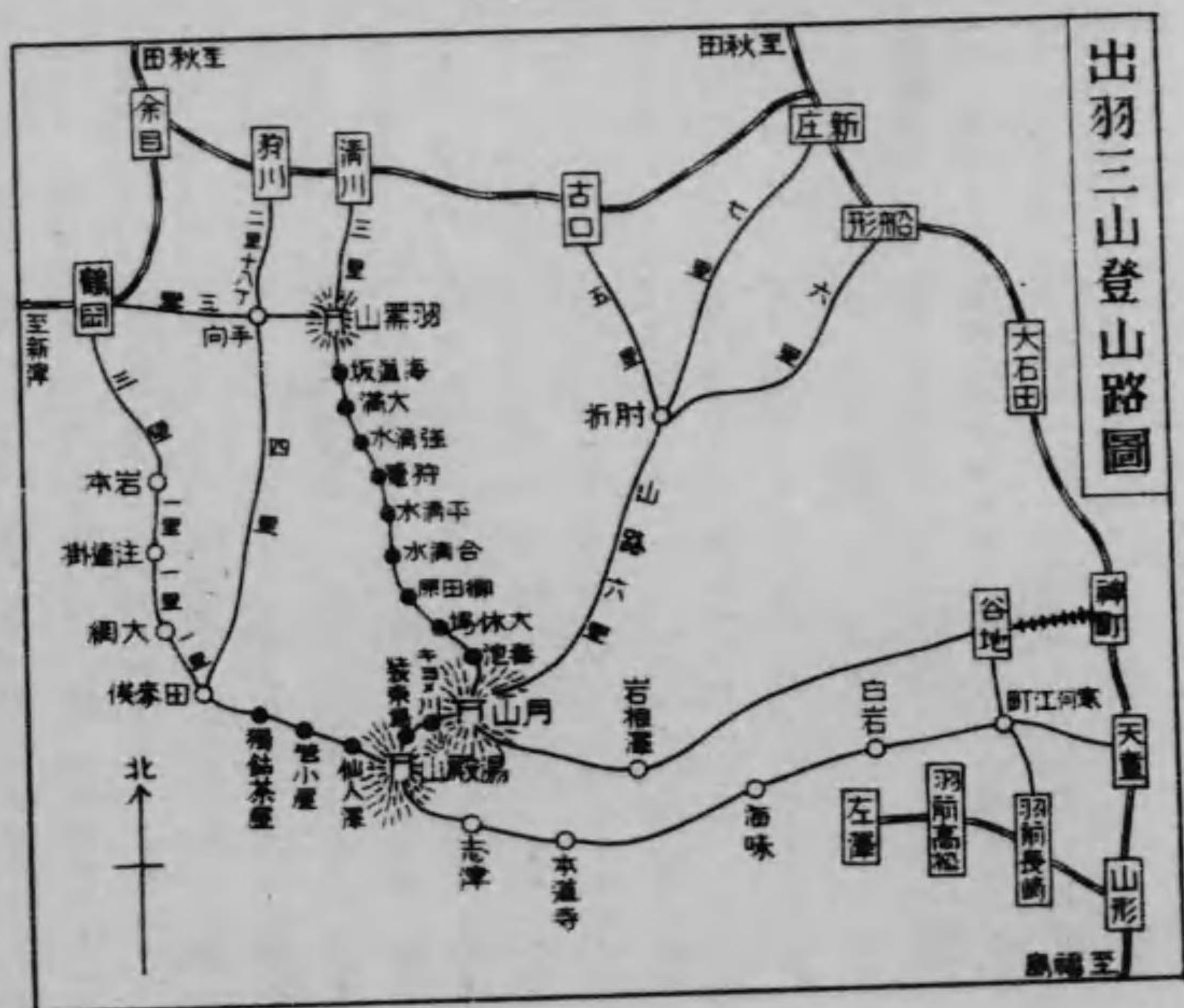
陸羽西線

新庄—余目 二六哩七分

【新庄】(しんじやう) 奥羽本線參照 【升形】(ますがた) ▼肘折温泉 六里、俣五圓、旅館村井、松井 【古口】(ふるぐち) 一〇哩六 ▼最上河畔山の内の風光、古口驛より清川驛まで三里半は最上河畔の風光最勝れ、兩岸の山脚相迫り水は溶々として流れ、瀑布の落下四十八を數へ、特に秋期紅葉の美がある。此行路中石波別邸附近から白糸の瀧までの間最麗しく、白糸の瀧の對岸に草薺温泉があ

る、清川に上陸後は幕末の勤王家清川八郎の墓に詣で、其生家齋藤家に遺墨其他の遺品を見せてもらふとよい、古口より清川までの舟賃三十人乗大舟片道六圓、往復十一圓、十人乗小舟片道四圓往復七圓、古口村に遊覽用として大舟三艘、小舟五艘の常置がある、向關船等で備船を希望の方は同村高橋留吉氏、山田與一氏に申込まれるとよい、【清川】(きよがは) 一九哩三、白糸の瀧、東二十五丁、清川八郎の墓、東五丁、【狩川】(かりがは) 二一哩七、光尾寺、南三十丁、曹洞宗の古刹、出羽の三山詣で、出羽の三山とは羽黒山、月山、湯殿山を言ひ、手向(羽黒)注連掛(田麥俵)本道寺(志津)岩根澤、肘折の五登山口があるが(本道寺口は奥羽線参照)陸羽西線開通後は主に手向により登る事になった、清川驛より羽黒山まで三里、所謂羽黒の裏掛で登山の最捷徑路であるが、健脚者以外には困難な道である、手向口は狩川驛より南二里半、自動車一圓六十錢、俥一圓三十五錢、鶴岡驛からは三里自動車一圓二十錢、俥二圓、手向より羽黒山迄三十丁(山路一里)徒歩一時間半、羽黒山より月山迄三里半(山路六里)途中六合目の合清水迄徒歩六時間、茲より頂上まで徒歩三時間、月山より湯殿山迄一里(山路二里)徒歩三時間、これで三山を參拜したから歸途は田麥俵から鶴岡に出るがよい、湯殿山より田麥俵迄三里(山路五里)徒歩四時間、田麥俵より鶴岡驛まで六里、途中板井川まで三里の間、自動車一圓、俥一圓八十錢、徒歩六時間、以上の時間中には途中の風物探勝等の時間を含んでゐる、羽黒山には羽黒神社がある、國幣小社出羽神社がこれで、月山、湯殿山を合せ祀つた三山合祭殿があり、蜂子皇子の御墓もある、羽黒だけは別に山開、山閉はない、羽黒から合清水迄は坂も緩であるが、御田原附近よりは高山氣分になり、高山植物も多い、九合目からは所々の大雪溪を踏んで頂上に達する、月山は山開七月二十日、山閉九月十五日頂上に官幣大社月山神社が鎮座する、月山湯殿山間は全くの下り坂で名階を下り盡すと月山小屋があり、高山植物が多い、裝束場より下り終りの河邊までは最難所、鐵鎖、鐵梯子による、金月光水月光を經ると湯殿山に達する、湯殿山の本社は別に社殿がなく

出羽三山登山路圖



山腹梵字川原の湧湯の靈窟を賣前と唱へてゐる。山開四月八日山閉十月廿日、湯殿山から仙人澤までは道路最峻険で鐵鎖に依つて上下する處が二箇所ばかりある。仙人澤からは所謂下り道で極めて樂である。以上の行程中宿坊、旅舎のある處は手向、合清水、田麥俵で、健脚者は手向を早曉に出發すれば三山を參詣して田麥俵に泊られるが、普通は合清水、田麥俵に各一泊するのである。休茶屋は羽黒から月山まで一合目毎にあり湯殿山から田麥俵までにも二箇所ある。旅舎に蚊が多いから蚊取線香と除虫粉とを携帯する必要がある。宿泊料は二圓内外であるが、一人で一室を占領するやうな事は出来ぬ、道案内兼用の強力は宿泊料其他本人持て日二圓五十錢位である【余目】(あまのめ) 二六哩七、羽越線接續點

羽越線

秋田—新津 一六八哩九分

羽越線は奥羽本線秋田を起點として南に岐れ、本莊、酒田、鶴岡、村上、新發田を経て、新津に至つて信越本線磐越西線に接する線で、汽車は殆ど日本海岸に沿うて走るので、至るところ風光美に富み、特に日本海に裾野を曳いて西奥州に君臨する鳥海山の秀容は幾度か車窓の眺に入り、庄内平野の東に聳ゆる出羽三山と共に、この線旅行者に忘るべからざる印象を與へるのである。

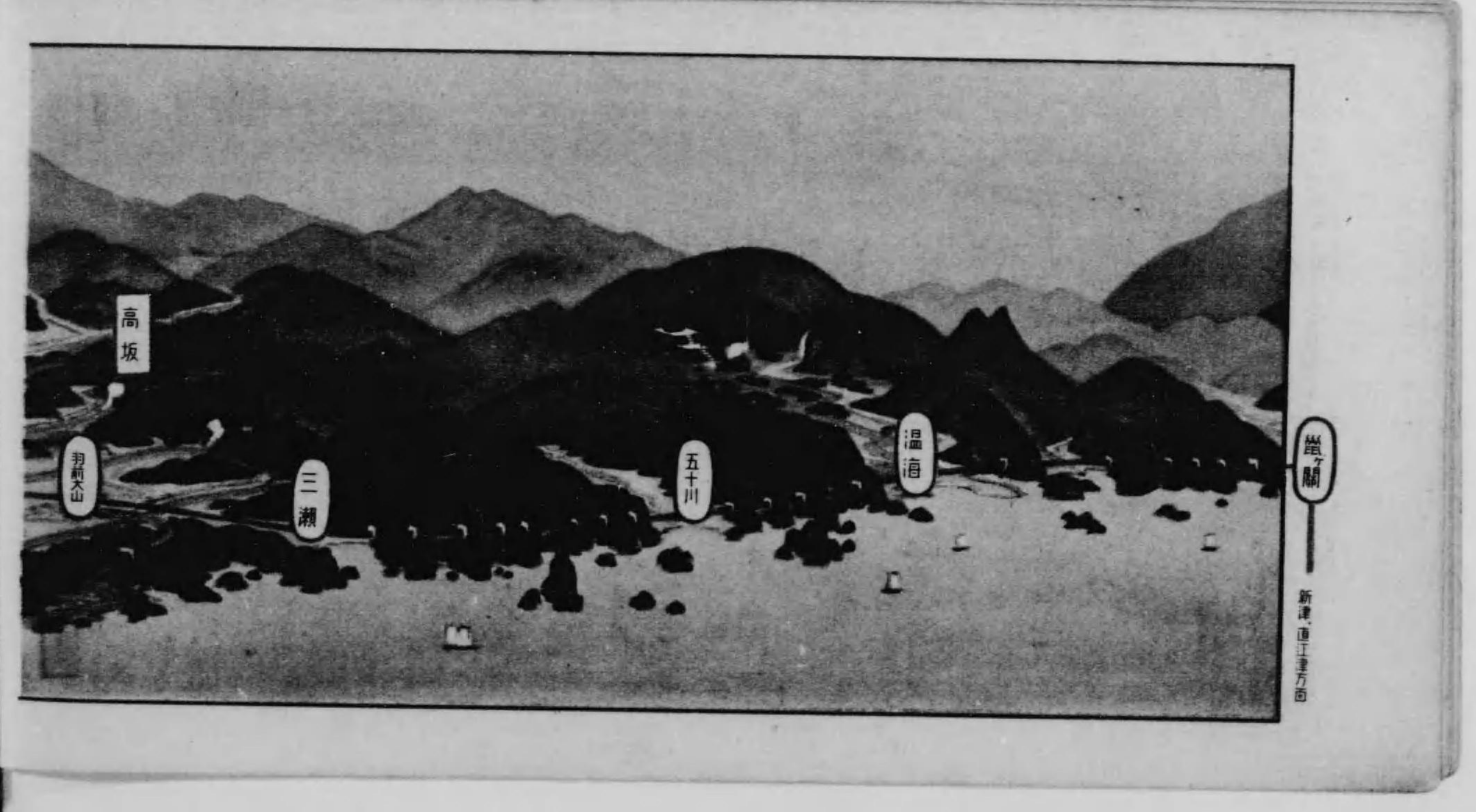
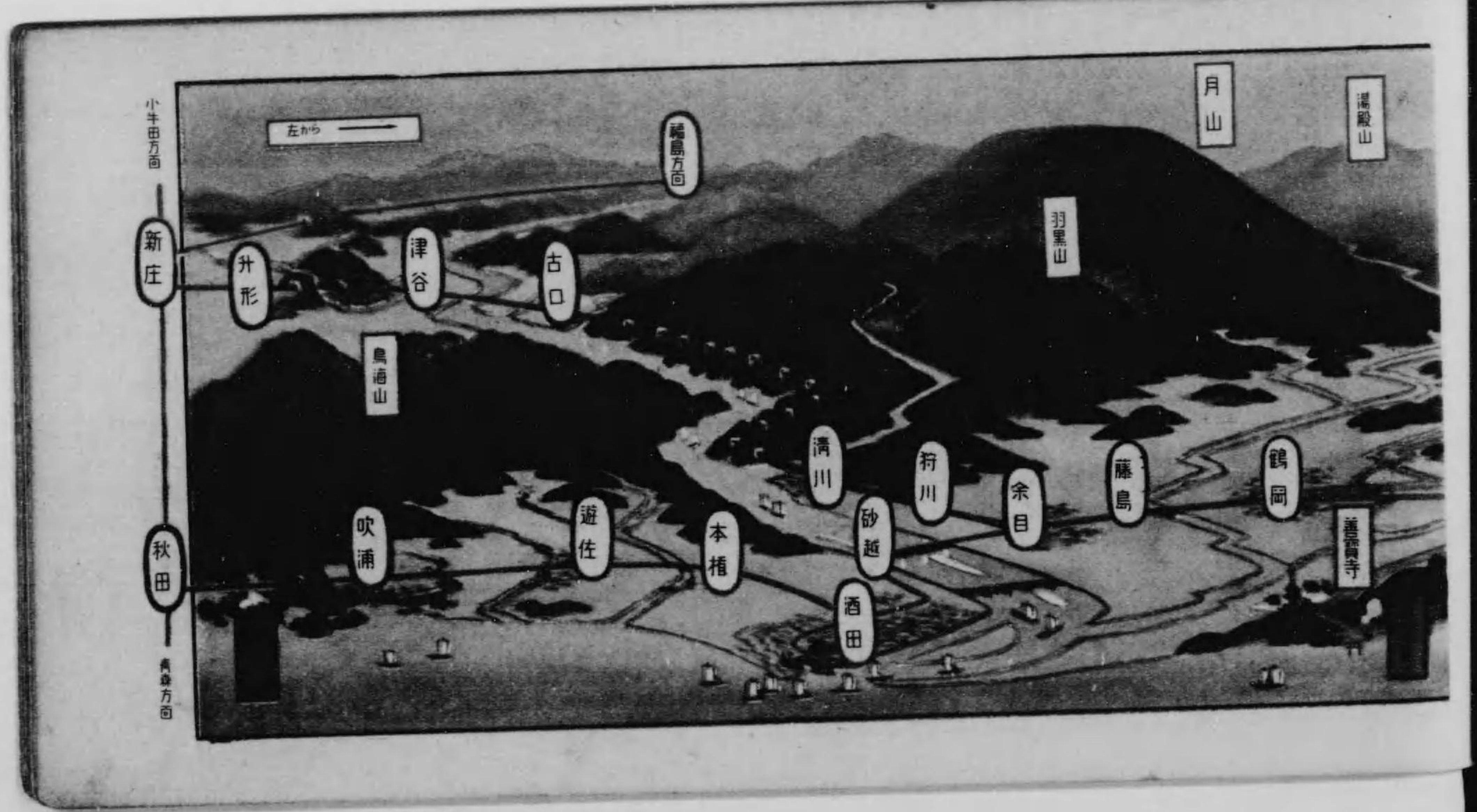
三瀨より南風ヶ關を経て越後に入り村上に達する間は、越後山脈の海に迫れる間を縫うて走り、琴平岩、暮坪の立岩、鼠ヶ關の辨天島、海府浦、笹川流など幾多の風景美を變へて眼界に入り、粟島の青螺遙に海に泛びて其背景美をなすなど車窓の眼を樂しませるものが多い。村上から南は蒲原平野を走り飯豊山の秀容を左に見つゝ新津に著く。列車は青森よりこの線及信越線北陸線を通じて神戸に至るもの一回、青森より新潟に至るもの一回、秋田より新潟に至るもの一回あり、青森神戸間約三十一時間半、青森新潟間約十五時間、秋田新潟間約九時間半を要す。この線の開通は實に東北日本海岸地方の運輸交通界に一大影響を及ぼしたもので、従来の東京經由に比べて青森神戸間に於て約一五六哩の短縮を見、時間は急行列車を利用して三十二時間、普通列車にて四十三四時間を要したのが、この線の開通によつて普通列車でも三十一時間半で達せらるゝこととなり、青森新潟間は従来の郡山經由に比べて約百四十哩の短縮を見、時間は急行列車を利用して二十時間を要したのが、この線によると普通列車で十五時間を要するに過ぎないこととなつた。

【秋田】(あきた) 奥羽本線参照 【羽後牛島】(うごうしじま) 太平川を隔て、秋田市の南に接す、米の集散多く又薬工品を産す 【新屋】(あらや) 御物川左岸の砂丘にあり、遙に秋田市を望む、名産鹽汁 ▼日吉神社、南八丁 ▼栗田神社、西十三丁 【下濱】(しもはま) 八哩二 直に海に臨み海水浴に適す、旅館觀海樓、下濱館 ▼本敬寺、北六丁蓮如上人の舊蹟 【蓮川】(みちかは) 直に海に臨み、海水浴に適す、驛の近くに日本石油、

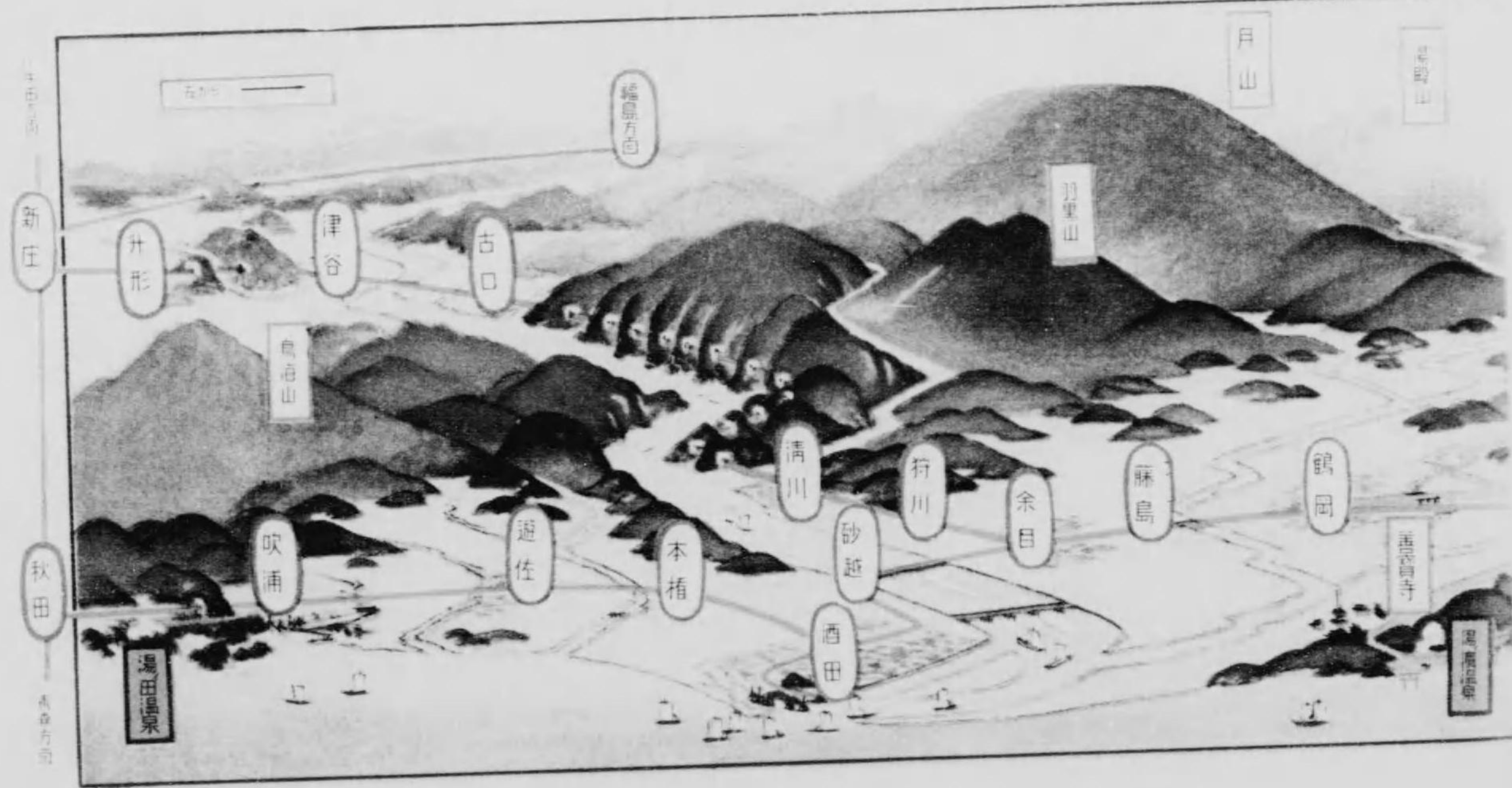
旭石油の鑛場あり 【羽後龜田】(うごかめた) 一七哩四 龜田はもと岩城氏二萬石の城下、驛より北廿五丁を隔つ、自動車廿錢、城址は二、赤尾津氏の舊壘を高館と云ひ、岩城氏のを龜田城址と云ふ ▼白狐温泉、北一里 ▼松ヶ崎海岸、西廿丁海水浴に適す

【羽後岩谷】(うごいはや) ▼赤田の大佛、南廿丁正法山長谷寺に在り、是山禪師の開基 【羽後本莊】(うごほんじやう) 二六哩六 横莊鐵道分岐點、同線はこの方面からは前郷まで七哩三分開通、三等三十三錢、二等六十錢、本莊は子吉川の左岸に在り、其注口を古雪港と云ふ、六郷氏三萬石の舊城下である、城址は今拓いて公園とす、名物桑酒、旅館小園、小松、森川 ▼本莊城址、西南五丁、本莊神社戊辰勤王碑あり、俣廿五錢 ▼永泉寺、西十五丁、舊藩主の菩提所、境内に戊辰の役に戦死せる家老金澤權太夫の墓がある 【羽後平澤】(うごひらさ) 三五哩四 東北三丁琴ヶ浦海水浴あり 【金浦】(このうら) 三八哩八 ▼沖の島公園、西七丁附近海水浴に適す 【象潟】(きやがた) 四二哩四 ▼象潟址、象潟の風景美は古より聞え、芭蕉も茲に遊んで「江の縦横一里ばかり佛松島にかよひて又異なり、松島は笑ふが如く、象潟は怨むが如し」と稱して居るが、文化元年の地震の爲に、潟の水涸れ沙現はれて空しく島嶼のみ残つて居たが、夫も今は多く開墾せられて稻の波の戦ぐに任せて居る。五月雨の降り頻りて稻田海の如くなる時は古の俳を偲ぶことが出来ると云ふ。芭蕉が「この寺の方丈に座して簾を捲けば、風景一眼の中に盡く、南に鳥海天をさへ、其影うつりて江上に在り」と云つた蟹満寺は驛北十五丁、俣四十錢、能因の腰掛石、西行櫻などあり、古賣物多し。金浦から象潟に向ふ汽車はこの寺の近くを過ぎ、車窓から響き残せる鳥々を見越し、て鳥海の秀容が仰がる、旅館秋田屋、岡本 ▼大潤海水浴場、西七丁、俣廿錢、旅館海涼館 ▼奈曾の白瀧、東一里十三丁、奈曾川の本流、金峯神社の境内にあり、高さ百十尺幅三十六尺、象潟より鳥海登山小瀧口への途中にある 【吹浦】(ふくら) 五三哩二 ▼釜磯海水浴場、北十丁 ▼西濱海水浴場、西五丁 ▼羅漢岩、西八丁 ▼國幣中社大物忌神社口の宮、北四丁 ▼湯ノ田鑛泉、

露光量違いの為重複撮影



露光量違いの為重複撮影

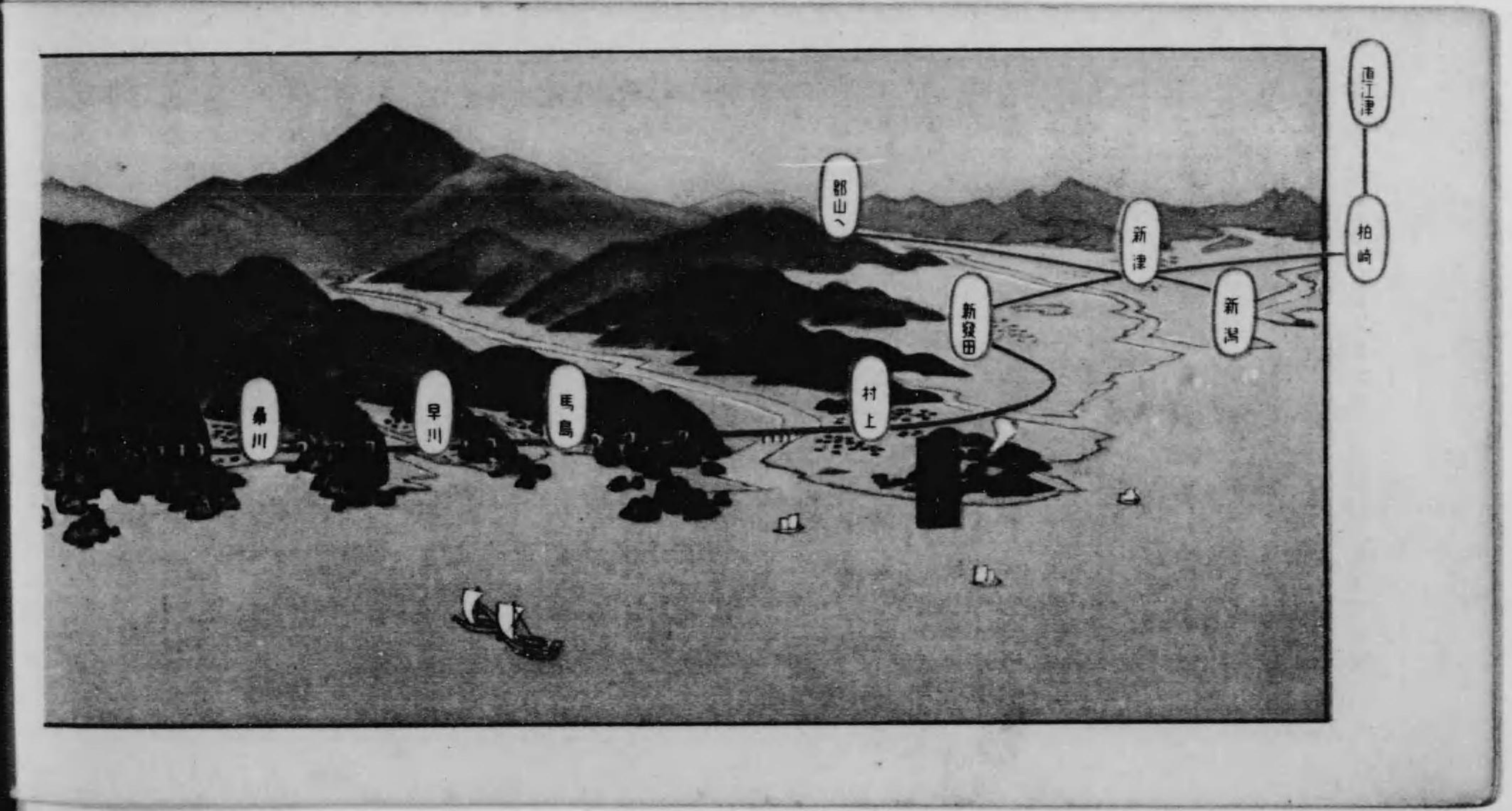
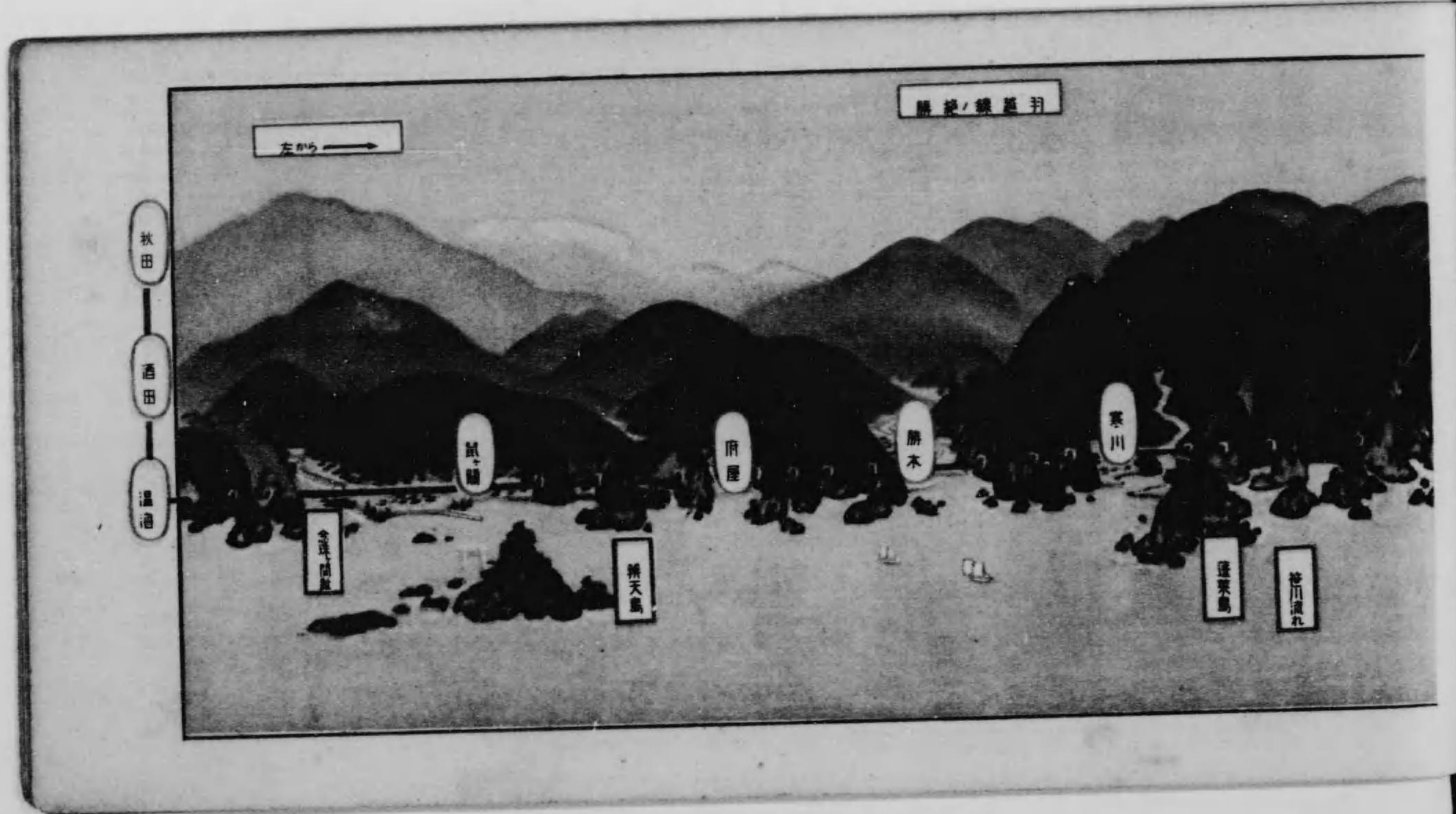


北十三丁、俵五十錢 ▼鳥海登山、鳥海山は山容秀麗一に出羽富士と呼ばれ、海拔七千五百尺、山上に國幣中社大物忌神社がある、毎年五月十二日の山開から九月廿日の山閉まで、白衣の行者絡繹として參詣する靈境である、登山口は四あり、即ち(一)藏岡口、此登山口は毎年登山者の半数を占め登路も亦よく修繕されてゐる遊佐驛より藏岡まで東一里、夏期は自動車の便あり、五十錢、藏岡には口の宮があり、小學校には鳥海山参考館があり、清水坊、玉泉坊などの僧坊も登山者を宿泊させる、宿料約二圓、先達強力は費用雇主持で普通二圓五十錢、足弱の人は半途の横堂まで駄馬に乗るが佳い、二圓五十錢位、此道は蕪坂、八丁坂等の險所はあるが、途中一般に變化に富み、河原宿に高山植物園あり、笹小屋も四箇所あり、飲料水も豊富である、本社まで山路九里八丁(實測四里廿丁)(二)吹浦口、山路九里八丁(實測約六里)吹浦口にも口の宮あり、鳥海山の裾野の延びて日本海に盡きんとする處で山路中大平坂、礮石坂(實測二十丁)等の急坂があるが大體に於て緩傾斜である、上り八時間、下り四時間半を要し、途中駒止までは駄馬の便があり、賃金二圓位、只途中飲料水不足なのが残念である、(三)小瀧口、山路九里八丁(實測四里餘)小瀧は秋田方面からの登山口で有名な奈曾の瀧がある、四登山口中の最捷徑路で途中一軒の笹小屋もないが、急坂もなく飲料水は澤山ある、此道は鳥の海附近で吹浦道と合ふ、象潟驛から小瀧まで一里十三丁(四)矢島口、山路九里八丁(實測約六里)矢島町は子吉川の上流にあり、生駒氏一萬五千石の城下で人口約七千、古來繁榮の處である羽後本莊驛より矢島町まで六里半、内前郷まで七哩三分横莊鐵道の便あり、前郷から矢島町まで自動車便あり、矢島町より山路六里藏川まで駄馬賃五圓位、藏川神社、社務所出張所がある、藏川よりは急坂あり溪谷あり數箇の雪田すらある、七高山に登る邊りに七つ釜の名所がある

以上何れからするも早曉出發し七高山及新山を経て本社に參拜し、宿所に入り(宿泊料六、七十錢)翌朝七高山又は新山に朝日を拜し歸途に着くのを例とする、本社は七高山と新山との相對峙した

盆地にある、新山の邊は風光雄大、新山を見れば登山の價値が半減するといはれてゐる、御來光の壯觀も亦人の嘆稱する處である
 【遊佐】(ゆさ) ▼國幣中社大物忌神社口の宮、東一里、自動車五十錢、鳥海登山口にある ▼藏邦碑、西北廿丁、玉龍寺境内に在り、天保年間庄川藩主酒井氏長岡へ移封の命を受けし時、領民大舉出府強訴、其命を取消さしめた天保騒動の上下倚信の情を語るもの【酒田】(さかた) 六五哩一 最上河口にある港で人口二萬七千人を有し、米の集散盛んに行はれ、移出高年々三四十萬石に上り、其七割は東京へ来る。最上川の土砂が沈澱して大船は停泊出来ぬ憾があるが、築港の將來を有し特に羽越線開通の今後は、形勢が更に一變する事であらう、日和山公園は西半里、俵四十錢、眺望が佳い。舟を雇うて最上河口から海上に出ると砂防の松林翠を曳いて天空高く鳥海山の秀容の聳ゆる雄大な景觀がある、旅館渡邊、村上【森目】(あまめ) 七二哩七 陸羽西線接續點【鶴岡】(つるがき) 八二哩二 酒井氏十二萬石の舊城下、庄内平野の中央に在り、近く市制を布いた、人口三萬人を有し、羽二重を産し、織物工場多し、旅館伊勢屋、鶴岡ホテル、金子、名物栴餅 ▼鶴岡公園、南十七丁、自動車四十錢、酒井氏の舊城址、藩祖を祀れる莊内神社あり、菖蒲及蓮の名所である ▼湯田川温泉、西二里八丁、自動車七十錢、旅館靈泉閣、神泉閣、白鷺軒 ▼金峯山、西一里半、自動車七十錢、山上金峯山神社あり ▼本住寺、南二十丁市内七日町に在り、加藤忠廣及從臣の墓あり 【羽前大山】(うぜんおほやま) いはゆる大山酒の産地、東北の海の稱あり、産額一萬石に上る ▼湯野濱温泉、北西一里三十丁、加茂の漁港を経て行く、自動車加茂まで六十錢、温泉まで一圓、浴泉と海水浴を兼ねる海岸温泉で、いはゆる奥羽三樂境の一である、旅館龜屋、岩本屋、富士屋 ▼龍澤山善寶寺、北三十丁、自動車賃切三圓、湯野濱からは峠越え十八丁、約一千年前妙達上人の開基と傳へ、高館山の麓より中腹にかけて堂塔伽藍參差として居る。寺に祭祀せる龍道龍王、戒道龍女の靈驗顯著感應不思議と稱し、漁業家や海運業者の信仰が篤い ▼相尾神社、北二十丁 【山瀧】(さんたき)

露光量違いの為重複撮影



露光量違いの為重複撮影



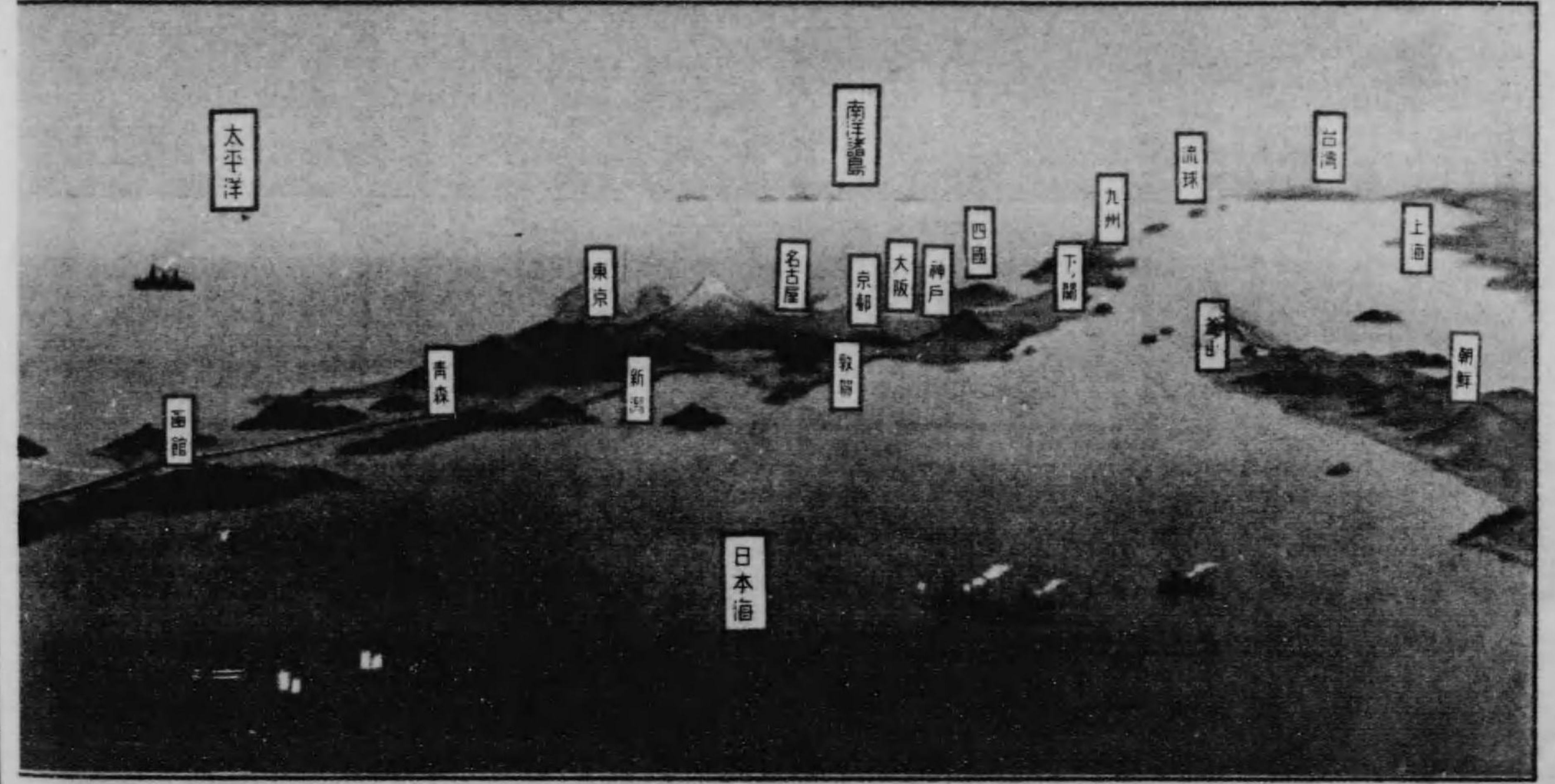
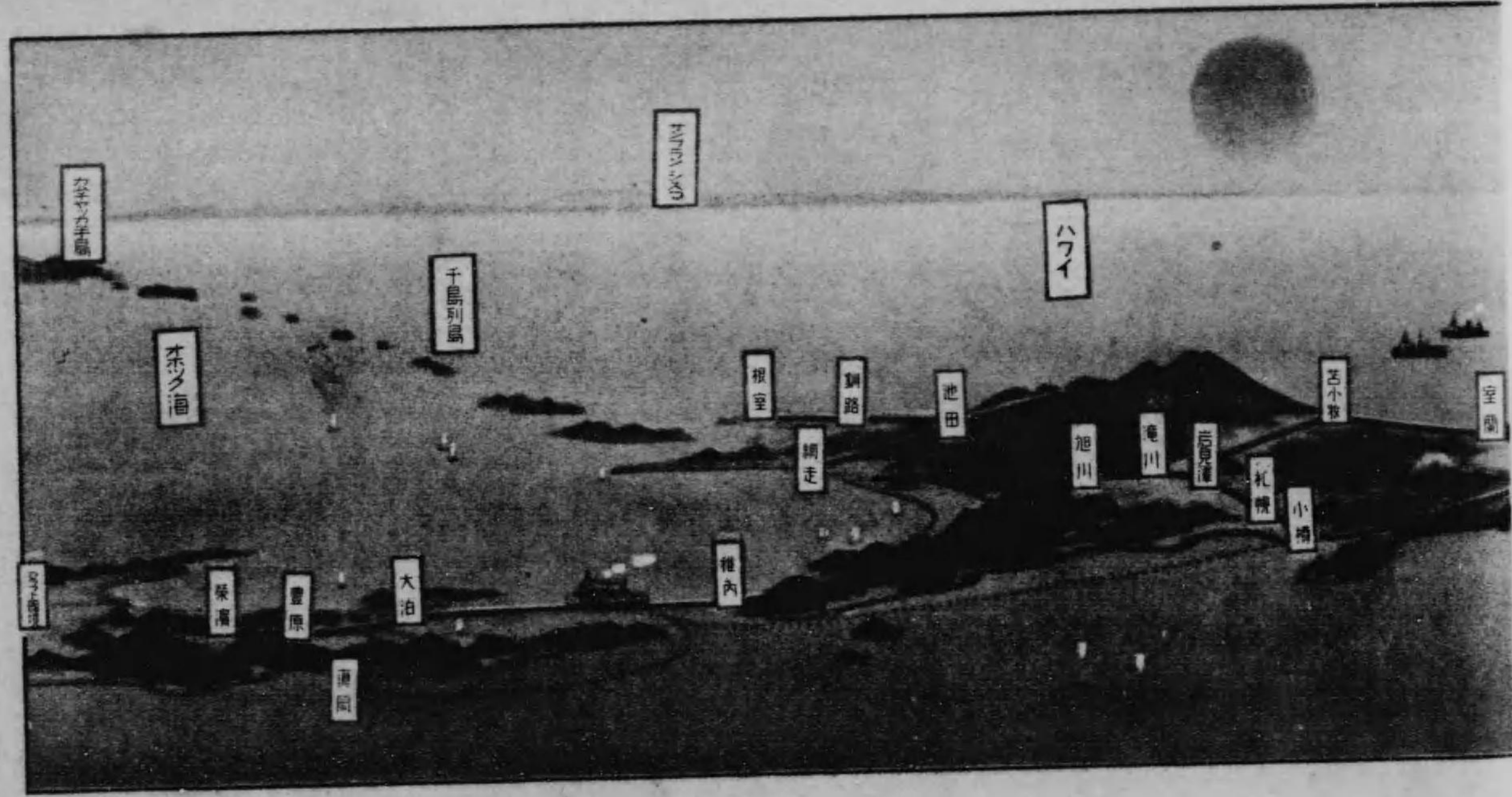
▼氣比神社、西五丁 ▼由良海水浴場、北二十二丁、自動車五十錢
 白山島波に及び、鳥海山を遙に望む景色が佳い、旅館麻生館 ▼琴
 平岩及八乙女の奇勝、岩まで西五丁、それより舟による、舟往
 復五十錢、由良から舟を雇うて歸途、此風光を見ても宜い。二玉
 門、籠岩、舞臺岩、灯明岩等の奇岩あり、地域小なれど秋田の男
 鹿半島の風光に似たり 【瀧海】(あつた) 一〇〇哩六 ▼海水浴
 場、不動島は驛前、平島は南五丁、温海川を挟んで共に海水浴に
 適す、旅館三國屋、柏屋 ▼基坪の立岩、北廿五丁、自動車四十
 五錢、五十川から温海へ向ふ汽車の窓からも見ゆ ▼湯温海温泉
 東二十二丁、自動車俵共に三十錢、温海嶽の麓、温海川畔の閑遊な
 る温泉境で、庄内温泉中第一に推さる、大清水、湯見ヶ淵、紅葉
 ケ岡、長徳寺、熊野神社、不動島平島の海水浴場、温海嶽、鼠ヶ岡
 などは浴客の散策地である。名産漆器、板餅、栗蒭き、旅館橋屋
 中川屋、鶴屋、萬國屋、朝日屋、壽屋 【鼠ヶ岡】(ねずがせき)
 北陸道から羽州に入る首驛として昔から世に知られ、關川の邊に
 關址あり、旅館村上屋 ▼辨天島、西北五丁、潮満つる時は波に
 泛ぶ、辨天堂あり、眺望秀麗である 【勝木】(かつぎ) 勝木川の
 河口に在り、葡萄峠越の國道は川に沿うて茲から東南に行つて居
 る。勝木川の河口は廢屋濱で銚立と云ふ柱狀の奇岩が聳立して居
 る 【桑川】(くはがは) 勝木川口以南、三面川以北の海崖はいはゆ
 る海府浦で其間寒川、桑川、早川、間島の四驛を置、其間の山
 嶺は全く噴出岩花崗石を以て成り、峯巒岬紛亂錯錯し、越後第
 一の奇景と稱せられて居る、頼三樹は曾て此處に遊んで「海山の
 美を云はんか我之を奥の松島に觀たり、海山の奇を云はんか我之
 を羽の男鹿に觀たり、而してこの美と奇とを合するもの今越の海
 府に觀る」と激稱した。寒川より次驛桑川に至る間最勝色あり、
 名高い笹川流れも其間にあるのである。海府浦、笹川流の遊覽は
 温海、瀨波の浴客一日の遊賞區域であるが、鐵道開通により桑川又
 は寒川にて舟を雇うて遊ぶ方が便利となつた。桑川には其遊覽者
 の爲に笹川ホテルあり、遊船の設備をして居る 【村上】(むらから)
 内藤氏五萬石の舊城下で城址は東十五丁、俵廿五錢、旅館赤子、

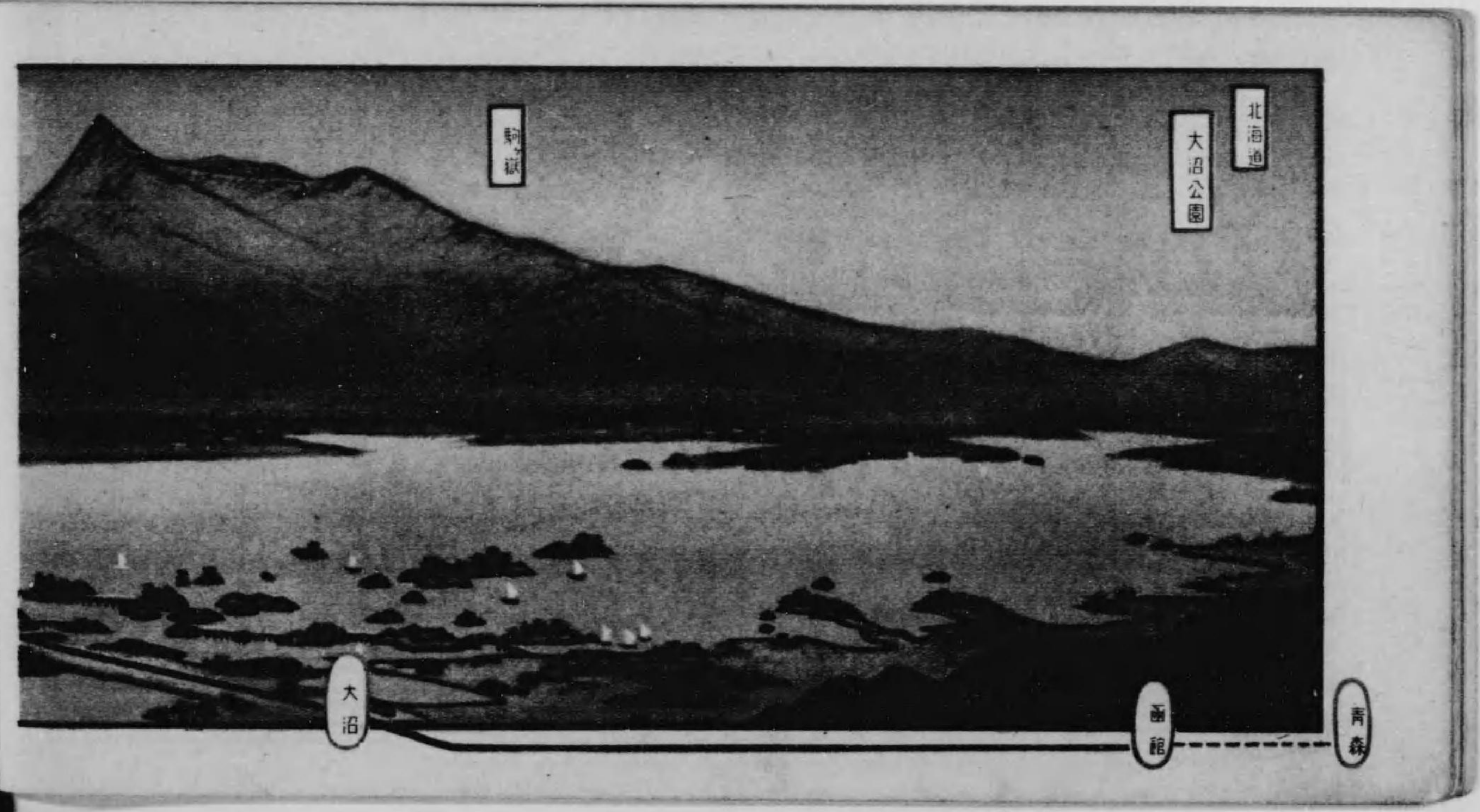
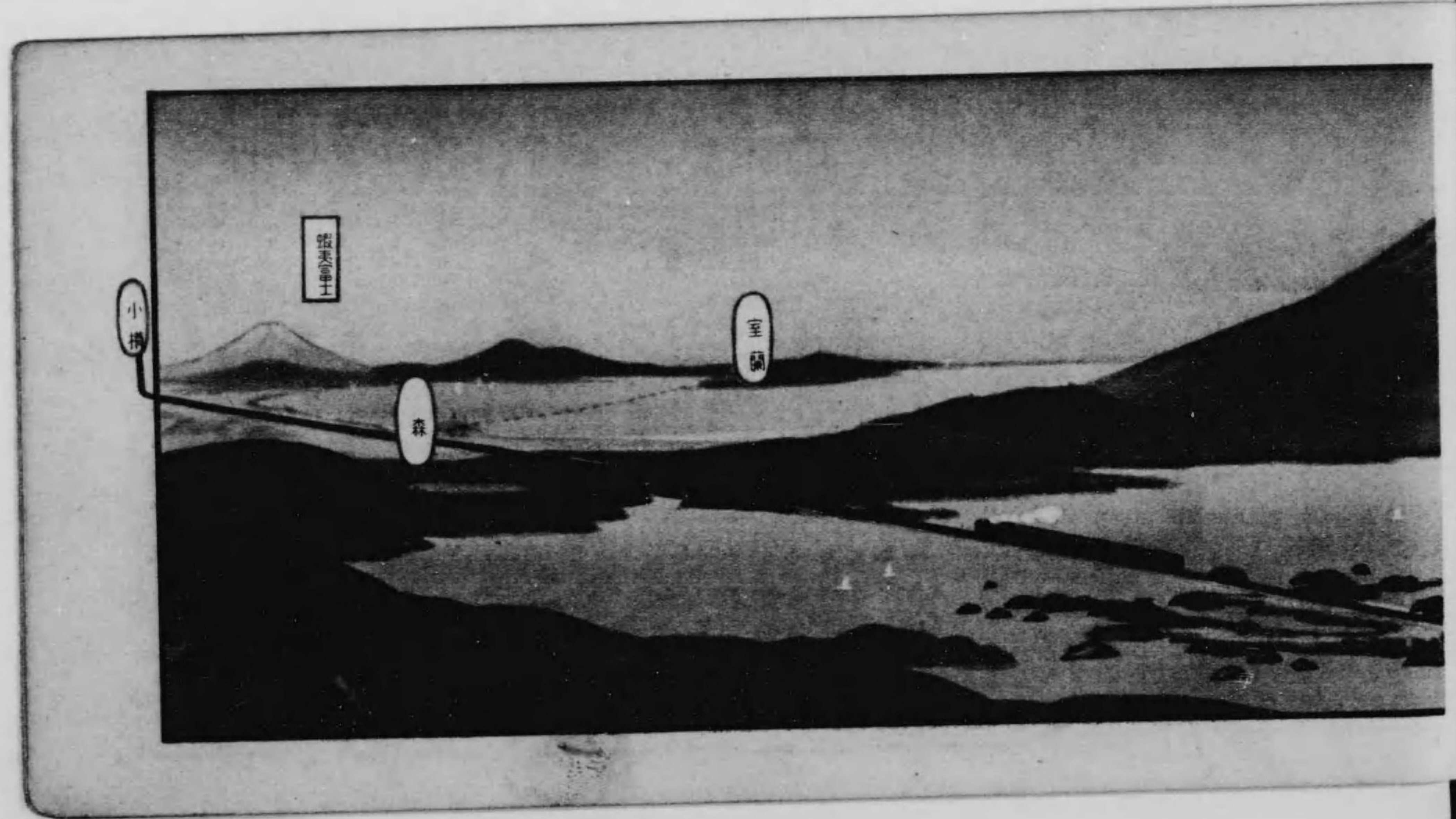
渡邊 ▼瀨波温泉、西二十丁、俵廿五錢、自動車五十錢、元石油
 採取の目的で掘つたもので、晝夜間斷無く熱湯を噴出してゐる。
 旅館萩野屋、三島屋、吉田屋、養神亭 ▼粟島遊覽、粟島は瀨波
 港より海上十五里、周圍四里、小柴山がある、島中二百餘戸、
 島の四面は絶壁で暗礁が並んで風景が好い毎年四月より十月迄通
 航船あり、一圓十錢、遊覽日數約三日を要する 【坂町】(さかまち)
 驛東三里乃至四里の間に高瀬、湯澤、鷹の巢の三温泉あり、荒川
 に臨める閑遊の境、自動車高瀬、湯澤へ一圓三十錢、鷹の巢一圓
 五十錢、旅館升屋、米澤屋(高瀬)、高橋館、桂屋(湯澤)、鷹の巢
 館(鷹の巢) 【平木田】(ひらきた) ▼きのと大日如來、西北廿丁、
 俵四十錢 【加治】(かぢ) ▼加治川の櫻西一里半、川舟乗合一人
 十錢、貸切四圓 ▼二王子神社、東南三里、途中二里半迄俵一圓
 卅錢、五穀の神として參拜者が多い 【新發田】(しはた) 元溝口氏
 十萬石の城邑で城址は西北十五丁、俵卅五錢、今兵營になつてゐ
 る、旅館村甚、長谷川 ▼菅谷不動尊、東北二里半、俵七十五錢、自
 自動車一圓 ▼加治川の櫻、西北一里半、俵往復一圓五十錢、自
 動車一圓、櫻樹長堤四里に續き、水門附近最美麗を呈して居る
 【天王新田】(てんのうしんでん) ▼月岡温泉、南一里、俵五十錢、旅
 館月岡館 【水原】(すゐはら) ▼出湯温泉、南二里十丁、俵、自動
 車共に八十錢、旅館洞春館、白根館 ▼村杉温泉、東南二里廿七
 丁、自動車俵共に八十五錢、旅館近生館、長生館 ▼今板温泉、
 出湯村杉の中間にあり、自動車俵共に八十錢、旅館村木屋、大堀
 【新津】(にひつ) 信越本線磐越西線接續點

温海嶽から吹きおろす風はあつみ繁昌と吹きお
 ろす

温海名物あさ市さかな栗蒭とち餅かぶら漬
 登りつめたる懸路の峠今ちや互にあつみ嶽

(温海節)



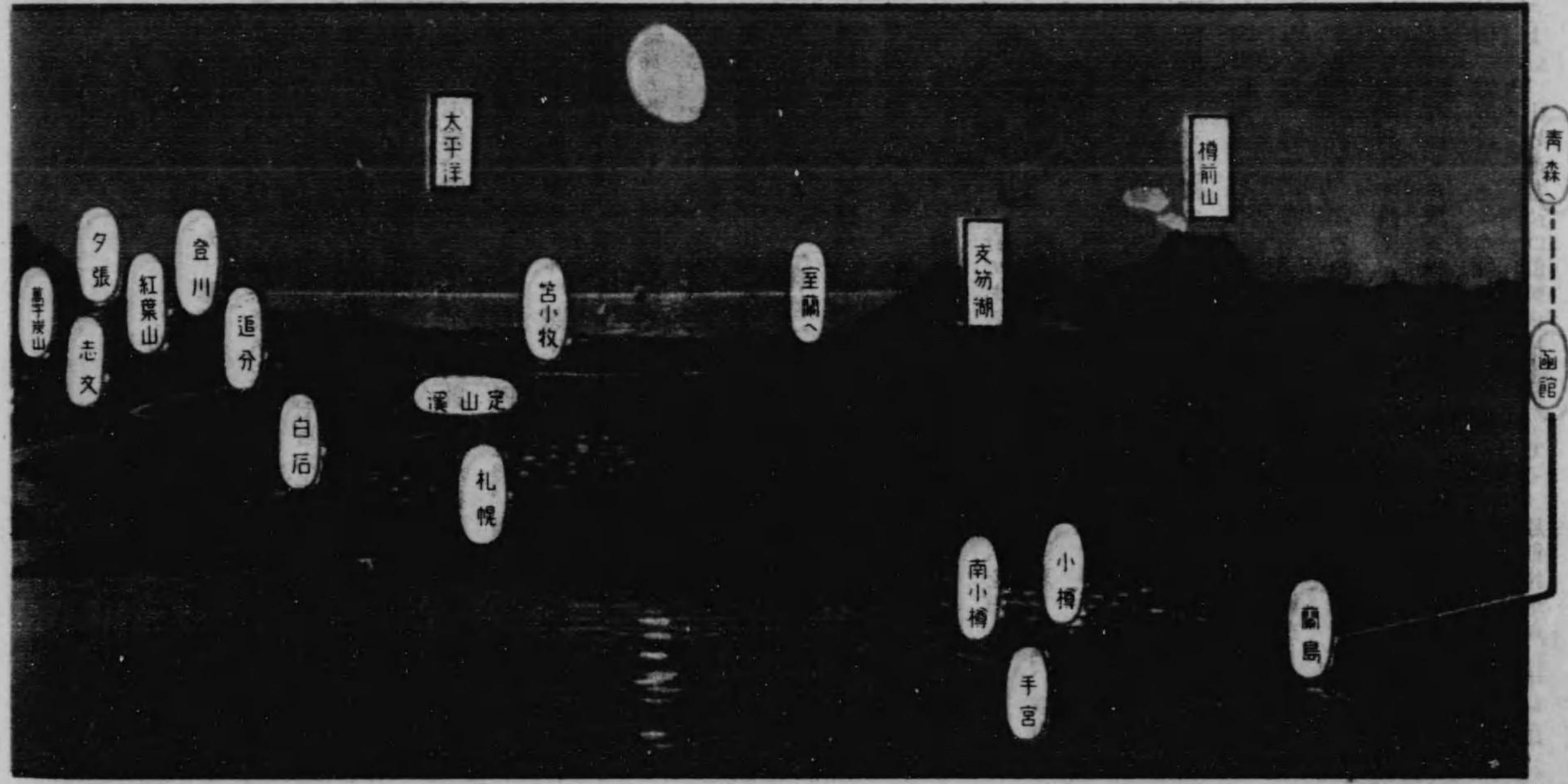
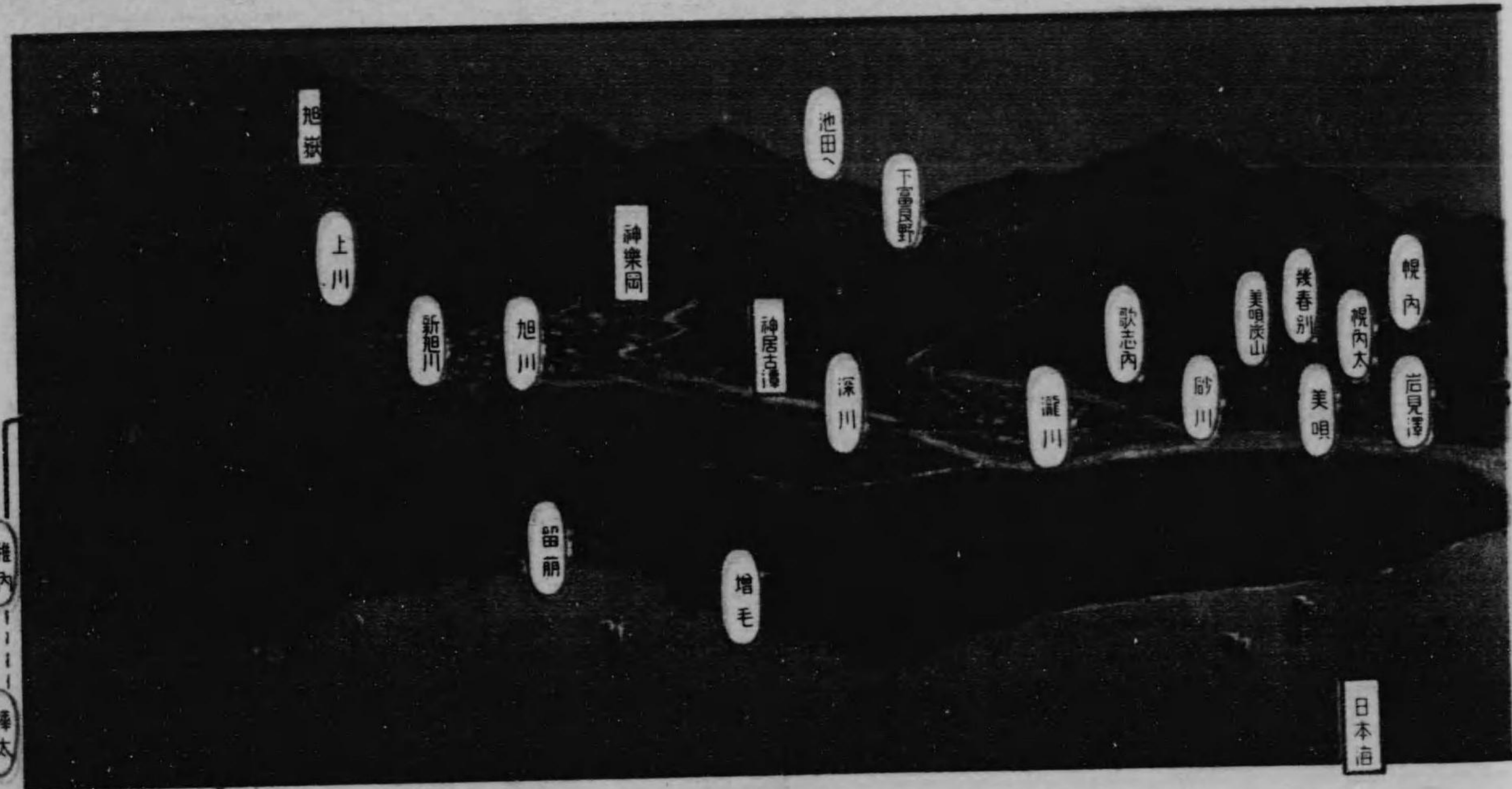


橋を架して汽車を通じて居る、汽車この水廊を走るの時、仰げば胸ヶ嶽火山の聳ゆるあり、俯せば無数の島嶼碧水に浮べるあり、正に北海第一の公園である、湖上舟遊和船一日貸切四圓から八圓まで、ボート一時間四十錢、鳥巡り一人分二十五錢、旅館紅葉館大沼館、見晴館、胸ヶ嶽登山、海拔三七六二尺、倒扇の清姿を噴火灣頭に峙て、雄大なる北海關門の守護を爲すは此山、大沼方面から見ると左方に鋭き圓錐狀の突起あり、高く天空を指し、北海旅行者に忘れぬ印象を與ふ、大沼の遊船にて湖上三十丁地獄灣頭の登山口に至れば、其處から一里五丁にして馬ノ背に至る。胸ヶ嶽からは裾野まで三十二丁、それより登山道一里にして馬ノ背に至る。【森】(もり) 三〇哩八 對岸室蘭に至るには噴火灣汽船會社の汽船が毎日一回定期に運航する、附近漁業が盛んである、旅館阿部旅館、黒田【長萬部】(をしまんべ) 長輪線分岐點、同線は今靜狩まで開通、噴火灣岸に沿うて輪西に通ずべき線であるが、輪西方面からは黄金臺まで七哩五分、本年十月開通の豫定である。【黒松内】(くろまつない) 八二哩三 壽都迄十哩の間壽都鐵道がある、辨慶岬は壽都港の西端に在り、義經が滿洲に渡つた處だと傳ふ、黒松内旅館千葉、小間【昆布】(こんぶ) ▼青山温泉、一里八丁、馬車五十錢、附近に宮川、成田、黒澤、馬場の諸温泉がある、旅館不老閣(青山)、紅葉(宮川)【俱知安】(くちあん) 一一二哩 京極線分岐點、同線は脇方まで十三哩の支線である ▼後方羊蹄山、山頂迄四里十四丁、山麓迄一里卅丁、山麓半月湖畔の登山會本部には強力あり、夫れより約五時間にて頂上に達する、山は海拔六二四七尺、標式的圓錐形をなして居るので蝦夷富士と云ふ、孤立した高山であるから絶頂に立つて眼を放てば本道の山川廣野眉宇の間に萃るのである。旅館南河、小野塚、【小澤】(こざは) 一二七哩四 岩内線の分岐點、岩内は西海岸中函館小樽に亞ぐの要津で、附近岩雄登嶺山、茅沼炭礦あり、海産物魚粕肥料、石炭、硫黄等の産出多し。旅館荒井【小樽】(おたる) 一五九哩 小樽港は本道西部の關門で地勢北西南の三方に山陵を負ひ、市街は弓狀を爲して海岸に沿うて西北より東南に延び、西



南に高まつて丘腹に續いてゐる。本道拓殖の開發に伴ひ港灣の修築も成り、陸に石狩、天鹽の大原野の咽喉を扼し、海に本土の諸港を初め樽太、露領沿海州との交通忙しく、商業の發達も

著しく、今人口十二萬三千人を有し、西海岸唯一の要港として知られ、大正十年の外國貿易額輸出七百六十九萬圓、輸入二百二十九萬圓に上る、市内には小樽、南小樽、小樽築港、手宮の四驛及色内假停車場あり、小樽は市の中心に位置を占め、汽船との連絡が便利である。小樽公園は西南十丁、西敷丁に小樽高等商業學校があり、手宮公園は北二十三丁、自動車四十五錢、園内に古代文字碑がある、旅館北海屋ホテル、越中屋、朴旅館、加賀屋、大泉、小島【張瀧】(はりうす) カムイコタンは大澤瀧面に至る途中に在り、岩壁高く削立して、波浪岸を打つ、車窓の眺望がよい。【輕川】(かろがは) ▼手稻山、東南半里、海拔三千二百尺、紅葉の勝地である沿道鈴蘭が多い、山の附近スキー練習場あり、十二月中旬より二月下旬までがよい。【札幌】(さっぽろ) 一七九哩一 石狩平野の西部に位し、西南藻岩、手稻の連山を負ふ、豊平川市の南東を流れて對岸豊平町あり、北海道廳、鐵道局、選信局、稅務監督局、帝國大學等あり、全道交通の中心點、行政上の首府である、人口十二萬五千人を有し、附近に農耕地を控へるので、林檎、玉葱、麥酒、麻布、櫻桃等を産する。工業盛んで麥酒製煉の兩會社初め多くの工場がある、市内には電車がある。中島公園は南半里豊平川の支流園の中央を流れて清池を湛ふ。園内に物産陳列館、岡田花園、大迫將軍銅像忠魂碑がある。官幣大社札幌神社は南西一里、圓山に在り、全道の鎮守廟で境内には櫻樹多く、花期五月中旬である。藻岩山は西南一里半、後は深山に續き、前は札幌の平野に臨みて眺望がよい。山中にはかつら、檜、こぶし、柳其他の固有樹木の種類夥しく、其名世界に聞えて居る名山である。山の附近はスキーの練習に適し、十二月中旬より二月中旬までがよい。山の南麓には眞駒内種畜場がある、旅館山形屋、中村屋、



静岡屋、日の出旅館、越中屋、敷島屋、名産札帳漬、キャンデー
其他産物、アイヌ細工、富利豆

北海道は北海道の管轄に属し、其産物は札幌に在り、産物は水産を主とし、
昆布、鱈、鱈、鱈、鱈等の産物、日本海、オホーツク海の沿岸は世界有
数の漁場である。農業は石狩平野最も盛んで、耕地の規模は大に、大豆、小豆、
豌豆、米、麦、蕎麦、馬鈴薯、玉蜀黍等を多く産す、果樹には苹果、櫻桃あり、
牧畜は馬を主とし、牛豚之に次ぐ。林産の重要なものは樺皮、松皮にして、
産物には石炭、金、銀、銅、鉛、硫黄あり、工業は製紙、製糖、製粉及び醤油
清酒の醸造、製粉、製糖の製造業である。

大豆の主要産地

Table listing major soybean production areas across various regions like Hokkaido, Tohoku, Kanto, and Kansai, including specific locations and production volumes.

(大正十年)

Table listing major production areas for various goods like rice, wheat, and other agricultural products across different prefectures and provinces.

(大正十年)

露光量違いの為重複撮影



北海道	二、四七九、四一五圓	青森	五〇六、九九七圓
山形	四八八、七二〇圓	石川	二五九、〇〇七圓
秋田	七八、八五五圓	全	四、一三〇、六二二圓
北海道	一八、二四三、九七三圓	山形	一三三、七〇九圓
秋田	一三、三一一、五〇五圓	石川	八五、六八三圓
岩手	六、一五〇、〇〇〇圓	全	一八、八九五、〇四七圓

【白石】(しろいし) 一八二哩七 定山溪温泉、定山溪鐵道の便あり、白石より温泉まで一八哩六分、賃金三等九十四錢、二等一圓八十九錢、名物くるみ餅、温泉は豊平川の沿岸山光水色の美を占め、殊に秋期紅葉の大観がある。旅館定山溪ホテル、鹿ノ湯クラブ、鐵道ホテル、高山、大場【野幌】(のっぽろ) 一九〇哩二

全道一の煉瓦製造地で、附近炭礦汽船會社煉瓦工場、館脇、馬場峠、岩田、澤村煉瓦工場あり、北海道林業試験場は南一里二十五丁道廳の經營で、苗圃人工林、天然更新利用一般施業の各試験を實施し、成績見るべきもの多い。所屬地積三千五百町歩其大部分は今尙蒼鬱たる針葉樹の天然林で、原始状態を偲ばしむるものが多い 【江別】(えべつ) 一九二哩二 石狩千歳兩河の相會する地點で、水陸交通の便が多い、石狩川汽船の起點である、旅館春日館

【岩見澤】(いはみざは) 二〇四哩四 旅館岩見澤ホテル、田村、石狩平野の中央に位し、本道交通の要衝に當り、所謂空知炭田の中心市場である。室蘭線は茲を起點として南し、幌内支線は東して幌内に至り、途中幌内太より更に一線を岐ちて幾春別に達してゐる 【美唄】(びはい) 美唄鐵道の接續點で同線の沿線には炭田が多い、旅館吉積 【砂川】(すながは) 歌志内線の分岐點である。同線神威附近歌志内、文珠炭礦あり、歌志内附近空知、上歌志内、歌神炭礦がある 【瀧川】(たきがは) 二二三〇哩九 根室本線の分岐點 【深川】(ふかがは) 二四四哩四 留萌線は茲から岐れて留萌を経て増毛まで四一哩五分の線である、留萌は西海岸の要港で、留萌川の川口にある、築港は大正十五年完成の豫定である。又深川から北に岐る、雨龍線は今工事中で多度志まで八哩七分は本年十一月開通の豫定である、(深川旅館)、川村、北越館、(留萌旅館)、留萌ホテル、太刀川旅館、(増毛旅館)上野旅館 【神居古澤】(かむこた

ん) 峻峰相對して石狩川の兩岸窄り、峻岩屏障の如く立つ處、悠悠流れて盡きざるの水、茲に潜める石に弄ばれ岩に嘯きて、藍碧の深淵を爲して居る。驛前の巖上に踞して眺望すれば、山光水色自ら仙寰に入るの想をなすであらう。對岸コロボツクル人種の堅穴及鐵泉がある 【近文】(ちかぶみ) ▼舊土人部落、東北七丁、現在戸數五十八戸人口二百八十五人あり、日常農業に従事し、各戸一町歩宛の耕作をして居る 【旭川】(あさひがは) 二六五哩四 上川平野の中心に位し石狩川の南岸に在り忠別、牛朱別の二川市街を挟んで流れ、形勢自ら有望にして、全道の中に當り、第七師團の所在地である。今人口六萬四千人を有し、酒、酒精、醬油、味噌、下駄木、鉛筆等を産す。市の附近は北海道第一の農産地で米の産額五十萬石に上る。宗谷線は茲より起りて北し、富良野線は根室線の支線で下富良野に至つて其本線に會して居る。神樂ヶ岡は南三十丁自動車三圓、忠別、美瑛兩川の間に横はり近く旭川市街を俯瞰し、遂に本道第一の高山マタクカムウシユベ山及オプタテシケ山を望み、形勢甚雄麗である。旅館北海屋ホテル、三浦屋、宮越屋、笹岡屋



水聲耳久慣、眠到東方紅、雲晴日三竿、
起來揭疎蓬、殘山亦剩水、危棧向蜀中、
歷々三峽險、筆力想放翁、山水兩奇絕、
神劃與鬼工、人間欲破膽、造化巧無窮、
矚目皆堪記、愧非才華雄

宗谷線

宗谷線とは

一宗谷本線 旭川、稚内間一七三哩五分

一石北線 新旭川、上川間二七哩九分

一天鹽南線 音威子府、向寒別間二八哩九分

一天鹽北線 稚内、兜沼間一六哩七分

の總稱で、其本線は旭川を起點として北し、名寄、音威子府を経て濱頓別から海岸に沿ひ、樺太への渡港稚内に至つて居る。函館本線と相俟つて帝國鐵道幹線の一部をなし、函館より稚内への直通急行あり、函館より約二十三時間、旭川より約九時間を要する。支線には新旭川から上川に至る石北線、音威子府より門寒別に至る天鹽南線があり、稚内から兜沼に至る天鹽北線があり、名寄からは名寄線が岐れて居る。

宗谷本線

旭川—稚内 一七三哩五分

【旭川】(あさひがは) 函館本線参照 【新旭川】(しんあさひがは) 二哩三分 石北線の分岐點、同線は今新旭川、上川間二七哩九分開通し、將來湧別線遠程に接続すべき線である。列車は旭川を起點として約二時間餘を要し、旭岳登山と靈山碧水峽の勝を探るには其上川よりするのである。上川旅館田邊、坂東、近江屋 ▼靈山碧水峽、旭岳を主峯とせる大雪山集の北を劃する石狩川上流の勝を云ひ、双雲別の村名より又双雲溪と云ふ、上川より峽の中心點たる鹽谷、加藤、飯田の三温泉旅館のある双雲別温泉まで約五里半、一日の行程である。靈山碧水の美は其温泉を中心とした上下約五里の間に萃り、左右の斷崖壁立して石狩の碧水を狭むところ、柱狀の節理を成せる流紋岩の奇峯連續して鬼神が巧める空中樓閣かと怪まる。小護山、瀧、姫岩、白糸の瀧より小函に至つて最奇構を見る、温泉より小函まで往復約八時間を要す、小函より奥三里更に大函の勝あり ▼旭岳登山、北海道山岳の雄を誇るに足るものは、旭岳を主峯とせるいはゆる大雪山集で、北海道中央山脈の骨

髓をなし、旭川平野を走る汽車中より雪を戴く尅大なる山群を仰ぐべし、上川から双雲別温泉に至りて靈山碧水峽の勝を探つた人は、其處より登山するが宜い。鹽谷温泉から黒岳に至る二里の間登山道路開かれ、黒岳から旭岳まで一里半約三時間で登れる、旭岳には石室の設あり、石室より幣の瀧を経て松山温泉まで下り五里、松山よりは邊別川に沿うて美瑛驛まで八里、忠別川に沿うて旭川驛まで約十二里である 【名寄】(なよろ) 四七哩二 名寄線の分岐點附近郊野多し、名寄はアイヌ語のナイオロコタンで谷に於ける村の意である。旅館◎、富士屋 【音威子府】(おとこねつぼ) 八〇哩三天鹽南線の分岐點、同線は天鹽川に沿うて今問寒別まで開通して居るが、本年十一月には概延まで一四哩七分延長し將來稚内に達せんとする線で、全通の上は本線より十數哩の短縮を見る管で、交通上相當變化を見ることと思ふ。旅館松尾、菅井 【釧路】(くしろ) ▼ビンネシリ山、山麓まで約二十丁、海拔千二百尺、登山季節五月より十月まで。附近一帶森林豊富、製材が盛である 【濱頓別】(はまどんべつ) 驛を後にすると左にクツチャロ湖の明鏡が見える、周圍十里餘、原始林に包まれた靜寂な境で、ビンネシリ山が仰がれる。三四月頃には鴨や白鳥が来て異觀を呈する 【釧路】(くしろ) ▼海水浴場、五丁、遠淺の砂濱で北部唯一の海水浴場である ▼村井石油礦、西北十五丁 【稚内】(わっかない) 本道の最北端、ノシヤップ岬と宗谷岬を以て抱擁せらるゝ、宗谷灣の西南に位し、後に急峻なる一帯の丘陵を負ひ、前は宗谷灣を隔て、宗谷岬と相對し、北方遙に樺太の山影が望まれる。樺太との交通要路で大泊との間に省經營の連絡船あり、四月より十一月迄は隔日、十二月より三月までは一、六の日稚内發、三、八の日大泊發の二往復の運航があり、夏季は八時間、冬季は九時間間を要する。天鹽北線は稚内より南し兜沼まで一六哩七分の間近く開通した。稚内旅館木谷、菅野、雲井 ▼利尻富士、海拔五千七百尺、秀峰海上に聳立す。樺太への旅行者で船上歎美の聲を發せぬ人はあるまい。登山季節六月下旬より九月まで、稚内から大泊へ定期船が出る ▼大泊、樺太の南端に於ける樞要の地。千歲灣

に臨み、樺太島唯一の貿易港として繁盛なる街衢をなして居る
▼樺太鐵道 樺太の鐵道は大泊から小沼を経て榮濱に至る五七哩
五分を本線とし、小沼から川上炭山に至る一三哩四分の支線あり、
大泊、榮濱間三等二圓十五錢、二等四圓三十錢、小沼、川上炭山
間三等四十五錢、二等九十錢。西海岸線は本斗から真岡を経て野
田まで五八哩四分、賃金三等二圓二十錢、二等四圓四十錢である

北海道俚語

可愛らしいは碗豆の花よ、花は小花でノ一濃紫
惚れる迷ふと髪のもまでも、入れたかもしの中
までも

松前追分節

忍路高島およびもないが、せめて歌棄磯谷まで
大島小島のあひ通る舟は、餌差通ひかなつかしや
帯も十勝でそのまゝ根室、落つる涙の帆泉
江差照るくゝ函館くもる、あひの福山花が咲く

室蘭線

室蘭線とは

- 一室蘭本線 岩見澤、室蘭間八六哩七分
- 一萬字線 志文、萬字炭山間一四哩八分
- 一夕張線 追分、夕張間二七哩二分、紅葉山、登川間四哩八分

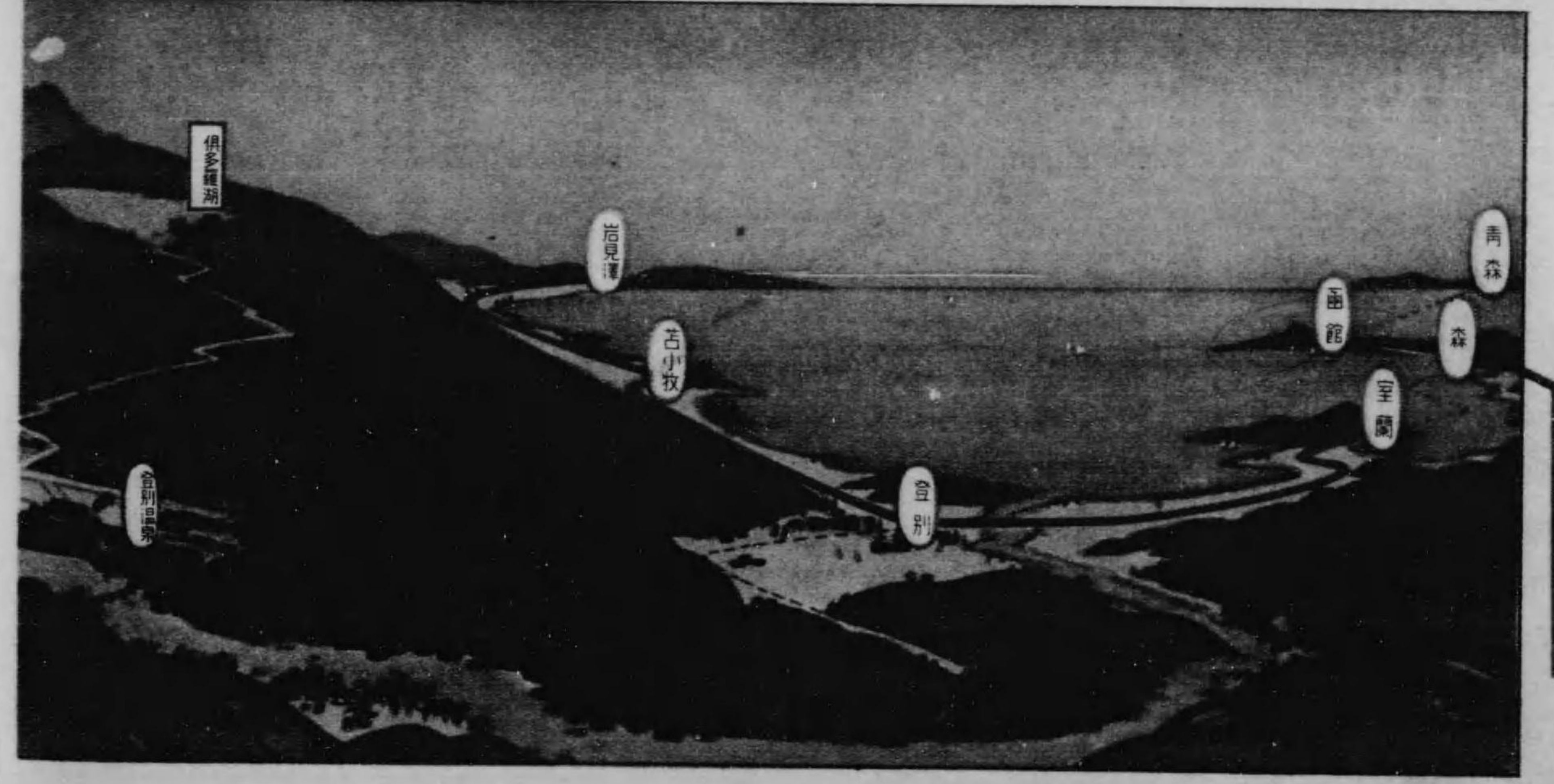
の總稱で、其本線は岩見澤を起點として南し、志文で萬字線を、
追分で夕張線を岐ち、苫小牧からは太平洋岸に沿うて室蘭に至つ
て止まる。此間約四時間を要する

室蘭本線

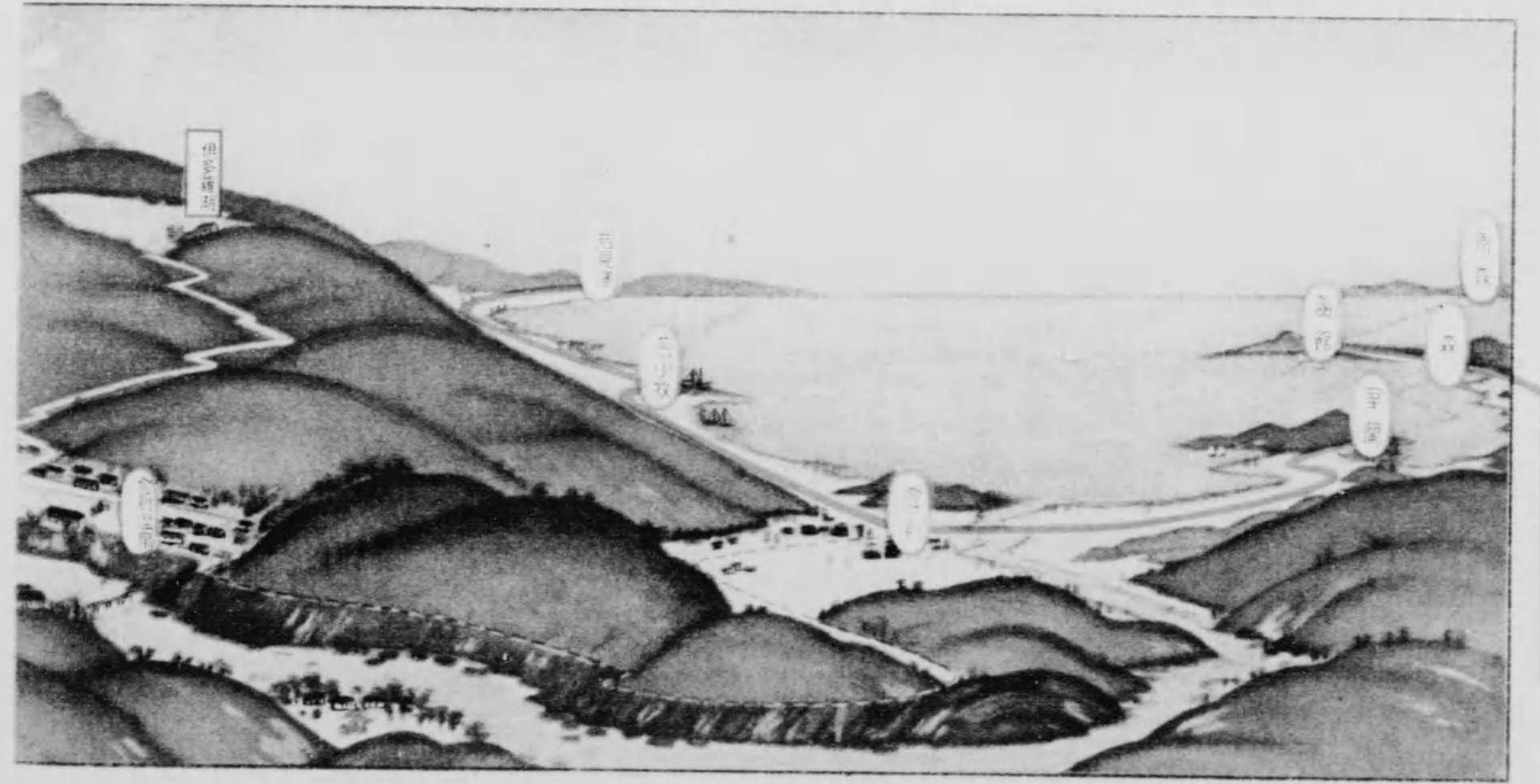
岩見澤—室蘭 八六哩七分

【岩見澤】(いはいざは) 函館本線参照 【志文】(しぶん) 萬字線の分
岐點、同線萬字炭山附近には萬字炭礦がある 【追分】(おひわけ)
二四哩 夕張線の分岐點、同線は夕張炭山の運炭線で、川端驛か
ら幾度か夕張川に沿うて風光の賞すべき處が多い、千鳥ヶ瀧は瀧
ヶ上驛から西南六丁、夕張川の奔流が丈餘の巖壁から落下して壯
觀である。岸に沿うて晩秋の頃は紅葉が美しい、紅葉山驛は附近
一帯に楓樹が多いので名付けられたもので、技から登川に至る支
線があり、沿線に楓炭礦、登川炭礦がある、紅葉山から夕張に至
る沼ノ澤、清水澤、鹿ノ谷各驛沿線にも多くの炭礦がある。夕張
驛は此線の終點で夕張炭山の所在地、炭山は本道第一の大炭坑で
九州の三池と併稱されてゐる、夕張旅館可谷、山形屋、丁野
【早來】(はやきた) 此處から知床まで五哩間の早來軌道あり
▼鶴ノ湯温泉、十三丁 【沼ノ端】(ぬまのはた) 四〇哩七 北海道
鐵道線の分岐點、同線は天産に富む釧路東部を経て根室線の金
山に通ずる豫定で、現時邊宮内まで四一哩間開通して居る 【苫小
牧】(とまこまい) 四六哩 旅館富士館、廣島屋、王子製紙會社が工
場を技に設けた爲め、急速な發達を來した市街である、支笏湖へ
は夏季は社の専用鐵道の便がある、又佐瑠太迄二五哩間苫小牧鐵
道が通じ、其處から自動車で新冠の御料牧場、浦河の陸軍の糧馬

露光量違いの為重複撮影



露光量違いの為重複撮影



牧場へ行ける、又佐瑠太から平取まで八哩餘佐瑠鐵道あり、平取にはアイヌの古祠平取神社がある。▼支笏湖、西北一五哩三分、千歳川の上流にある大湖で、周圍九里三十三丁、湖面は海拔八百五十呎、深度千三百五十呎あり、深い爲に冬も凍らぬ、湖畔に蕙庭、樟前の二山が相對立して景趣を添へてゐる。湖畔は避暑に適し、湖中に鯉鱒、サワカニを産する。【鑄多量】にしたつよ。五二哩二▼樽前山、山頂まで四里廿八丁、支笏湖盆の南縁に在る扁平なる複式火山で近年屢々活動した、南麓の裾野は海岸に延び、この線旅行者に忘れぬ印象を與へる。【白老】(しらおい) 旅館宮川、泉 ▼アイヌ部落、南七丁 ▼仙臺陣屋址、西半里 【登別】(のほりべつ) 七一哩二 ▼登別温泉、北西五哩四分、軌道貨三等五十一錢、二等七十八錢、途中紅葉谿の勝がある。登別は實に本道白眉の温泉で、翠巒四周を繞り、翠影樓を罩む、湯元は溪路を辿ること約二丁、一帶の巖石恰も劍戟を植えた如き劍ノ山の下に一條の流あり、白煙濛々として咫尺を辨せず、温泉は其水底より巖壁より轟々滔々怒號を發して奔騰し、淀んでは池となり、流れては川と成り、壯絶凄絶である、附近に大湯沼あり、鹽湯の池あり、全山溪に沼に湯を沸かさぬ處はない。旅館第一瀧本館、第二瀧本館、湯ノ瀧、瀧見館、丸和 ▼カル、ス温泉、登別温泉より西北一里二十丁、馬車一圓三十錢、青槽四周の仙臺、秋季紅葉郷となる、登別の脂肪の氣漲れるに對して、技は全くの療養温泉としての價値を有す、温泉は胃腸によく、又神經病に特效ありと云ふ。旅館岩井、鈴木、洗心館 ▼俱多羅湖、登別温泉から東一里六丁、平易な新道が通じた、湖中には鯉鱒を産する、秋季楓葉の爲に湖水も燃えんとす、中尾氏夫人の簡易宿泊所あり

【室蘭】(むろらん) 八六哩七 旅館福井館、創成館、中村、新輪半島の腰部、内浦灣の東南岸にあり、東海岸の要港である。今人口五萬三千人を有し、大正十年の貿易額輸出一百一萬圓、輸入二十二萬圓あり、石炭、木材、鐵類、巻取洋紙、木炭、魚介などの集散が多い、東廿五丁には日本製鋼所、北西一里には東洋捕鯨會社がある。測量山は市の背後にあり、山海の眺望雄大である。山麓

には八幡神社あり、室蘭名産鯨燻製、うに煎餅 ▼洞爺湖、有珠火山の北麓に在り、周圍十三里半、湖中に中島、觀音島などあり風景美を形成して居る、湖畔に至るには二途あり、一は室蘭から汽船で西紋廳に上陸し、湖畔壯麗村まで三里二丁、壯麗村には橋口氏の農園紫明園がある。園内には千年斧を入れざる原始林あり其林中を湖の水を受けた壯麗川が流れ、練水橋畔最園遊の趣に富んで居る。二はやはり室蘭から汽船で蛇田に上陸し、其處から一里半にして湖畔の床丹温泉に達する、温泉旅館望羊館、龍湖館、壯麗、床丹、向洞爺間には發動汽船便あり、湖上舟遊の快盡きず有珠火山へ登るには床丹温泉よりす、登路三十丁、頂上の大火口内に大有珠、小有珠の二圓頂丘峙ち、共に其頂上に河礫層を押し上げて居るのが、世界無比の珍現象だと云ふ。善光寺は西紋廳から二里半、蛇田から一里、有珠灣に臨む、徳川家齊蝦夷を収めて公領とし大に開拓に努むるや、日高國様似の等持院、銅路厚岸の國泰寺を營むと共に善光寺を改修して三大寺とした、境内西國三十三ヶ所觀世音石像あり、附近白ヶ森の地藏菩薩と共に皆家齊の奉獻に係る

松浦武四郎氏紀行の一節

湖上に逍遙す、此邊白岳の東北岸にて、赤壁斷崖樹木無く、手を伸べ攀る時は、崖崩て其危云はん方なし。頂は常に燃出、其響百千の雷を轟すが如し、湖水を隔て、之を望む、其風景筆紙の及ぶ處にあらず、後を仰げば後方羊蹄の巔青天に直立す、其形恰富士の如し、須臾は其勝景に見とれて佇立したり。

根室線

根室線とは

一根室本線 瀧川、根室間二七七哩九分、及貨物支線
一富良野線 下富良野、旭川間三三哩九分

の總稱で、其本線は函館本線瀧川驛より分岐し、空知川の溪谷に沿うて下富良野に至り、富良野線を分岐し、本線は尙空知川に沿うて登り、落合に至れば海拔已に千三百尺、汽車はこれより愈々高きに進んで狩勝に至る。狩勝を後にすれば忽ち三千尺の陡道を潜つて、北海道全線中の最高點たる海拔千七百六十尺と云ふ石狩十勝の國境を縫うて下るのである。車窓を放てば翠黛描けるが如き佐幌嶽は幾度か右に左に在り、見下せば十勝の高原茫茫として際涯を知らず、展望開豁、風光秀麗、身は雲上畫中に在りて別に一幅の畫を望むが如く、鐵路羊腸として旋轉曲折平野に下る處恰も中天より降下するの感がある。かくて帯廣を経て東海岸に出で、厚内よりは多く海岸を走りて景趣雄大である。函館根室間には直通列車一回あり、約二十九時間で達する。帯廣から北に駛るる上子幌線は今工事中で桔梗ヶ岡まで九哩七分は本年十一月開通の豫定である。

根室本線

瀧川—根室 二七七哩九分

(驛名の下に記せるは函館よりの哩程である)

【瀧川】(たきがは) 函館本線参照 【幌倉】(ほろくら) ▼農商務省種羊場、北七丁 【平埴】(ひらし) 附近豊田炭礦あり 【下富良野】(しもらの) 附近炭礦多く、三菱蘆別炭礦、久原邊溪炭礦あり、旅館蘆別館、沼田旅館 ▼蘆別炭礦、東南二十丁 【奔茂尻】(ほんもしり) 二五七哩四 ▼空知瀧、半里、前驛野花南との間秋期紅葉の美あり 【下富良野】(しもらの) 二六六哩七 富良野線の分岐點、同線は旭川迄三十三哩八分の支線で、列車は一日四回運轉し約二時間を要する、旅館寺、福鳥屋、▼鳥沼、東一里、紅葉の勝地 【金山】(かなやま) 二八三哩六 ▼空知川沿岸の紅葉、瀧川から落

合に至る間汽車は殆ど常に鐵路に沿うて居り、秋季紅葉の美を現はすが、この驛附近特に其眺觀が勝れて居る ▼富士製紙金山パ

ルプ工場、空知川の對岸に近く見ゆるものそれ 【落合】(おちあひ)

三〇〇哩一 空知川本支流の合流する處にして、海拔一三四九尺、四邊松樹蒼鬱翠色目に迫る ▼落合原生保存林、東一里半、

古來斧鉞を入れざるエゾ松、トウ松の美林である、本林に接して

エゾ松試験林あり 【帶廣】(おびひろ) 三四四哩七 十勝、札内二

川の會轉點に街衢を爲し、地勢廣潤にして肥沃な爲農産物豊富で、

十勝國物貨の集散市場である。旅館信陽館、北海館。 ▼北海道製糖會社工場、南三十丁、甜菜より白砂糖を製す、年産一萬噸を

超ゆ ▼鮭人工孵化場、東十八丁、毎年幼魚八万三千餘尾を十勝

川に放流す ▼十勝産牛馬畜産組合市場、西南十丁、毎年四、八、

九、十一月の驛市には毎回二千餘頭出場す ▼舊土人部落、西一

里、俵六十錢 ▼十勝鐵道、新帶廣太平間、藤上美生間、常盤千

代田間、三五哩四分開通して居る 【池田】(いけだ) 三五九哩七

網走本線の分岐點 【豐頃】(とよころ) ▼二宮農場、南三里興復社

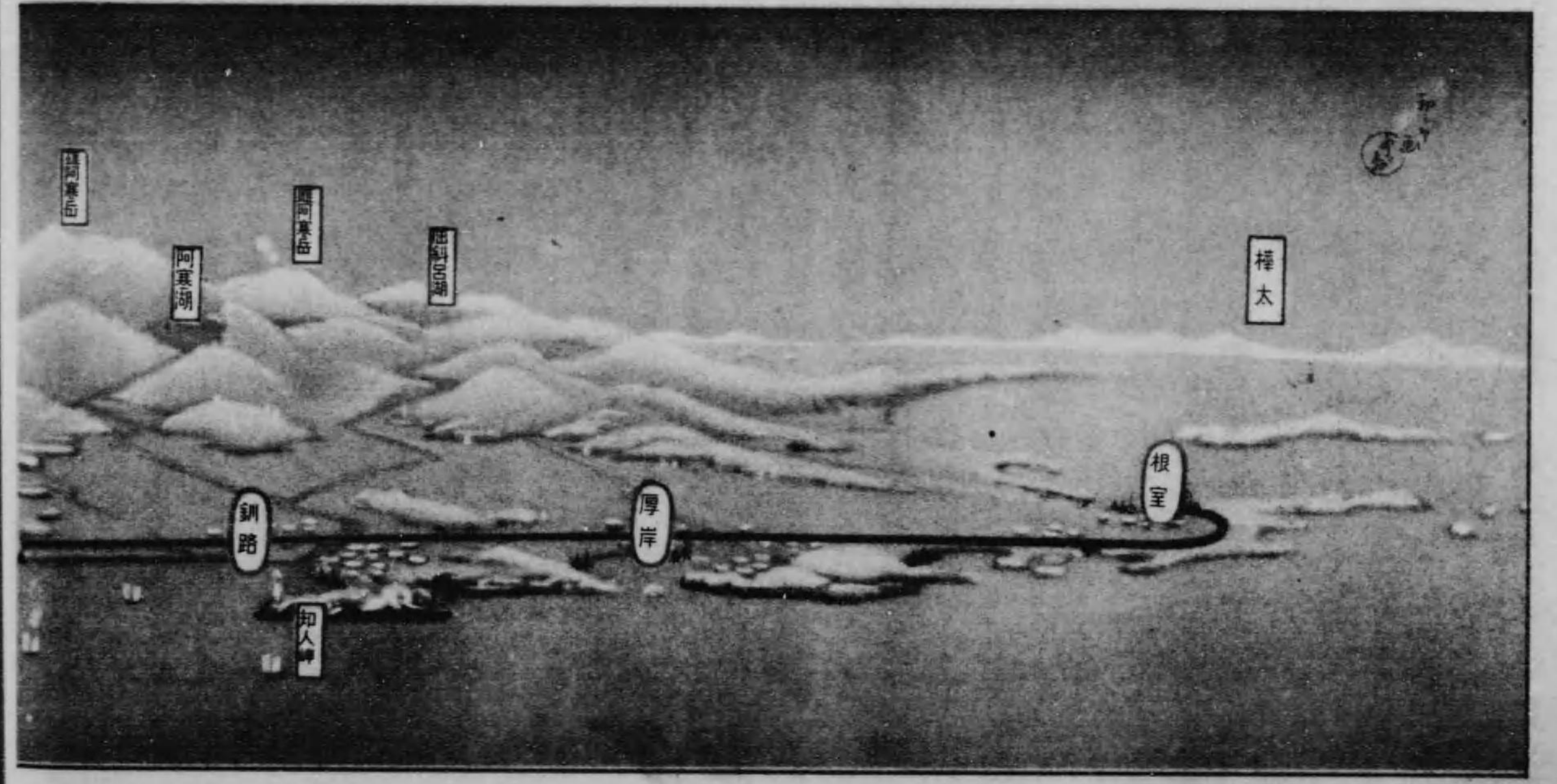
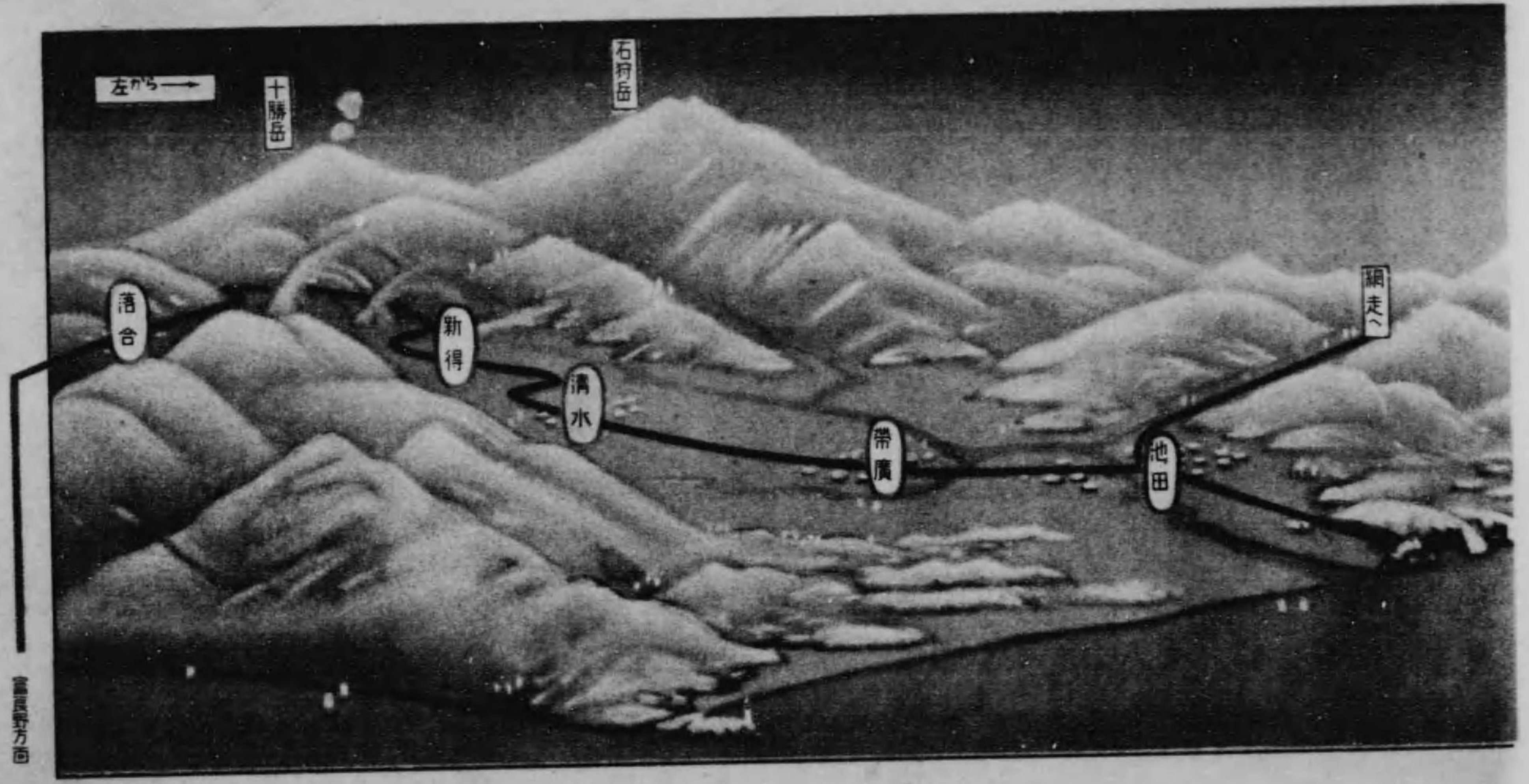
と云ふ、尊徳翁の令孫尊親氏の經營になる模範農場で、内務大臣

より表彰せられて居る 【大業毛】(おたのし) 四一八哩九 驛附

近に於て毎年八、十、十一月の三回牛馬の驛市あり、毎回出場馬



四二千餘頭に及び其種類并に賣買頭數の多き本道第一、特に大正十一年七月の臨時市場には、攝政宮殿下御台覽の光榮を有す 【釧路】(くしろ) 四二四哩七 旅館富士屋、近江屋、輪島屋山形屋 本道東海岸に於ける唯一の要津で、大正十年の貿易額輸出三百四十三萬圓に上る、市街は釧路灣に面し釧路川を挟んでゐる、海陸の交通を兼ねてゐるので釧路、十勝及北見、石狩の物貨集散市場となり、今人口四萬六千人を有する。春採湖は驛より三十丁、自動車一圓、湖の南端は殆んど海に接し、湖中舟遊、釣魚に適し、其北岸一帯の地は公園豫定地で太平洋の怒濤と阿寒の雄姿に接する風光の佳い處である。知人岬は南廿五丁、自動車一圓、釧路港の南壁をなし燈臺があつて山海の風光が佳い。アイヌの砦跡



は東廿丁、茂尻矢にある。▼北海道炭礦鐵道、釧路より雄別炭山に至る二七哩四分、賃金一圓十錢、主として阿寒地方に豊富に包蔵する石炭の採掘輸送を目的とし、線路多く阿寒川に沿うて溯り、途中平戸前、舌辛驛あり、阿寒湖山の遊覽には其舌辛驛に下車するが宜い。▼阿寒登山と阿寒湖舟遊、北海道の神秘的原始景觀に接し得るは阿寒地方である。阿寒湖盆は一の火山陥没地で、中央火山たる雄阿寒は富士形の英姿を現はし、海拔五千尺、頂上には著しき火口なく全山針葉樹を以て覆はれて居る。雌阿寒は雌山メシラ小雌山、阿寒富士より成り、海拔五千三百九十六尺、活火山で山腹は高山植物に富む、山頂に暗緑色の湯沼あり、四周に爆發龜裂があつて、濼窟を極めてゐる、噴火口は此の池から二十間程離れ口徑三丁、常に硫氣を噴出上昇し十餘丈に及んでゐる、四顧頗る濶く群峯脚下に連り、遙かにオコトク海、太平洋、釧路及十勝の平原を望み、遠く石狩嶽に對して風光雄大である。阿寒湖は其雌雄阿寒嶽の中間にあり、海拔二千尺、周圍七里半、湖中ボンムシリ、ランムシリメシラの二島あり、湖上舟を浮べて阿寒川の水源地瀧の口に至れば兩岸狭く綠樹蔽ひ、雄阿寒嶽の雄姿元として雲表に聳え、風趣言ふべからざるものがある、湖中鮭鮭を産し、又蘆藻といふ珍らしいものが浮んでゐる、この湖山の風光を見んには、釧路より炭礦鐵道によりて舌辛驛下車、徹別、ルベシベ、ピリカネツプを経てアレマフリ山麓南側から急峻を迂回して雌阿寒嶽頂上大噴火口南東丘壁に達する、舌辛驛から頂上まで約十四里、徹別迄約五里半は不定期だが馬車軌道の便がある。山頂からは阿寒湖の方へ下り、湖畔の温泉に一泊、阿寒湖探勝の上翌日雄阿寒嶽に登山するが宜い。近年登山道路開修成り、指導標を樹て、あるから便利である。【厚岸あつけし】東海岸釧路に次ぐ要港で、海産物が豊富である此地は頗る風景に富み、又牡蠣の産出で知られてゐる、厚岸本町は對岸海路六丁、渡船賃五錢、景運山國泰寺は盤嶺山麓にあり、俵四十五錢、文化年間幕府の建立した官寺で櫻樹が多い。倒水松は奔渡町オツナイ山頂にある珍しい木で、附近は土人古戰場だつたといひ口碑多く、厚岸湖を眺むる風光が佳い。▼厚岸湖の舟

遊、厚岸灣に接する鹹湖で周圍七里餘、丘陵を繞らし風景絶佳である。湖中牡蠣島あり、天明、天保兩度の大地震に因つて出来たもので年々牡蠣の産卵其周圍に累着し、島の面積を擴大する程である。貸舟は驛より十七丁の奔渡町にあり、一日二圓五十錢、船頭付は三人乗四圓、時間賃は船頭付で一時間五十錢である。旅館五味旅館本支店【根室ねむろ】旅館二美喜館、本線の終點で根室半島の北方に位し、根室、千島二國の要港で海産物の輸出多く、大正十年産額百十八萬圓に上り、物資の集散市場である。金刀比羅神社は根室港内を俯瞰し、遠く國後及日梨の連峯を展望し風光が佳い。産物には昆布、開鱈、鱧鮓等及鮭、鱒、蟹の罐詰がある。千島國後島の泊港へは冬季を除き月四回定期船其他發動機船の運航あり、四時間で行ける

飲千根室山開法寺 章 庵

壙靜清風滿座、樹疎芳草鋪庭、繁絃屢起何處、大舶燈迷遠汀

松浦武四郎氏紀行の中に
よもすからねもろの海にいねもせて
網ひく葉のいとまなけなる
眞帆片帆ひまなく出てつ入りつして
げに賑はしき里にもあるかな

網走線

網走線とは

一 網走本線 池田、網走間 一二〇哩四分
 一 湧別線 野付牛、下湧別間 五〇哩六分

の總稱で、本線は根室本線池田驛から分岐して北し、野付牛で湧別線を岐ち、網走に至つて止まつてゐる。池田、網走間約七時間半、野付牛、下湧別間約三時間を要する、湧別線の中湧別と宗谷線の名寄間には名寄線あり、湧別線と相俟つて宗谷、網走兩線の連絡線となつて居る。又美幌より南相生に至る相生線は今工事中で、本年十月には津別まで一〇哩餘、十四年四月には津別より相生まで一二哩餘開通すべき豫定であり、網走と釧路とを接続すべき釧網線の一部は網走から東海岸に沿うて北見瀋湊まで七哩二分本年十一月開通の豫定である。

網走本線

池田—網走 一二〇哩四分

【池田】(いけだ) 釧路本線参照 【置戸】(おけと) 六八哩 ▼置戸國有林、西南一里、少利別驛との間面積三萬四千町歩、北海道屈指の美林である。旅館置戸館 【野付牛】(のつけうし) 八七哩 湧別線の分岐點。南七丁に三井木挽工場、同十二丁に農事試験場がある。旅館市川、黒部

湧別線 野付牛から下湧別まで五〇哩六分の支線である。 【野付牛】(のつけうし) 網走本線参照 【留邊蘆】(るべし) 一四哩二旅館三浦屋 ▼温根温泉、西南二里十九丁自動車一圓五十錢、馬車一圓、後に山岳を負ひ前は武華川に臨む、硫黄泉で温度百四十度ある。旅館大江、國澤 【遠輕】(えんがる) 三七哩五 旅館美濃屋 ▼家庭學校農場、北約一里、留岡幸助氏の經營、不良少年の感化事業を主とし、模範的に農牧業を兼營して居る。 ▼鴻ノ舞嶺山、北西約五里半、住友氏經營の金銀礦である。 ▼巖望岩、遠輕市街の背後に在り、峙立二百四十尺、眺觀に富む。附近一帯スキー練習の適地である 【中湧別】(なかうべつ) 名寄線

接續點、旅館九州屋 【下湧別】(しもうべつ) 五〇哩六 旅館横山、堀川 ▼猿間湖、東一里、馬車三十錢、本道第一の大湖で周廻二十三里餘、海岸湖である。湖畔翠林を繞らし、其内にアイヌ部落が點在する、湖中の眺望は晩春が最佳い、牡蠣を名産とする

【網走】(あほしり) 一二〇哩四 網走川の吐口にあり、北海岸の要津である。附近一帯の地は本邦に於ける霖雨の地として知られてゐる。名産水松洋杖、旅館松井、横山、新谷 ▼網走湖、西一里、周廻十一里十四丁、平丘湖を廻り、呼人半島湖中に突出し、北方に三眺山がある。蛙、鱒、鯡等の魚族多く、風景亦壯大である ▼能取湖、西北半里、周廻七里三十三丁、一條の砂丘僅に海と湖とを分ち、野取の北邊に於て海水と相通じてゐる ▼三眺山、西一里、山麓から九丁、網走湖、能取湖、網走全港を一時に萃め、風光絶佳である

- 鯨よる
- あらいそ
- 波に舟うけて
- くま住む
- 山の月を見るかな
- えそ人の
- こき吹く姿
- ひきかへて
- 魚とるさまの
- たけくもあるかな
- 鮎之
- 粘 邦

名 寄 線

名寄線とは

一名寄本線 名寄、中湧別間七五哩七分

一清滑線 清滑、北見瀧ノ上間二一哩三分

の總稱で、本線は宗谷本線名寄驛から分岐して東し、興部に至つて始めて海光に接し、それより常に海岸に沿うて南東に進み、清滑よりは西に向つて清滑線を岐ち本線は中湧別に至つて湧別線に接続して居る。名寄から中湧別まで約五時間、清滑から北見瀧ノ上まで一時間半を要する

名寄本線

名寄 中湧別 七五哩七分

【名寄】(なよろ) 宗谷本線参照 【興部】(おきつべ) 四二哩一 北見

沿岸雄武、幌内、禮文、江幸等に通ずる要衝地で物資の集散が多い

【沙留】(さる) 四八哩二 附近の海岸は天然の良海水浴場である。又海扇の漁多く、海扇から採取する貝柱の産額は一年約

二十八萬斤に達して居る 【清滑】(しよこつ) 五五哩二 清滑線

の分岐點

清滑線 この線は清滑から岐れて西し、線路常に清滑川に沿うて

其上流瀧ノ上まで今開通して居る 【北見瀧ノ上】(きたみたきのう

へ) 二一哩三 市街は清滑川とサクル川との合流點に在り、

清滑川の奔流は驛附近に於て處々に小瀑布を形成し風光美を現

はして居る。一帯の地は地味肥沃農耕に適し、木材も亦豊富で

ある

【欽別】(おんべつ) 五七哩八 北海沿岸の要津、海産物の輸出多く、

附近地方に於ける物資の集散市場である 【中湧別】(なかゆうべつ)

湧別線接続點

旅行して他郷に遊び、名勝の地、山水のうるはしき、佳境にのぞめば、良心を感じおこし、鄙吝をあらひすゝぐ助となれり、是も亦、我が徳をすゝめ、知をひろむるよすがなるべし。又いひ知らぬ靈境にゆき、見なれぬ山川のありさまを見て、目をあそばしめ、其里人にあひて、其風土をとひ、あるは、おくまりたる山ふところ、岩根ふみてたづね入り、もとより山水の癖ありて、青山夢に入ることしきりなる人は、心をとめて歸る事を忘れぬ。あるは海べた山遠き眼界ひろきながめは、萬戸侯の富にもまされり。又其里におひ出でたる名産の異なる品を見て、其味をこゝろむるも、いとめづらしく心慰むわざなり。すべて勝地にあそびて、見きゝせしこと、唯一時の耳目を悦ばしむるのみならず、いく年へぬれど、其時見聞せしありさま、老の後まで、をりをり思ひ出られて、恰も其時見聞せし思ひをなして樂しむべし。是を以て、世にめでたき事を思ひてと言ふも、うべなるかな

(貝原益軒先生樂調の一節)

州		本				州		國		九				
鹿兒島線		東北線		磐越線		奧羽線		陸羽線		信越線				
肥薩線	宮崎線	鹿兒島線	室木線	須崎線	高知線	德島線	讚岐線	總武線	房總線	成田線	久留里線	東金線	高松今治間、多度津讚岐財田間及貨物支線	
鹿兒島本線	室木本線	須崎本線	高知本線	德島本線	讚岐本線	總武本線	房總本線	成田本線	久留里本線	東金本線	高松今治間、多度津讚岐財田間及貨物支線	小松島線	德島本線	須崎本線
鹿兒島本線	室木本線	須崎本線	高知本線	德島本線	讚岐本線	房總本線	房總本線	成田本線	久留里本線	東金本線	高松今治間、多度津讚岐財田間及貨物支線	小松島本線	德島本線	須崎本線
鹿兒島本線	室木本線	須崎本線	高知本線	德島本線	讚岐本線	房總本線	房總本線	成田本線	久留里本線	東金本線	高松今治間、多度津讚岐財田間及貨物支線	小松島本線	德島本線	須崎本線

州		本				州		國		九																			
關西線		山陰線		山陽線		中央線		北陸線		東海道線																			
城勢線	紀勢線	和歌山線	片町線	津島線	草津線	紀勢線	關西線	大境線	伯耆線	備前線	宮津線	山陰線	美濃線	中央線	新水線	中津線	七尾線	三國線	小濱線	北陸線	有馬線	福知山線	西成線	越前線	武庫線	熱海線	橫須賀線	橫濱線	東海道本線
城勢線	紀勢線	和歌山線	片町線	津島線	草津線	紀勢線	關西線	大境線	伯耆線	備前線	宮津線	山陰線	美濃線	中央線	新水線	中津線	七尾線	三國線	小濱線	北陸線	有馬線	福知山線	西成線	越前線	武庫線	熱海線	橫須賀線	橫濱線	東海道本線
城勢線	紀勢線	和歌山線	片町線	津島線	草津線	紀勢線	關西線	大境線	伯耆線	備前線	宮津線	山陰線	美濃線	中央線	新水線	中津線	七尾線	三國線	小濱線	北陸線	有馬線	福知山線	西成線	越前線	武庫線	熱海線	橫須賀線	橫濱線	東海道本線
城勢線	紀勢線	和歌山線	片町線	津島線	草津線	紀勢線	關西線	大境線	伯耆線	備前線	宮津線	山陰線	美濃線	中央線	新水線	中津線	七尾線	三國線	小濱線	北陸線	有馬線	福知山線	西成線	越前線	武庫線	熱海線	橫須賀線	橫濱線	東海道本線

國有鐵道線路名稱及汽船航路 (大正十三年 八月現在)

- 一 この表は鐵道省線を經とし、私設鐵道、輕便鐵道、軌道等を緯として鐵道の連絡を示したものである
- 一 掲載の順序は本案内記事の順により、鐵道省線の本、支線に接続する私設鐵道其他を接続線名の下に列記した
- 一 市内電車は其區間哩程等を略した
- 一 接続して居ない鐵道は○印を附して最寄驛の下に附記した
- 一 軌道は悉くは掲げず、必要と認められたものゝみにした
- 一 本表に擧げた省線は十三年八月一日、私設鐵道、輕便鐵道は同七月現在である

凡例

鐵道連絡表

汽 船 航 路	道 海 北						州					
	網 走 線	名 寄 線	宗 谷 線	根 室 線	留 室 線	函 館 線	川 内 線	筑 豊 線	日 豊 線	長 崎 線	鹿 兒 島 線	名 稱 區 間
稚 内 大 泊 間	青 森 間	宮 津 間	宇 野 間	宮 崎 間	下 関 間	下 関 間	下 関 間	下 関 間	下 関 間	下 関 間	下 関 間	下 関 間
網走線	名寄線	宗谷線	根室線	留室線	函館線	川内線	筑豊線	日豊線	長崎線	鹿児島線	名 稱 區 間	
網走線(池田網走間)	名寄線(名寄中湧別間)	宗谷線(新旭川上川間)	根室線(下富良野旭川間)	留室線(追分夕張間及紅葉山登川間)	函館線(函館旭川間)	川内線(鹿兒島米津間)	筑豊線(若松上山田間及貨物支線)	日豊線(廣瀬杉安間)	長崎線(早岐佐世保間)	鹿児島線(山本岸線)	名 稱 區 間	

東海道線

東海道本線 東京—神戸：三三三哩五
 東京 品川間各驛 東京市營電車
 品川 一山手線
 二京濱電氣 品川—橫濱其他支線：一七哩四
 大森 京濱電氣支線 大森—海岸
 蒲田 一京濱電氣支線 蒲田—穴守
 二目黒蒲田電鐵 蒲田—目黒：八哩三
 三池上電氣 蒲田—池上—雪ヶ谷：三哩四
 川崎 京濱電氣支線 川崎—大師
 東神奈川 橫濱線 東神奈川—八王子(中央本線)：二六哩四
 神奈川 一京濱電氣 前出
 二橫濱市營電車
 橫濱 一櫻木町電車線
 二橫濱市營電車
 大船 橫須賀線 大船—鎌倉(東京電燈鎌倉藤澤間電車)
 橫須賀：一〇哩
 藤澤 東京電燈電車 藤澤—江島—鎌倉(橫須賀線)：六哩
 五
 茅ヶ崎 相模鐵道 茅ヶ崎—寒川：三哩一
 二宮 湘南軌道 二宮—秦野：六哩
 國府津 一熱海線 國府津—根府川：七哩九
 二小田原電氣 小田原—湯本—三枚橋 四哩三
 三島 駿豆鐵道 三島—三島町(沼津支線) 修善寺：一二哩八
 沼津 駿豆鐵道 沼津—三島町：四哩一
 富士 一富士身延鐵道 富士—大宮—身延：二六哩九
 二富士軌道 大宮—人穴：一一哩四
 江尻 駿遠電氣 1江尻—追分—靜岡 2追分—清水
 計八哩
 靜岡 一駿遠電氣 前出
 二安倍鐵道 靜岡—牛妻：五哩八
 藤枝 藤相鐵道 1藤枝—大手川：二哩五 2相良—藤枝
 一三哩七
 島田 島田軌道 島田驛—島田町：一哩七
 堀ノ内 御前崎馬車鐵道 堀ノ内—南山：五哩八
 袋井 一秋葉馬車鐵道 1袋井—森 2松葉—張ヶ谷 其
 他計八哩五
 二中遠鐵道 新袋井—新橫須賀：六哩三
 中泉 中泉人車鐵道 中泉—池田：三哩九
 濱松 一遠州電氣 1二俣—西ヶ崎—濱松—中野 2橋
 瓜—笠井：計一六哩六
 二濱松鐵道 濱松—奥山：一六哩一

豐橋 一豐川鐵道 吉田—長篠：一七哩四
 二鳳來寺鐵道 長篠—三河川合：一〇哩七
 岡崎 一岡崎電氣 岡崎—岡崎井田：三哩七
 二西尾鐵道 1岡崎—西尾—吉田港 2西尾—湊
 前：計一六哩五
 刈谷 三河鐵道 1刈谷新—越戸：一三哩九 2刈谷新—大
 濱港：九哩
 大府 武豐線 大府—武豐：一二哩
 熱田 一愛知電氣鐵道 1神宮前—常滑町 2大江—西六
 號：計一九哩五 3神宮前—有松裏—東岡崎：二
 〇哩二
 二築地電車 熱田稻永町—築地：一哩四
 名古屋 一中央本線
 二關西本線
 三名古屋市營電車 市内
 四名古屋鐵道電車 柳橋東一宮間、岩倉大山間、柳橋新
 津島間、須ヶ口清洲間、岩倉小牧間
 五名古屋土地電氣 明治橋中村公園間
 六下ノ一色電車 新尾張下ノ一色間
 七瀬戸電車 堀川—大曾根—瀬戸間
 八尾張電氣 千早大久手八事間、大久手今池間
 尾張一ノ宮 一尾西鐵道 1一宮—彌富 2一宮—木曾川
 橋 3一宮—國府宮：計二三哩一
 二名古屋鐵道電車前出
 岐阜 一高山線 岐阜—美濃太田—上麻生：二六哩九
 二越美南線 美濃太田—美濃町：一一哩
 三美濃電氣 岐阜、美濃町間 新岐阜、笠松口間 長良、
 高富間 忠節、北方町間
 四竹鼻鐵道 笠松—竹鼻：四哩八
 大垣 一一大垣—美濃赤坂：三哩一
 二掛斐川電氣鐵道 1大垣—養老—桑名 2大垣—
 掛斐：計三五哩八
 米原 北陸本線
 彦根 近江鐵道 1彦根—高宮—八日市—貴生川(草津
 線) 2高宮—多賀：計二七哩五
 近江八幡 湖南鐵道 近江八幡—新八日市(近江鐵道)：五哩
 五
 草津 草津線 草津—貴生川(近江鐵道)—柘植(關西本線)
 二二哩六
 石山 大津電車 後出
 大津 一一大津電車 濱大津(三井寺)—石山—石山寺：
 四哩五
 二京津電氣鐵道 大津—京都三條：六哩七

三 江若鐵道 三井寺——和通：一一哩三

京都

一 山陰本線

二 奈良線 京都——木津(關西本線)：二一哩六

三 京阪電車 京都三條——伏見中書島(宇治)——大

阪天滿橋：三四哩八

四 嵐山電車 京都四條大宮——嵯峨——嵐山：四哩六

五 京都市營電車 京都市內及伏見

六 京津電氣鐵道 前出

大阪

一 西成線 大阪——櫻島：四哩九

二 城東線 大阪——天王寺(關西本線)：六哩六

三 大阪市營電車 大阪市內其他

四 阪神急行電鐵 大阪梅田——神戸、其他箕面線、寶塚

線等：計四三哩六

五 阪神電車 大阪——神戸：一九哩五、外支線

六 京阪電車 前出

七 大阪電氣軌道 大阪、西大寺、奈良間 西大寺、平端、

橿原神宮間 法隆寺、平端、天理間

八 新京阪電氣 十三——千里山：五哩八

神崎

一 山陽本線

二 神戶市電

三 阪神電車 前出

四 阪神急行電鐵 前出

福知山線

一 神崎——福知山：六七哩 2 塚口——尼ヶ崎：二

哩九

神崎 東海道本線

池田 一能勢電氣 池田——妙見：八哩三

寶塚 阪神急行電鐵 前出

三田 有馬線 三田——有馬：七哩六

篠山 篠山輕便鐵道 篠山——辨天：三哩

福知山 山陰本線

山 陽 線

山陽本線 1 神戸——下關：三二九哩三 2 兵庫——和田岬：

一哩七

神戶 東海道本線

兵庫 一和田岬線

二 兵庫電氣 兵庫——鹽屋——明石：一一哩三

明石 一兵庫電氣 前出

二 神戶輕便電氣 明石——姫路：二四哩四

土山 別府輕便 土山——別府——野口：四哩七

加古川 播丹鐵道 1 加古川——厄神——栗生——鍛冶屋 2

厄神——三木 3 栗生——北條 4 加古川——高砂浦：計

四五哩

姫路 一播但線 1 姫路——和田山(山陰本線)：四〇哩九 2

二 神戶輕便電氣 前出

網干 一播州水電 新宮町——網干驛——網干港：一一哩一

有年 赤穂鐵道 有年——播州赤穂：七哩九

和氣 片上鐵道 備前矢田——和氣——片上：一一哩四

西大寺 西大寺鐵道 財田——西大寺町及財田——後樂園：計

七哩二

岡山 一字野線 岡山——茶屋町——(下津井鐵道茶屋町——

味野町——下津井：一一哩)——宇野：二〇哩四(宇野

高松連絡船)

二 岡山電車 岡山市內

三 西大寺鐵道 後樂園——西大寺町：七哩二

四 中國鐵道 1 湛井——稻荷——岡山——津山口 2 稻

荷——稻荷山：計五〇哩三

五 作備鐵道 津山口——久世：二一哩四

六 三橋鐵道 國清寺——三橋：四哩五

笠岡 井笠鐵道 1 笠岡——井原 2 北川——矢掛：計一五哩

七

福山 一輕便鐵道 福山——鞆：七哩六

二 兩備輕便鐵道 1 福山——神邊——府中町 2 神邊——

高屋：計一八哩五

海田市 吳線 海田市——吳(吳市內電車)：一一哩四

廣島 一廣島市內電車

二 藝備鐵道 廣島——備後庄原：五五哩八

廣川 可部軌道 廣川——可部：八哩五

已斐 廣島瓦斯電軌 已斐——廿日市町：六哩二

宮島 嚴島連絡船

岩國 中外電氣 岩國新町——岩國驛——新港：三哩五

三田尻 防石鐵道 三田尻——堀：一一哩六

小郡 山口線 小郡——石見益田：五八哩四

宇部 一字部鐵道 宇部——床波：八哩九

二 船木鐵道 宇部——萬倉：六哩

小野田 小野田鐵道 小野田——セメント町：二哩九

厚狹 美禰線 1 厚狹——伊佐——正明寺 2 伊佐——大嶺：

計三〇哩三

小月 長門鐵道 小月——西市：一一哩三

幡生 長州鐵道 東下關——幡生——小串：一六哩三

下關 一關門連絡船

二 關釜連絡船

三 長州鐵道 前出

中央線

中央本線 東京—名古屋：二五五哩
 東京 新宿間各驛 東京市内電車
 新宿 一山手線
 二京王電車 1新宿—調布—府中：一三哩七 2調布—多摩川原：〇哩六
 三西武鐵道電車 新宿—荻窪：四哩六
 武藏境 多摩鐵道 武藏境—是政：五哩
 國分寺—西武鐵道川越線 國分寺—所澤(武藏野鐵道)—八間川—川越(東上線)：一八哩四
 二西武鐵道大宮線 川越—大宮(東北本線)：八哩
 三武藏野鐵道 飯能—所澤—池袋(山手線)：二七哩
 立川 青梅鐵道 立川—青梅—二俣尾：一四哩七
 八王子 橫濱線 八王子—東橫濱
 大月 一富士電氣 大月—上吉田：一四哩七
 二富北軌道 上吉田、船津、成澤間
 三都留馬車軌道 上吉田—籠坂：八哩五
 石和 山梨馬車鐵道 石和—甲府—飯澤：一五哩八
 甲府 山梨馬車鐵道 前出
 辰野 伊那電車 辰野—伊那—飯田：四一哩三
 鹽尻 篠ノ井線
 大井 矢作水力 大井—岩村：七哩六
 土岐津 駄知鐵道 新土岐津—駄知：五哩五
 多治見 東濃鐵道 新多治見—御嵩：一一哩五
 大曾根 瀬戸電氣 1大曾根—瀬戸 2大曾根—堀川：計一三哩一
 千種 尾張電氣 前出
 名古屋 東海道本線
 篠ノ井線 鹽尻—篠ノ井：四二哩一
 鹽尻 中央本線
 松本 一信濃鐵道 松本—信濃大町：二一哩八
 二筑摩電氣鐵 1松本—島々：九哩八 2松本—淺間：三哩
 篠ノ井 信越本線

關西線

關西本線 名古屋—淡町：一〇八哩八
 名古屋 東海道本線
 彌富 尾西鐵道 彌富—宮間
 桑名 一北勢鐵道 桑名町—阿下喜東：一二哩四
 二揖斐川電氣養老線 桑名、大垣、揖斐間
 四日市 一四日市鐵道 四日市—湯ノ山：一〇哩二
 二三重鐵道 1四日市—日永—八王子村：三哩七 2日永—內部：二哩四
 三伊勢鐵道 四日市—津市：一九哩六
 龜山 參宮線
 柘植 草津線 柘植—貴生川(近江鐵道)—草津(東海道本線)：二二哩六
 伊賀上野 伊賀鐵道 伊賀上野—名張：一六哩三
 木津 一奈良線 木津—京都(東海道本線)：二一哩六 二片町線 木津—片町：二八哩一
 奈良 一櫻井線
 二大阪電氣軌道 1奈良—西大寺—鳥居前(生駒鋼索 鳥居前—寶山寺：〇哩七) 大阪：一九哩二 2西大寺—橿原神宮
 法隆寺 大阪電氣(天理線) 新法隆寺—天理：五哩六
 王寺 一和歌山線
 二大和鐵道 新王寺—櫻井町：一〇哩七
 三信貴生駒電氣 王寺—信貴山：一哩六
 柏原 大阪鐵道 柏原—道明寺(道明寺—天王寺)—長野(南海鐵道高野線)：一〇哩三
 平野 南海電車
 天王寺 一城東線 天王寺—大阪(東海道本線、西成線)：六哩六
 二南海電車 天王寺—天下茶屋—和歌山
 三大阪鐵道 前出
 淡町 一大阪市營電車 大阪市内其他
 二南海電車 1大阪西門前—住吉：三哩四 2大阪惠美須町—住吉—濱寺公園 3大阪難波—住吉—和歌山市：四〇哩
 三同高野線 大阪汐見橋—住吉—長野—橋本：二八哩一
 四大阪電氣 大阪、奈良間其他前出
 參宮線 龜山—鳥羽：四四哩五
 龜山 關西本線
 津 一安濃鐵道 1新町—安東—林：九哩 2安東—片田：三哩二
 二伊勢鐵道 前出
 阿漕 中勢鐵道 岩田橋—阿漕—大仰：九哩一
 松坂 松坂鐵道 1松坂—平生町—大石 2平生町—大口：計一四哩四
 相可口 紀勢東線 相可口—川添：一一哩四
 山田 伊勢電氣 1山田—內宮：四哩二 2內宮—二見：五哩九 3二見—山田：五哩一

鳥羽
櫻井線 奈良—高田：一八哩二
奈良 關西本線
丹波市 大阪電氣 天理—平端（法隆寺）—西大寺（奈良、大阪）—前出
櫻井 一長谷鐵道 櫻井—初瀬：三哩五
二大和鐵道 前出
高田 和歌山線
和歌山線 王寺—和歌山市：五五哩三
王寺 關西本線 大和鐵道 前出
高田 櫻井線
吉野口 吉野鐵道 1 吉野口—吉野：七哩二 2 吉野口—
橿原神宮前
橋本 南海鐵道高野線 前出
和歌山 一紀勢西線 和歌山—東和歌山—箕島：一六哩八
二山東鐵道 東和歌山—山東：五哩
和歌山市 京阪電氣和歌山線 1 和歌山市驛—和歌浦口—
日方口 2 和歌浦口—新和歌浦
二野上輕便鐵道 日方—野上：五哩五
三南海電車 和歌山市—大阪難波—前出
四加太鐵道 和歌山口—加太：六哩一
○有田鐵道 海岸—金屋口：五哩七
○新宮鐵道 勝浦—新宮：九哩六

北 陸 線

北陸本線 米原—直江津：二二八哩三
米原 東海道本線
敦賀 一 小濱線 敦賀—新舞鶴：五二哩四
二 敦賀—敦賀港（浦登斯德連絡船）：一哩五
武生 一 武岡鐵道 新武生—岡本新：六哩
二 福武電氣 武生新—兵營：五哩三
福井 京都電燈越前電氣 新福井—大野三番：二二哩八
丸岡 丸岡鐵道 丸岡—本丸岡：二哩六
金津 三國線 金津—三國：六哩一
大聖寺 溫泉電軌 大聖寺—河南：山中：五哩六
動橋 溫泉電軌 1 動橋—片山津：一哩七 2 動橋—山代
三哩一
粟津 溫泉電軌 1 粟津驛—粟津：二哩二 2 粟津—山代
河南：六哩六
小松 尾小屋鐵道 小松—尾小屋：一〇哩四
松任 金澤電氣 松任—新野々市—金澤：五哩六
野々市 金澤電氣 新野々市—鶴來：七哩三
金澤 一金澤電氣 1 金澤市内 2 金澤—松任 前出

二 金石電車 金澤—大野港：四哩七
津幡 七尾線 津幡—七尾港：三四哩四
石動 加越鐵道 石動—福野—青島町：一二哩一
高岡 一 中越線 1 高岡—福野—城端：一八哩五 2 高
岡—能町—新湊：二哩二—伏木：四哩五
3 伏木—水見：五哩八
二 加越鐵道 前出
富山 一 富山鐵道 富山—笹津：一〇哩八
二 富山電車 富山市内
三 富山縣營鐵道 南富山（富山鐵道）—岩崎寺立山（立
山鐵道）—千垣：一二哩一
滑川 立山鐵道 滑川—立山：一三哩
三 日市 黑部鐵道 三 日市—宇奈月：一〇哩七
直江津 信越本線

山 陰 線

山陰本線 京都—石見益田：三二〇哩七
京都 東海道本線
嵯峨 嵐山電車 前出
綾部 一 舞鶴線 1 綾部—新舞鶴（小濱線）：一六哩四 2 新
舞鶴—中舞鶴：二哩一
二 宮津線 舞鶴—宮津：一五哩五
福知山 一 福知山線 福知山—神崎（東海道本線）
二 北丹鐵道 福知山—河守：七哩七
和田山 播但線 和田山—姫路（山陽本線）
鳥取 因美線 鳥取—智頭：一九哩八
上井 倉吉線 上井—倉吉：二哩六
伯耆大山 伯耆北線 伯耆大山—上石見：三二哩五
米子 一 境線 米子—境：一一哩二
二 法勝寺鐵道 米子町—大袋：三哩五
宍道 宍上鐵道 宍道—木次：一三哩一
出雲今市 一 大社線 出雲今市—大社：四哩七
二 一畑輕便鐵道 出雲今市—平田—一畑：一三哩
石見益田 山口線

德 島 線

德島本線 德島—阿波池田：四六哩
德島 一 小松島線
二 阿波電氣 1 德島—中原—池谷—撫養：八哩七
2 池谷—鍛冶屋原：八哩三 3 中原—古川：〇哩
八 〇 淡路鐵道 洲本口—賀集：五哩二
阿波池田
小松島線 德島—小松島：六哩九

德島 德島本線
中田 阿南鐵道 中田—古庄：六哩五
小松島 阿波共同汽船、大阪商船

高知線

高知線 日下—須崎：一五哩六
○土佐電氣 伊野—高知—後免其他支線：計一六哩

讚豫線

讚豫線 1 高松—今治：八九哩八 2 多度津—讚岐財田：一四哩八
高松 一山陽線宇野連絡船
二四國水電 高松棧橋—栗林公園—屋島—志度：一〇哩三
三高松電氣 高松—長尾：九哩
多度津 琴平線 多度津—讚岐財田：一四哩八
今治

○伊豫鐵道 1 高濱—松山古町(道後線)：松山：一五哩八 2 松山—立花(森松線)：橫河原：八哩三 3 松山古町—道後—松山—一番町—江ノ口 4 松山—郡中：六哩六 5 花立—森松：二哩八 6 三津濱—松山—道後：六哩
○愛媛鐵道 小長濱町—大洲—內子：一七哩四
○宇和島鐵道 宇和島—吉野：一五哩九

鹿兒島線

鹿兒島本線 門司—鹿兒島：二三八哩八
門司 一關門連絡船
二九州電氣 門司—小倉—枝光—戶畑—黑崎—折尾：二二哩九
小倉 一日本線
二九州電氣軌道 前出
三小倉鐵道 東小倉—上添田：二四哩五
四小倉軌道 小倉—北方
戶畑 九州電氣 前出
枝光 九州電氣 前出
黑崎 九州電氣 前出
折尾 一筑豐本線
二九州電氣 前出
遠賀川 一室木線 遠賀川—室木：六哩九
二蘆屋鐵道 遠賀川—西蘆屋：三哩八

福岡 津屋崎馬車軌道 福岡—津屋崎：二哩九
香椎 博多灣鐵道 1 西戶崎—和臼—香椎—宇美：一五哩四 2 和臼—新博多：六哩七
吉塚 一篠栗線 吉塚—篠栗：六哩四
二九州水電 1 福岡市內外 2 今川橋町—加布里：一哩六
三筑前參宮鐵道 吉塚—筑前勝田：八哩二
博多 一九州電燈電車 福岡市內
二九州水電 前出
三博多灣鐵道 新博多—和臼(西戶崎、香椎、宇美)
四九州鐵道電車 福岡、二日市、久留米間

二日市 一太宰府軌道 二日市—太宰府：一哩九
二朝倉軌道 二日市—甘木(三井電氣)—杷木：二〇哩五
三兩筑軌道 田主丸(筑後軌道)—甘木—秋月町：九哩七
四九州鐵道電車 前出

鳥栖 長崎本線
久留米 筑後軌道 1 久留米市內 2 久留米—田主丸(兩筑軌道)—豆田—其他支線
二大川鐵道 上久留米—榎津：一二哩三
三三井電氣 甘木(朝倉軌道)—久留米日吉町—福島(兩筑軌道)：二〇哩四
四九州鐵道電車 前出

羽犬塚 一南筑軌道 羽犬塚—福島町(三井電氣)—黒木：一哩七
○哩七
二三瀨軌道 羽犬塚—榎津(大川鐵道)：七哩三
三大川鐵道 柳川—下若津：四哩
矢部川 一東肥鐵道 矢部川—兩關：八哩五
二柳河軌道 矢部川—柳河：四哩四
植木 鹿本鐵道 植木—山鹿：一二哩六
上熊本 菊池軌道 上熊本—隈府：一六哩一
熊本 一宮地線 熊本—春竹(御船鐵道) 春竹—甲佐：一哩七
二電車 熊本、百貫石間

宇土 三角線 宇土—三角：一五哩九
八代 肥薩線 八代—日奈久：六哩三
人吉 湯前線 人吉—湯前：一五哩五
吉松 日豐本線
栗野 山野線 栗野—山野：一四哩七
鹿兒島 一川內線
二鹿兒島電氣 1 鹿兒島市內 2 武ノ橋—谷山：四哩
○大隅鐵道 古江—串良：一九哩六
○沖繩縣營線 1 那霸—與那原：五哩八 2 那霸—

— 嘉手納：一四哩六 3 那霸—糸滿：一一哩四
 ○沖繩電氣 那霸—首里：四哩三
川内線 鹿兒島—米ノ津：六五哩二
 鹿兒島電氣 前出
 伊集院 南薩鐵道 伊集院—薩摩大崎：一九哩六
 米ノ津

日 豐 線

日豐本線 小倉—吉松：二八〇哩二
 小倉 一鹿兒島本線
 二小倉 小倉軌道電車 後出
 城野 小倉軌道電車 城野—北方：二哩二
 行橋 田川線
 宇島 宇島鐵道 宇島—耶馬溪：一〇哩六
 中津 耶馬溪鐵道 中津—守實：二二哩四
 四日市 日出生鐵道 豐前善光寺—豐前二日市：五哩六
 宇佐 宇佐參宮鐵道 豐後高田—宇佐—宇佐八幡：五哩五
 杵築 國東鐵道 杵築—奈多八幡：九哩三
 別府 九州水電 別府—大分：七哩四
 大分 一犬飼線 大分—朝地：三三哩六
 二大湯線 大分—湯平：一九哩八
 三九州水力電氣 前出
 富高 細島線 富高—細島：二哩二
 廣瀨 妻線 廣瀨—杉安：一二哩
 大淀 宮崎鐵道 大淀—內海：一二哩五
 ○宮崎縣營輕便 飯肥—油津：八哩九
 都城 志布志線 都城—大隅松山：一五哩
 吉松 鹿兒島本線
田川線 行橋—添田：二三哩一
 行橋 豐州本線
 伊田 伊田線 伊田—直方(筑豐本線)：九哩九
 後藤寺 宮床線 後藤寺—宮床：一哩八
 添田

筑 豐 線

筑豐本線 若松—上山田：三三哩三
 若松
 折尾 鹿兒島本線
 中間 一香月線 中間—香月：二哩二
 二帝國炭業線 香月—野面：二哩四
 直方 一伊田線 直方—伊田(田川線)：九哩九

長 崎 線

長崎本線 島栖—長崎：九八哩六
 島栖 鹿兒島本線
 佐賀 一佐賀軌道 1 佐賀市内 2 神野—都渡城：四哩八
 久保田 唐津線
 武雄 一祐德軌道 1 高橋—武雄—鹽田—鹿島—祐德
 門前 2 北鹿島—新渡：計一五哩二
 二肥前電氣 鹽田—嬉野：六哩
 有田 伊萬里線 有田—伊萬里：八哩一
 早岐 佐世保線 早岐—佐世保(佐世保輕便) 上佐世保—
 大野—相浦：六哩六 大野—柚木：二哩四 五哩
 五
 諫早 島原鐵道 諫早—愛野村(溫泉輕便) 愛野村—千々
 石：五哩八 島原湊(口之津鐵道) 島原湊—堂崎：九
 哩一 二六哩三
 浦上 長崎電氣軌道 浦上—長崎驛—其他長崎市內
 長崎 長崎電氣軌道 前出
唐津線 1 久保田—西唐津：二六哩八 2 山本—岸嶽：
 二哩六
 久保田 長崎本線
 山本 岸嶽支線
 唐津 一九州電燈軌道 佐志村—西唐津—唐津—濱崎：
 七哩一
 二北九州鐵道 虹ノ松原—前原：一五哩四
 西唐津 九州電燈軌道 前出

東 北 線

東北本線 上野—青森：四五六哩九
 上野 東京市營電車 ○京成電車 1 市内本所區押上—高砂
 市川—中山—船橋—千葉：二三哩 2 高砂—
 金町(常磐線)：一哩五
 日暮里 常磐線
 田端 山手線

王子 王子電車 大塚—王子—三輪—五哩三
 赤羽 山手線
 大宮 一高崎線
 久喜 一西武鐵道大宮線 大宮—川越(川越線、東上線等)中
 央本線、山手線參照)八哩
 一東武鐵道 1 淺草—曳舟—北千住—久喜—館
 林—足利町—太田—伊勢崎—七〇哩四 2 曳舟
 線—一〇哩五 4 館林—佐野—葛生—一三哩七
 二上州鐵道 館林—小泉町—六哩五
 小山 一兩毛線
 二水戸線
 宇都宮 日光線 宇都宮—石川軌道
 寶積寺 烏山線 寶積寺—烏山—一二哩七
 西那須野 一鹽原電車 西那須野—鹽原口—九哩三
 二東野鐵道 西那須野—太田原—黑羽—八哩二
 白河 白河鐵道 白河—磐城郡會—一四哩五
 郡山 一磐越東線 郡山—平—五三哩二
 二磐越西線
 福島 一奧羽本線
 二信達軌道 1 福島—伊達—保原—梁川 2 伊達
 飯坂 3 保原—掛田—川俣 4 保原—桑折
 三福島飯坂電車 福島—飯坂—五哩六
 伊達 信達軌道 前出
 桑折 信達軌道 前出
 大河原 仙南溫泉軌道 1 大河原—遠刈田—一六哩六 2 遠
 刈田—永野—五哩二
 槻木 角田軌道 槻木—角田—七哩七
 岩沼 常磐線
 長町 秋保石材軌道 長町—湯元—一〇哩二
 岩切 鹽釜線 岩切—鹽釜—四哩三
 松島 松島電車 松島驛前—五大堂前—二哩三
 小牛田 一陸羽東線 小牛田—新庄—五八哩五
 二石卷線 小牛田—石卷—一七哩四
 三牡鹿馬車軌道 石卷—渡波—二哩二
 瀨峯 仙北鐵道 1 瀨峯—登米—一七哩八 2 瀨峯—築館
 七哩八
 石越 栗原軌道 石越—岩ヶ崎—一〇哩三
 黑澤尻 東橫黑線 黑澤尻—和賀仙人—一三哩四
 花卷 一岩手輕便鐵道 花卷—仙人峠—四〇哩七
 二田中鐵道 大橋—鈴子—九哩九
 三花卷電車 1 花卷—大澤—八哩五
 四溫泉馬車軌道 大澤—鈴子—四哩七
 盛岡 一橋場線 盛岡—橋場—一四哩七

二山田線 盛岡—上米内—六哩一
 好摩 花輪線 好摩—平館—八哩五
 尻内 八戸線 尻内—湊—五哩一
 古間木 十和田鐵道 古間木—三本木—九哩二
 野邊地 大湊線 野邊地—大湊—三六哩三
 青森 一奧羽本線
 二青函連絡船
 山手線 1 田端—池袋—新宿—品川—一二哩八 2 池
 袋—赤羽—三哩五
 田端 東北本線
 大塚 王子電車 前出
 池袋 一池袋赤羽電車線(東北本線)
 二東上線 池袋—川越(西武鐵道其他中央本線參照)
 三小川町—三九哩八
 三武藏野鐵道 池袋—所澤(西武鐵道)—飯能—二七
 哩二
 新宿 一中央本線 二京王電車 三西武鐵道荻窪線
 代々木 中央本線電車
 澁谷 玉川電車 天現寺—惠比壽—澁谷—玉川—七哩三
 惠比壽 玉川電車 前出
 目黒 目黒蒲田電鐵 目黒—蒲田—八哩三
 品川 東海道本線 京濱電氣鐵道
 常磐線 日暮里—岩沼—二一三哩二
 日暮里 東北本線
 南千住 一王子電車
 二東京市營電車 前出
 北千住 東武鐵道 前出
 金町 京成電車 金町—柴又—高砂 外前出
 馬橋 流山鐵道 馬橋—流山—三哩五
 柏 北總鐵道 1 柏—野田町—九哩一 2 柏—船橋(總
 武本線)—一二哩二
 我孫子 成田線
 取手 常總鐵道 取手—下館(水戸線)—三一哩九
 佐貫 龍崎鐵道 佐貫—龍崎—二哩八
 土浦 筑波鐵道 土浦—筑波—二四哩九
 石岡 鹿島參宮鐵道 石岡—常陸小川—四哩四
 友部 水戸線
 水戸 一水戸鐵道 水戸—上菅谷(上菅谷—常陸大宮—八
 哩三)—大田—一二哩一
 二大郡線 常陸大宮—山方宿—七哩三
 三水濱電車 東柵町—磯濱—六哩四
 勝田 淡鐵道 勝田—那珂湊—五哩一
 平 磐越東線 平—郡山—五三哩二
 岩沼 東北本線

高崎線 大宮—高崎：四六哩四
大宮 東北本線
熊谷 秩父鐵道 羽生—熊谷—影森：三八哩九
本庄 本庄電氣 本庄—兒玉：四哩四
高崎 一信越本線
二兩毛線
三上信電氣 高崎—下仁田：二一哩
四東京電燈電車 高崎—飯塚—澁川—伊香保：二
〇哩八

兩毛線 小山—高崎：五七哩一

小山 一東北東線
二水戸線

佐野 一東武鐵道 館林—佐野—葛生 前出
二上州鐵道 館林—小泉町：六哩六

富田 赤見鐵道 富田—出流原：三哩六
桐生 足尾線 桐生—相老(東武鐵道)—間藤：二七哩四

伊勢崎 東武鐵道 前出
前橋 一東京電燈電車 前橋—澁川—伊香保：二二哩
二吾妻軌道 澁川—中ノ條：一二哩九

新前橋 上越南線 新前橋—沼田：二一哩二
高崎 高崎線參照

水戸線 小山—友部：三一哩三

小山 一東北本線
二兩毛線

下館 一真岡線 下館—茂木：二六哩一
二常總鐵道 前出

岩瀬 筑波鐵道 前出
笠間 笠間人車鐵道 笠間驛前—笠間町：〇哩九
友部 常磐線

日光線 宇都宮—日光：二五哩一

宇都宮 東北本線
鶴田 宇都宮石村軌道 鶴田—西原—大谷其他：計一八哩
三

今市 下野電氣 1新今市—高德—新藤原—一〇哩五
2高德—天頂：六哩二

日光 日光電車 日光—馬返し：六哩一

信越線

信越本線 高崎—新潟：二〇三哩六

高崎 高崎線參照
輕井澤 草津鐵道 新輕井澤—碓懸：二二哩九
小諸 佐久鐵道 小諸—小海：一九哩

大屋 丸子鐵道 大屋—丸子町：四哩
屋代 河東鐵道 屋代—信州中野：二三哩三
篠ノ井 篠ノ井線

豐野 飯山鐵道 豐野—西大瀨：二四哩七
直江津 北陸本線

黑井 頸城鐵道 新黑井—蒲川原—九哩三
柏崎 越後鐵道 1柏崎—大津(長岡鐵道)—西吉田—
白山(新潟)：五〇哩一 2彌彦—西吉田—燕：六哩五

來迎寺 一魚沼線 來迎寺—小千谷：八哩一
二長岡鐵道 來迎寺—西長岡—大津(越後鐵道)—
寺泊：二四哩三

宮内 上越北線 宮内—鹽澤：三四哩
長岡 栃尾鐵道 悠久山—長岡—栃尾：一六哩二

新津 一羽越線
二磐越西線

新潟 越後鐵道 前出

總武線

總武本線 兩國橋—銚子：七二哩七

兩國橋 東京市營電車 京成電車 前出
錦糸町 城東電氣

龜戶 東武鐵道 東北本線參照
市川 京成電車 前出

中山 京成電車 前出
船橋 一京成電車 前出
二北總鐵道 前出

千葉 一房總線
二京成電車 前出
三成田線 1佐倉—成田—我孫子(常磐線)：二八哩
五 2成田—佐原：一六哩七

八街 千葉縣營線 成田—宗吾：三哩二
二成田電車 成田—三里塚：三哩二

多古：計二三哩二
成東 東金線 成東—大網(房總線)：八哩六
銚子 銚子鐵道 銚子—外川：四哩

房總線 千葉—勝浦：四三哩三

千葉 總武本線
蘇我 北條線

大網 東金線 大網—成東(總武本線)
大原 千葉縣營人車鐵道 大原—大多喜：九哩七

勝浦 勝浦
北條線 蘇我—大海：七二哩一

蘇我 房總線

木更津 久留里線 木更津—久留里—一四哩一
太海

磐 越 線

磐越西線 郡山—新津—一〇八哩二
郡山 東北本線
川桁 日本硫黃會社線 川桁—沼尻—九哩七
五泉 蒲原鐵道 五泉—村松—二哩六
新津 羽越線 信越本線

奧 羽 線

奧羽本線 福島—青森—三〇二哩三
福島 東北本線
糠ノ目 高島鐵道 糠ノ目—高島—三哩二
赤湯 一長井線 赤湯—荒砥—一九哩
二赤湯驛前—赤湯町—一哩一
山形 左澤線 山形—左澤—一六哩三
神町 谷地軌道 神町—谷地—三哩六
新庄 一陸羽西線 新庄—余目(羽越線)—二六哩四
二陸羽東線 新庄—小牛田—五八哩五
横手 一西橫黑線 横手—陸中川尻—一六哩一
二橫莊鐵道 横手—羽後大森—一二哩九
大曲 生保內線 大曲—生保內—二二哩一
秋田 羽越線
追分 船川線 追分—船川—一六哩五
五城目 五城目軌道 五城目—東五城目—二哩四
機械 能代線 機械—能代—二哩五
大館 一小板鐵道 1大館—茂內—小板—一七哩一 2茂
內—長木澤—二哩三 3大館—花岡—三哩一
二秋田鐵道 大館—陸中花輪—二二哩一
川部 一黑石線 川部—黑石—四哩一
二陸奥鐵道 川部—五所川原—一三哩四
青森 一東北本線
二青函連絡船

羽 越 線

羽越本線 新津—秋田—一六八哩九
新津 一信越線
二磐越西線

余目 陸羽西線
羽後本莊 橫莊鐵道 羽後本莊—前鄉—七哩三
秋田

函 館 線

函館本線 函館—旭川—二六五哩四
函館 一青函連絡船
二函館水電 1函館市内 2函館—湯川—三哩八
五稜郭 上磯線 五稜郭—上磯—五哩四
長萬部 長輪線 長萬部—靜狩—六哩六
黑松內 壽都鐵道 黑松內—壽都—一〇哩二
俱知安 京極線 俱知安—脇方—一三哩
小樽 岩內線 小樽—岩內—九哩三
小樽 手宮線 小樽—手宮—一哩七
札幌 一札幌電氣 1札幌市内 2札幌北六條—豐平
白石—定山溪鐵道 白石—豐平(札幌電氣)—定山溪—一八
哩六
江別 江別人車鐵道 江別—江別河岸—〇哩四
岩見澤 一室蘭本線
二幌內線 1岩見澤—幌內太—幾春別—一一哩三
2幌內太—幌內—一哩七
美唄 美唄鐵道 美唄—美唄炭山—五哩一
砂川 歌志內線 砂川—歌志內—九哩
深川 根室本線
留萌線 深川—増毛—四一哩五
旭川 一宗谷線
二富良野線 旭川—下富良野—三三哩九

宗 谷 線

宗谷本線 旭川—稚內—一七三哩五
旭川 函館本線
新旭川 石北線 新旭川—上川—三〇哩二
士別 士別軌道 士別—上士別—七哩七
名寄 名寄本線
音威子府 天鹽線 音威子府—問寒別—二八哩九
稚內 天鹽北線 稚內—兜沼—一六哩七

根 室 線

釧路本線 瀧川—根室—二七七哩九
瀧川 函館本線

本書は東京市小石川區
戸崎町博文館に翻刻發
賣させることとしまし
たから御希望の方は同
館又は一般書店で御買
求め下さい

大正十三年十月一日印刷
大正十三年十月五日發行

鐵道省

東京市下谷區二長町一番地
印刷者 井上源之丞
東京市下谷區二長町一番地
印刷所 凸版印刷株式會社

350
367

終